

花巻市

福祉に関するアンケート調査

－調査結果報告書－

令和6年3月

花巻市 保健福祉部 障がい福祉課

<目 次>

I	調査概要	1
II	調査結果（障がい者調査）	3
1	あなたのことについて.....	3
2	生活のことについて	9
3	相談支援・情報提供について	22
4	障がい福祉サービス等について.....	25
5	障がいのある方のための取り組みについて	31
6	災害時の対応について.....	36
7	自由記述.....	40
III	調査結果（障がい児調査）	43
1	あなたのことについて.....	43
2	障がいについて.....	49
3	生活のことについて	51
4	地域での暮らしや、今後の生活について	57
5	相談支援・情報提供について	63
6	障がい福祉サービス等について.....	68
7	障がいのある方のための取り組みについて	73
8	災害時の対応について.....	77
9	自由記述.....	79
IV	調査結果（事業所調査）	82
1	事業所の活動内容等について	82
2	事業所の運営等について.....	86
3	花巻市の障がい福祉施策について	91

I 調査概要

1 調査の目的

令和6年度から令和8年度までを計画期間とする「第7期障がい福祉計画・第3期障がい児福祉計画」を策定するにあたり、障がい者・児の日常生活の状況、障がい福祉施策に関する意見などをうかがい、計画づくりの参考資料として活用するため、アンケート調査を実施した。

2 調査期間

令和5年7月19日（水）～8月4日（金）

※集計には、8月28日（月）までの返送票を含めた

3 調査対象

障がい者（児）調査：身体障がい者手帳、療育手帳、精神障がい者保健福祉手帳の所持者
障がい児福祉サービス利用者（保護者）

事業所調査：市内の障がい福祉サービス事業所

4 調査方法

郵送配布・回収

5 回答状況

調査種別	配布数①	総回答数	有効回答数②	有効回答率 ②／①
障がい者調査（18歳以上）	2,000	807	806	40.3%
障がい児調査（18歳未満）	176	67	67	38.1%
事業所調査	37	26	26	70.3%

6 調査結果の見方

- n (number of cases) は回答割合算出における基数であり、100.0%が何人の回答に相当するかを表している。
- 回答割合は百分率で表し、小数点第2位を四捨五入して算出している。したがって、単一回答式の質問においては、回答割合を合計しても100.0%にならない場合がある。
また、複数回答式の質問においては、各設問の調査数を基数として算出するため、全ての選択肢の割合を合計すると100.0%を超える場合がある。
- 回答が皆無（0件）であった選択肢の回答割合は、図表中では「0.0」と表記している。
- 調査数（n）が少数のものは、回答割合の信頼性が低いため、コメントを省略している場合がある。
- 図表及びコメントで、選択肢の語句等を一部簡略化等している場合がある。

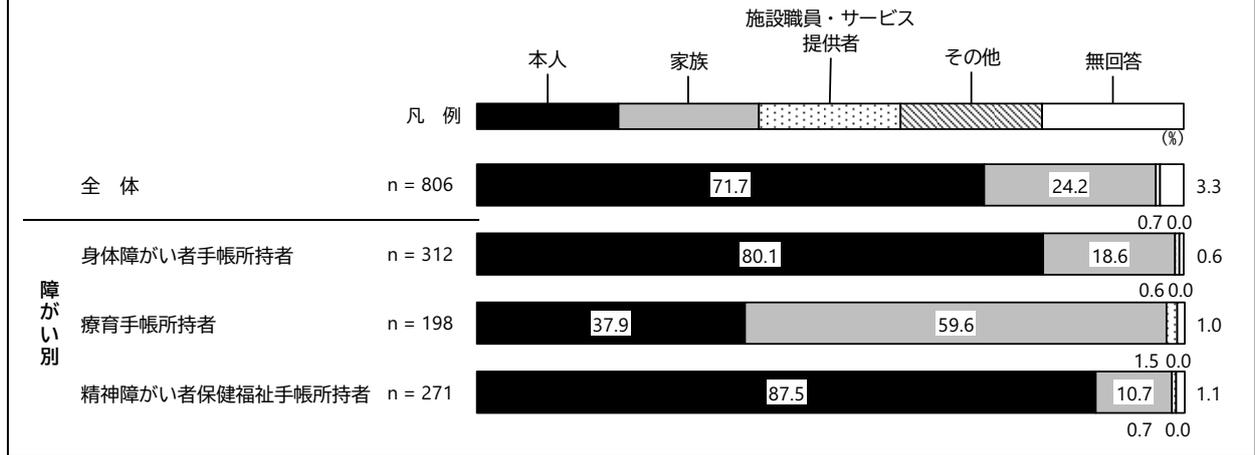
Ⅱ 調査結果（障がい者調査）

1 あなたのことについて

（1）調査票記入者

問1 この調査にお答えいただくのは、どなたですか。（○は1つだけ）

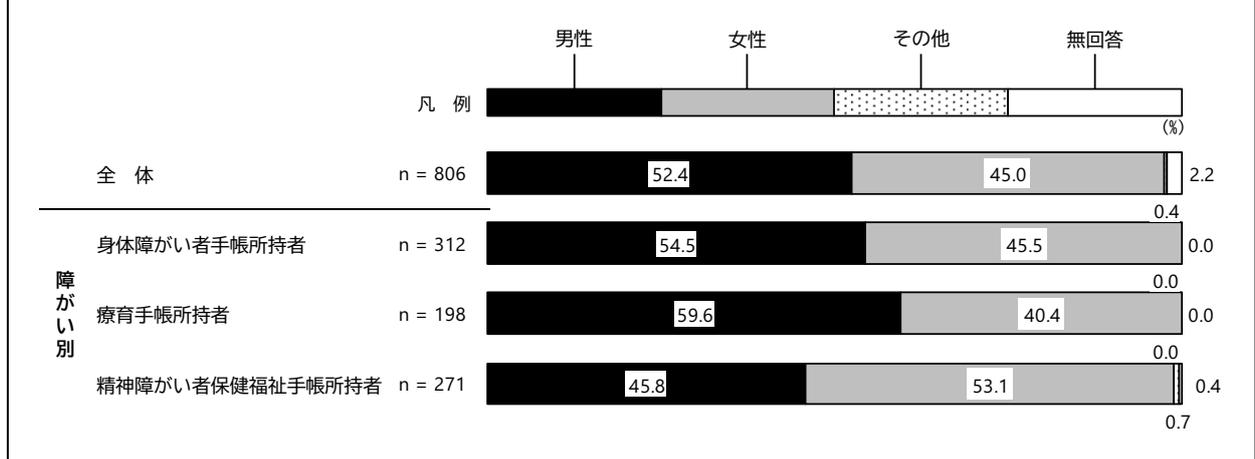
※本人は代筆を含む



（2）性別

問2 あなた（対象者）の性別をお答えください。（○は1つだけ）

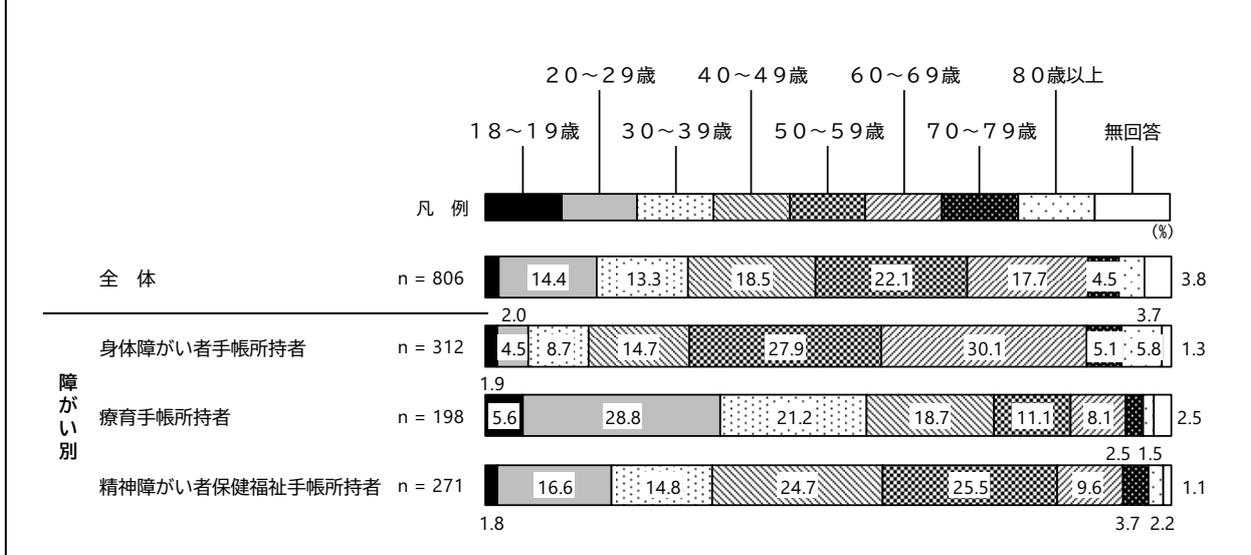
※性的違和を感じている方は、あなたの感じている性に○をつけてください



II 調査結果（障がい者調査）

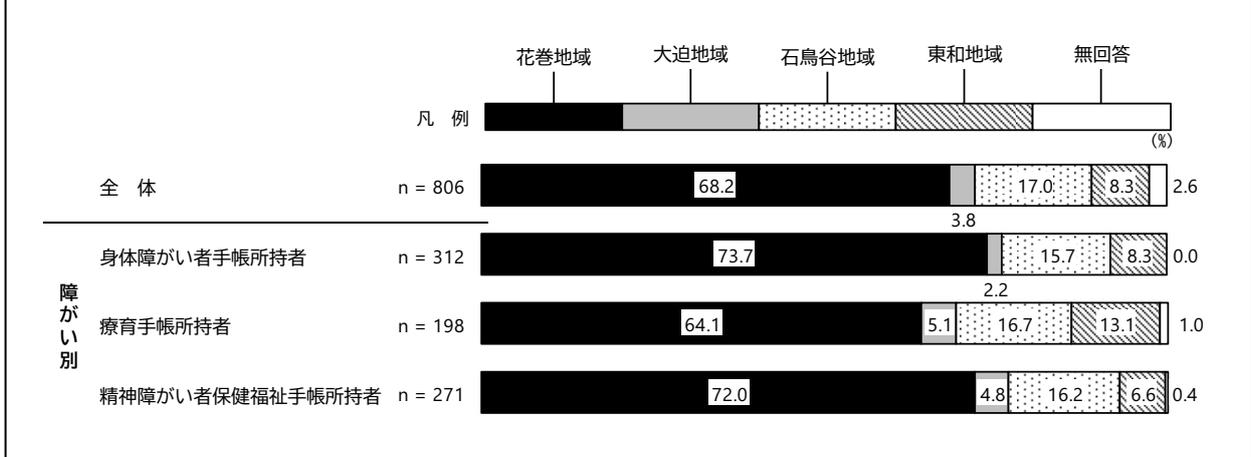
（3）年齢

問3 令和5年7月1日現在のあなた（対象者）の年齢をお答えください。（数字を記入）



（4）居住地区

問4 あなたがお住まいの地域はどこですか。（○は1つだけ）



(5) 障がい者手帳の所持状況

- ▶ 手帳の種類については、全体では「精神障がい者保健福祉手帳2級」が21.7%と最も高く、次いで「療育手帳B判定」(16.1%)、「身体障がい者手帳1級」(14.1%)となっている。

問5 あなたがお持ちの手帳はどれですか。(あてはまるものすべてに○)

		n	身体障がい者手帳1級	身体障がい者手帳2級	身体障がい者手帳3級	身体障がい者手帳4級	身体障がい者手帳5級	身体障がい者手帳6級	療育手帳A判定	療育手帳B判定	1級精神障がい者保健福祉手帳	2級精神障がい者保健福祉手帳	3級精神障がい者保健福祉手帳	いずれも持っていない	無回答
全	体	806	14.1	7.7	5.5	6.6	2.7	2.1	8.4	16.1	6.2	21.7	5.7	2.0	5.6
障がい別	身体障がい者手帳所持者	312	36.5	19.9	14.1	17.0	7.1	5.4	4.2	2.6	0.6	1.6	0.0	0.0	0.0
	療育手帳所持者	198	4.5	2.0	1.0	2.0	0.5	0.5	34.3	65.7	2.5	1.5	0.0	0.0	0.0
	精神障がい者保健福祉手帳所持者	271	1.1	0.7	0.0	0.7	0.0	0.0	0.0	3.0	18.5	64.6	17.0	0.0	0.0

(6) 障がいの種類

- ▶ 障がいの分類については、全体では「精神障がい」が33.7%と最も高く、次いで「知的障がい」(23.8%)、「肢体不自由(下肢)」(16.9%)となっている。

問6 あなたは、どのような障がいがありますか。(あてはまるものすべてに○)

		n	視覚障がい	聴覚・平衡機能障がい	音声・言語・そしゃく機能障がい	肢体不自由(上肢)	肢体不自由(下肢)	肢体不自由(体幹)	内部障がい	知的障がい	発達障がい	高次脳機能障がい	精神障がい	難病(特定疾患・小児慢性特定疾患)	強度行動障がい	その他	無回答
全	体	806	4.2	3.7	2.5	10.9	16.9	2.9	9.7	23.8	12.9	2.6	33.7	4.0	0.4	3.6	5.6
障がい別	身体障がい者手帳所持者	312	7.7	7.4	4.5	26.0	40.4	6.1	23.7	6.7	1.6	3.2	9.0	9.0	0.0	4.5	2.6
	療育手帳所持者	198	4.5	2.5	2.5	3.0	5.1	1.5	2.5	83.8	18.7	0.5	12.6	2.0	1.5	1.5	2.5
	精神障がい者保健福祉手帳所持者	271	1.5	1.1	0.0	1.5	2.2	0.4	0.0	6.6	23.2	3.0	82.3	1.8	0.0	3.3	2.6

II 調査結果（障がい者調査）

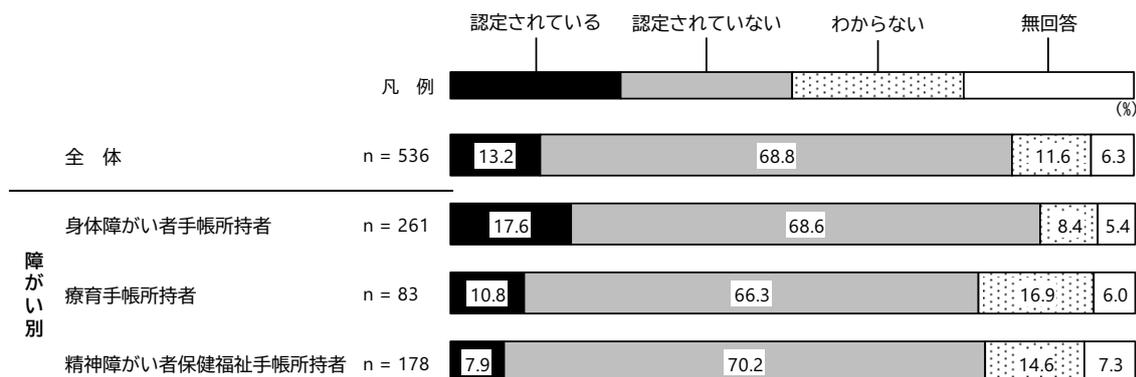
（7）要支援認定・要介護認定の状況

- ▶ 介護保険の要支援認定・要介護認定については、全体では「認定されていない」が68.8%、「認定されている」は13.2%となっている。
一方、「わからない」は11.6%となっている。
- ▶ 障がい別にみると、すべての手帳所持者で6割以上が「認定されていない」と回答している。

【問7・問7-1は、40歳以上の方にお聞きします】

問7 あなたは介護保険において要支援認定または要介護認定を受けていますか。

（○は1つだけ）

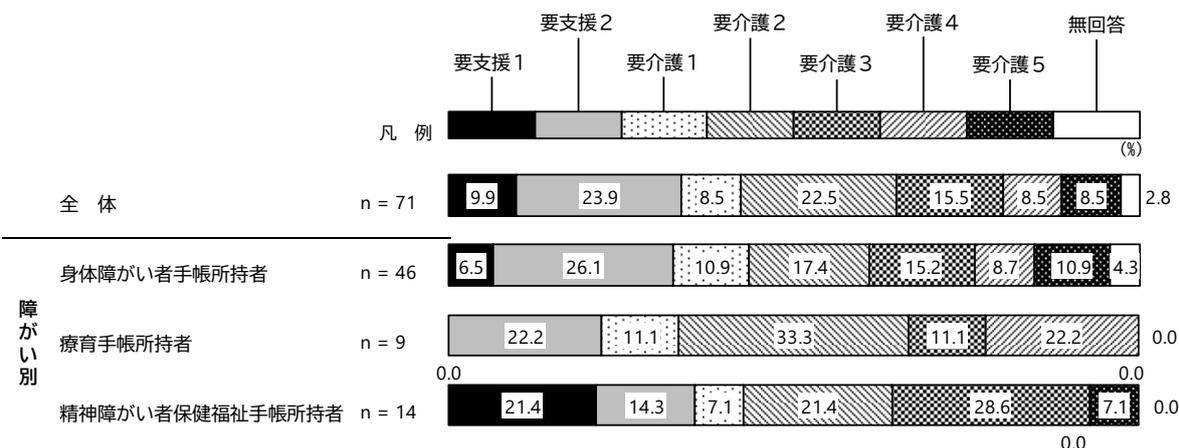


（8）要介護度

- ▶ 要介護度については、全体では「要支援2」が23.9%と最も高く、次いで「要介護2」（22.5%）、「要介護3」（15.5%）となっている。
- ▶ 障がい別にみると、身体障がい者手帳所持者については「要支援2」、療育手帳所持者については「要介護2」、精神障がい者保健福祉手帳所持者については「要介護3」が最も高くなっている。

【要支援認定または要介護認定を受けている方にお聞きします】

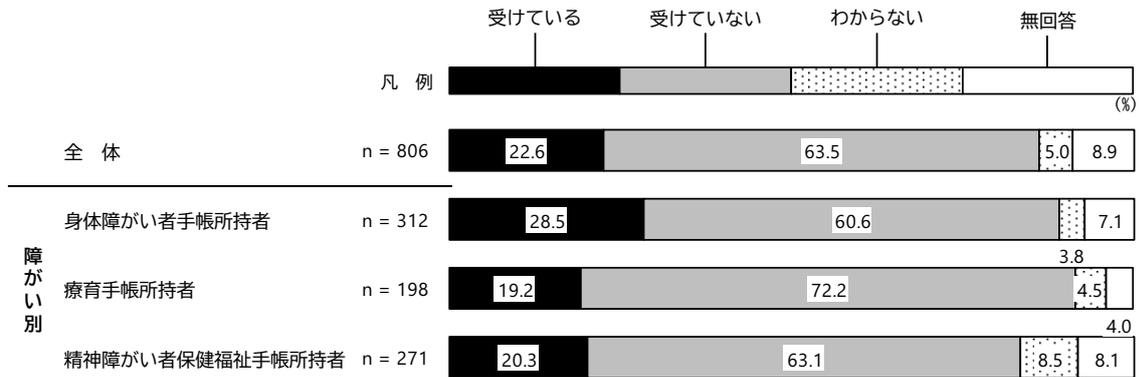
問7-1 あなたの要介護度をご回答ください。（○は1つだけ）



(9) 医療的ケアの利用状況

- ▶ 現在医療的ケアを受けているかについては、全体では「受けていない」が63.5%と最も高く、次いで「受けている」(22.6%)、「わからない」(5.0%)となっている。
- ▶ 障がい別にみると、すべての手帳所持者で6割以上が「受けていない」と回答している。

問8 あなたは、現在医療的ケアを受けていますか。(○は1つだけ)



(10) 利用している医療的ケアの内容

- ▶ 現在受けている医療的ケアについては、全体では「服薬管理」が57.1%と最も高く、次いで「透析」(13.2%)、「ストーマ（人工肛門・人工膀胱）」(6.0%)となっている。
- ▶ 障がい別にみると、すべての手帳所持者で「服薬管理」が最も高くなっている。

問8-1 あなたが現在受けている医療的ケアをご回答ください。
(あてはまるものすべてに○)

		n	気管切開	人工呼吸器(レスピレーター)	吸入	吸引	胃ろう・腸ろう	鼻腔経管栄養	中心静脈栄養 (IVH)	透析	カテーテル留置	ストーマ(人工肛門・人工膀胱)	服薬管理	その他	無回答
全体		182	1.1	0.0	1.1	3.3	1.1	0.5	0.0	13.2	2.2	6.0	57.1	21.4	4.4
障がい別	身体障がい者手帳所持者	89	2.2	0.0	0.0	5.6	2.2	0.0	0.0	27.0	3.4	11.2	32.6	22.5	9.0
	療育手帳所持者	38	0.0	0.0	2.6	2.6	0.0	2.6	0.0	5.3	0.0	2.6	71.1	21.1	0.0
	精神障がい者保健福祉手帳所持者	55	0.0	0.0	1.8	1.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	83.6	23.6	0.0

II 調査結果（障がい者調査）

(11) 同居者

- ▶ 同居者については、全体では「父母・祖父母・兄弟姉妹（兄弟姉妹の配偶者を含む）」が46.4%と最も高く、次いで「配偶者またはパートナー（や子ども）」（28.3%）、「ひとり暮らし」（23.0%）となっている。
- ▶ 障がい別にみると、身体障がい者手帳所持者では「配偶者またはパートナー（や子ども）」、療育手帳所持者と精神障がい者保健福祉手帳所持者では「父母・祖父母・兄弟姉妹（兄弟姉妹の配偶者を含む）」が最も高くなっている。

問9 あなたと同居している方はどなたですか。（あてはまるものすべてに○）

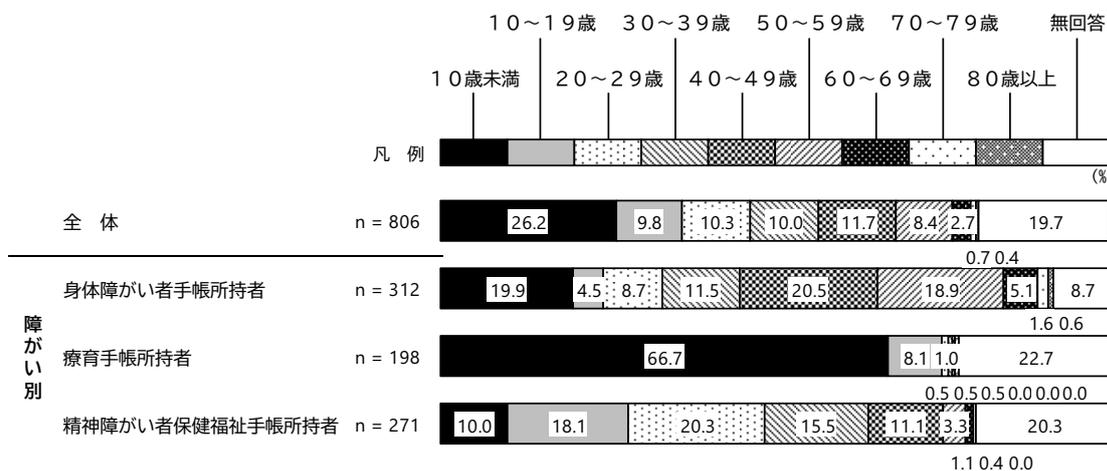
※グループホーム・福祉施設などをご利用の方は「1.ひとり暮らし」とご回答ください。

		n	ひとり暮らし	配偶者またはパートナー（や子ども）	父母・祖父母・兄弟姉妹の配偶者・兄弟姉妹を含む	その他の親族	友人・知人	ボランティア	その他	無回答
全 体		806	23.0	28.3	46.4	2.0	0.4	0.0	1.7	4.1
障がい別	身体障がい者手帳所持者	312	21.5	47.1	34.6	1.3	0.3	0.0	1.6	2.6
	療育手帳所持者	198	21.2	4.0	70.2	3.5	0.0	0.0	2.0	1.5
	精神障がい者保健福祉手帳所持者	271	27.3	24.7	48.0	1.8	0.0	0.0	1.5	1.5

(12) 障がいが生じた年齢

- ▶ 障がいが生じた年齢については、全体では「10歳未満」が26.2%と最も高く、次いで「40～49歳」（11.7%）、「20～29歳」（10.3%）となっている。
- ▶ 障がい別にみると、身体障がい者手帳所持者では「40～49歳」、療育手帳所持者では「10歳未満」、精神障がい者保健福祉手帳所持者では「20～29歳」が最も高くなっている。

問10 あなたに障がいが生じたのはいつですか。（数字を記入）



2 生活のことについて

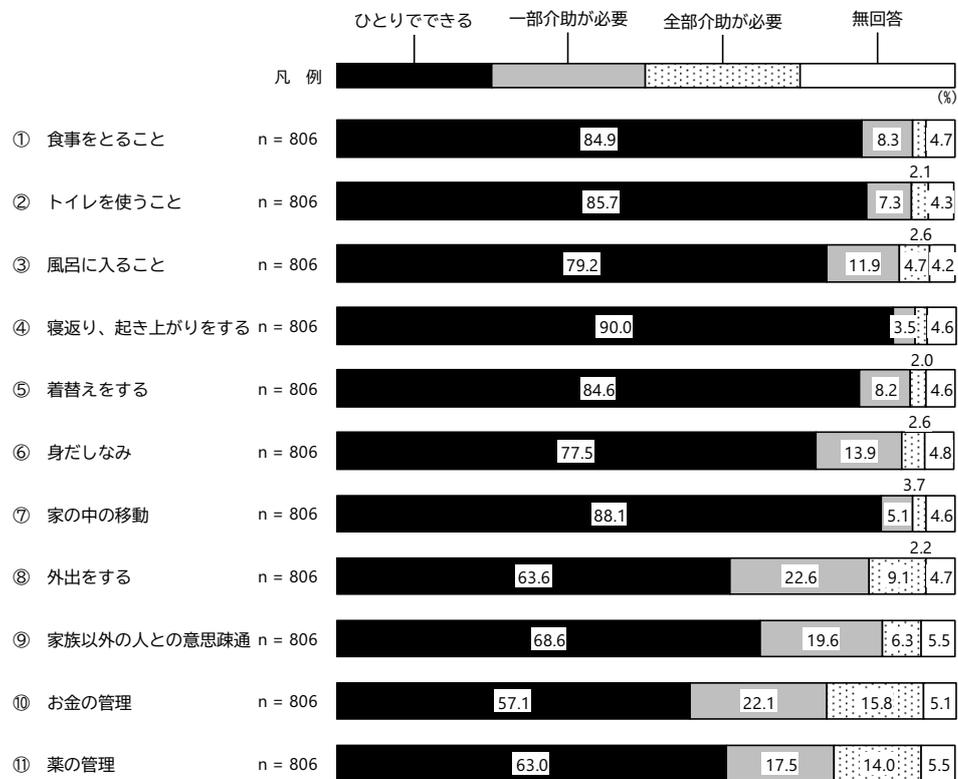
(1) 日常生活動作

- ▶ 日常生活については、全体では「ひとりでできる」という回答割合が最も多かったのは、「④寝返り、起き上がりをする」(90.0%)で、以下「⑦家の中の移動」(88.1%)、「②トイレを使うこと」(85.7%)、「①食事をとること」(84.9%)となっている。
- ▶ 障がい別にみると、「ひとりでできる」こととして、身体障がい者手帳所持者と療育手帳所持者は「④寝返り、起き上がりをする」、精神障がい者保健福祉手帳所持者は「②トイレを使うこと」が、最も高くなっている。

問 11 日常生活で、次のことをどのようにしていますか。

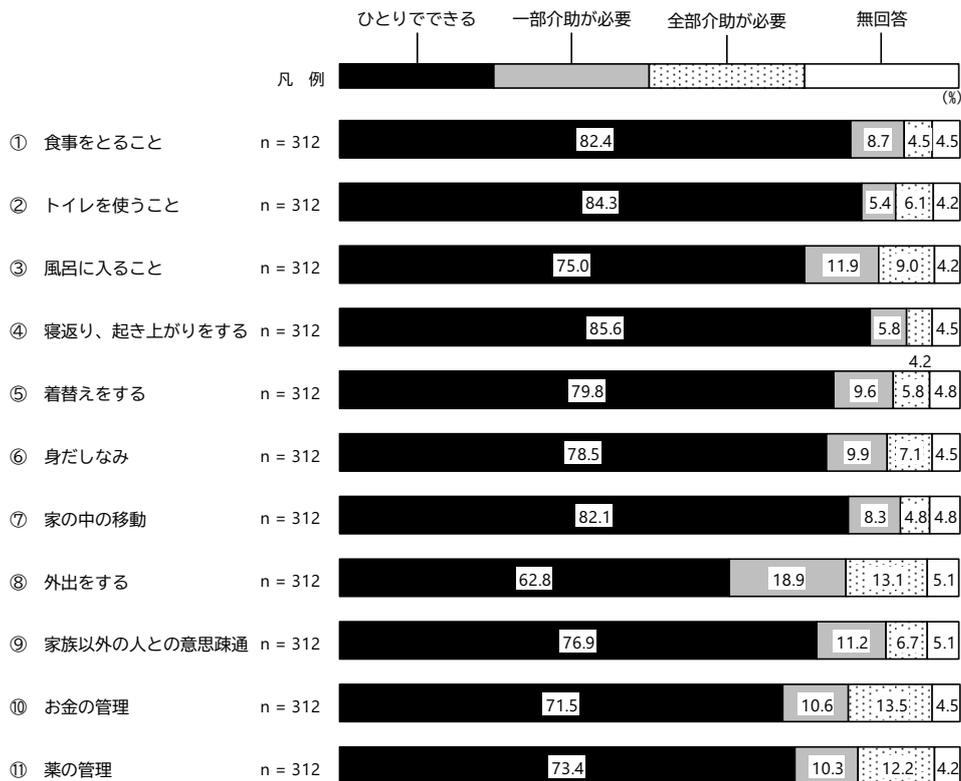
①から⑪のそれぞれにお答え下さい。(①から⑪それぞれに○を1つ)

■全体

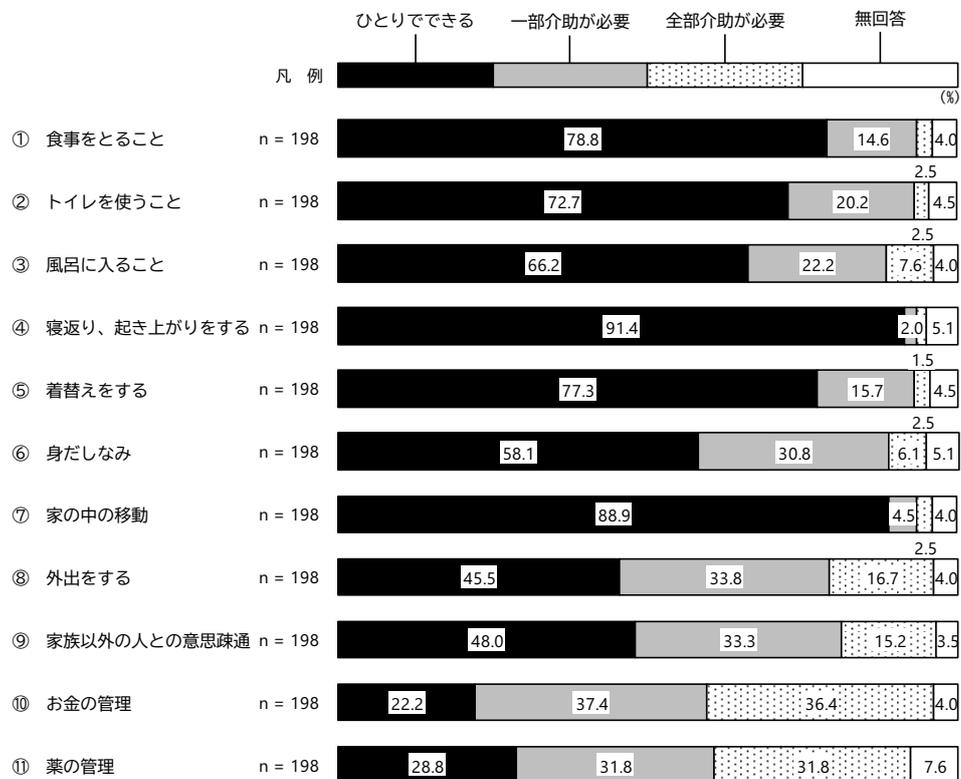


II 調査結果（障がい者調査）

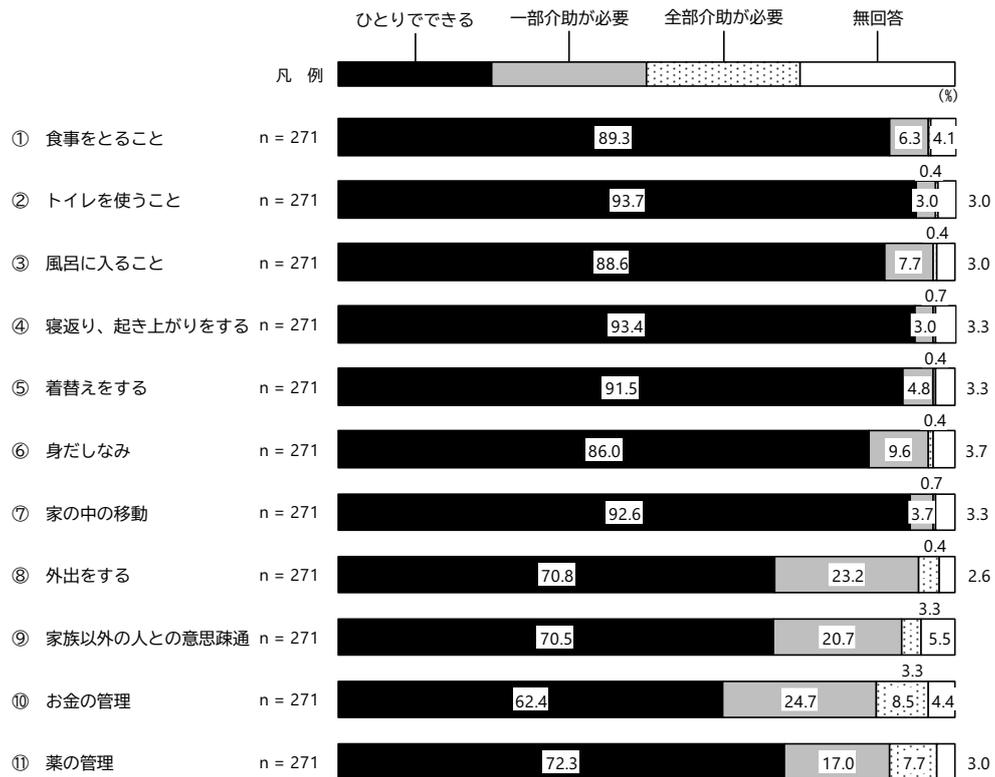
■身体障がい者手帳所持者



■療育手帳所持者



■精神障がい者保健福祉手帳所持者



II 調査結果（障がい者調査）

（2）主に世話をしてくれる方

- ▶ 主にお世話をしてくれる方については、全体では「父母・祖父母・兄弟姉妹（兄弟姉妹の配偶者を含む）」が 50.4%と最も高く、次いで「ホームヘルパーや施設の職員」（29.6%）、「配偶者またはパートナー」（16.5%）となっている。
- ▶ 障がい別にみると、すべての手帳所持者で「父母・祖父母・兄弟姉妹（兄弟姉妹の配偶者を含む）」が最も高くなっている。

【問 11 で「一部介助が必要」又は「全部介助が必要」と回答した方にお聞きします】

問 11-1 あなたの世話をしてくれる方は主にどなたですか。

（あてはまるものすべてに○）

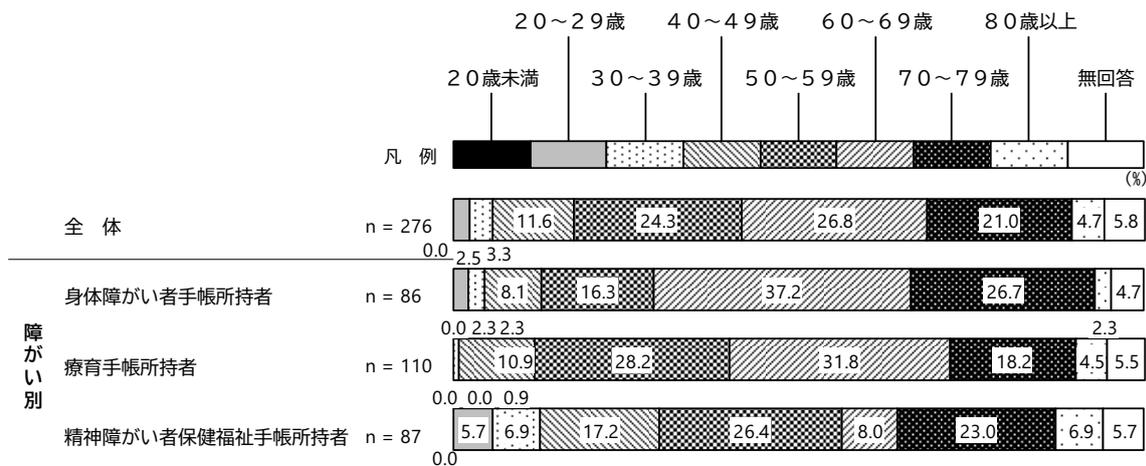
		n	配偶者またはパートナー	父母・祖父母・兄弟姉妹の配偶者を含む	子ども（子どもの配偶者を含む）	孫（孫の配偶者を含む）	その他の親族	友人・知人・隣人	ホームヘルパーや施設の職員	その他の人（ボランティア等）	無回答
全体		399	16.5	50.4	6.8	0.8	1.8	3.3	29.6	3.3	10.0
障がい別	身体障がい者手帳所持者	121	28.9	38.8	14.0	1.7	1.7	5.0	28.9	4.1	8.3
	療育手帳所持者	156	0.6	69.9	0.0	0.0	3.2	0.6	32.7	2.6	9.6
	精神障がい者保健福祉手帳所持者	127	22.8	42.5	6.3	0.8	0.0	3.1	28.3	3.1	9.4

(3) 主に世話をしてくれる家族の方の年齢

- ▶ 主にお世話をしてくれる家族の方の年齢については、全体では「60～69歳」が26.8%と最も高く、次いで「50～59歳」（24.3%）、「70～79歳」（21.0%）となっている。
- ▶ 障がい別にみると、身体障がい者手帳所持者、療育手帳所持者では「60～69歳」、精神障がい者保健福祉手帳所持者では「50～59歳」が最も高くなっている。

【問11-1で1～4と方にお聞きします】

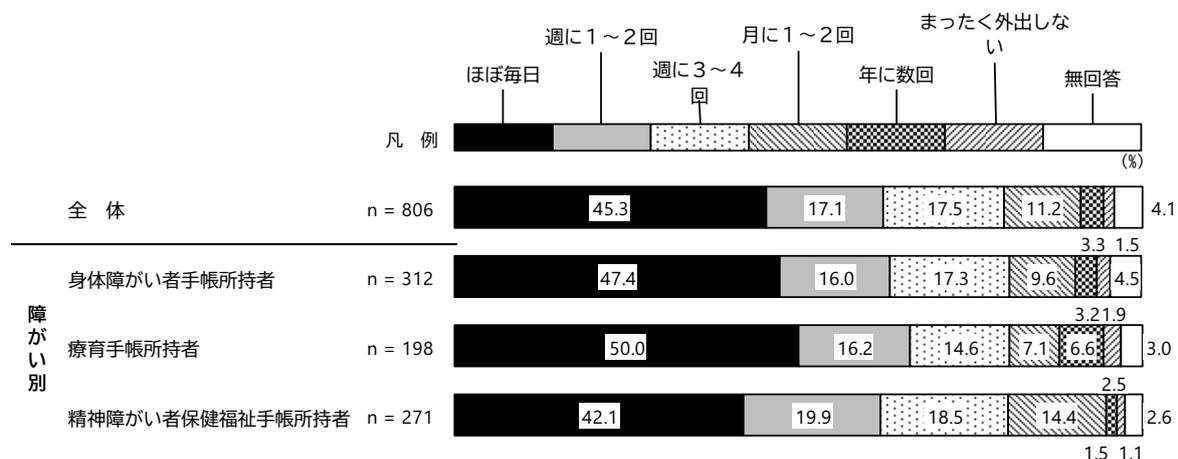
問11-2 問11-1で答えた「主にお世話をしてくれる家族の方」の年齢を教えてください。（数字を記入）



(4) 外出の頻度

- ▶ 外出の頻度については、全体では「ほぼ毎日」が45.3%と最も高く、次いで「週に3～4回」（17.5%）、「週に1～2回」（17.1%）となっている。
- ▶ 障がい別にみると、すべての手帳所持者で「ほぼ毎日」が最も高くなっている。

問12 あなたは、どのくらいの頻度で外出しますか。（○は1つだけ）



II 調査結果（障がい者調査）

（５）外出する際の主な同伴者

- ▶ 外出時の主な同伴者については、全体では「一人で外出する」が53.1%と最も高く、次いで「父母・祖父母・兄弟」（31.7%）、「ホームヘルパーや施設の職員」（16.7%）となっている。
- ▶ 障がい別にみると、身体障がい者手帳所持者と精神障がい者保健福祉手帳所持者では「一人で外出する」、療育手帳所持者は「父母・祖父母・兄弟」が最も高くなっている。

【問 12-1～3は、問 12 で「1. ほぼ毎日」～「5. 年に数回」と回答した方にお聞きします】

問 12-1 あなたが外出する際の主な同伴者はどなたですか。（あてはまるものすべてに○）

		n	父母・祖父母・兄弟	配偶者またはパートナー	子ども	ホームヘルパーや施設の職員	その他の人	一人で外出する	無回答
全 体		761	31.7	16.0	7.4	16.7	6.4	53.1	7.4
障がい別	身体障がい者手帳所持者	292	19.5	22.6	10.3	14.0	5.5	55.8	9.6
	療育手帳所持者	187	57.8	1.6	0.5	31.0	6.4	34.2	5.9
	精神障がい者保健福祉手帳所持者	261	31.4	18.0	8.8	10.0	8.8	62.1	6.1

（６）外出する目的

- ▶ 外出の目的については、全体では「買い物」が74.1%と最も高く、次いで「医療機関への受診」（62.7%）、「通勤」（33.0%）となっている。
- ▶ 障がい別にみると、すべての手帳所持者で「買い物」が最も高く6割以上となっている。

【問 12-1～3は、問 12 で「1. ほぼ毎日」～「5. 年に数回」と回答した方にお聞きします】

問 12-2 あなたが外出する目的をお答えください。（あてはまるものすべてに○）

		n	通勤	買い物	スポーツ、趣味の活動など	通園、通学	医療機関への受診	散歩	デイサービス、デイケア	施設への通所	友人・知人に会う	障がい者（児）団体の活動	グループ活動に参加する	その他	特になし	無回答
全 体		761	33.0	74.1	14.1	1.6	62.7	22.6	6.4	18.8	16.8	4.2	3.9	8.0	0.4	4.5
障がい別	身体障がい者手帳所持者	292	37.7	66.4	13.4	1.4	64.0	19.9	6.8	12.3	21.6	2.7	4.5	7.2	0.0	6.2
	療育手帳所持者	187	30.5	73.8	10.2	0.5	44.9	21.9	2.7	38.5	8.6	8.0	2.7	7.0	0.5	3.7
	精神障がい者保健福祉手帳所持者	261	30.7	80.5	17.6	3.1	75.1	26.8	8.8	16.1	19.5	4.2	4.2	8.4	0.8	3.4

（7）外出する際の手段

- ▶ 外出時の交通手段については、全体では「家族が運転する車」が46.8%と最も高く、次いで「本人が運転する車」(39.3%)、「徒歩」(30.7%)となっている。
- ▶ 障がい別にみると、身体障がい者手帳所持者では「本人が運転する車」、療育手帳所持者、精神障がい者保健福祉手帳所持者では「家族が運転する車」が最も高くなっている。

【問 12-1～3は、問 12 で「1.ほぼ毎日」～「5.年に数回」と回答した方にお聞きします】

問 12-3 あなたが外出する時の交通手段は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

		n	バス	本人が運転する車	家族が運転する車	友人・ボランティアの運転する車	バイク	電車	タクシー・介護タクシー	自転車	徒歩	車イス	その他	無回答
全 体		761	17.5	39.3	46.8	7.6	0.9	14.3	12.7	10.1	30.7	2.2	10.4	2.8
障がい別	身体障がい者手帳所持者	292	13.4	50.7	44.2	5.8	0.7	11.3	16.4	3.8	24.3	4.5	9.6	3.1
	療育手帳所持者	187	18.7	11.8	63.6	8.6	0.5	15.0	10.7	15.5	26.7	2.7	16.0	2.7
	精神障がい者保健福祉手帳所持者	261	21.1	44.1	44.8	6.9	1.1	18.0	11.5	14.6	39.5	0.0	8.4	2.7

（8）外出の際に困ることや外出しない理由

- ▶ 外出時に困ること・外出しない理由については、全体では「公共交通機関がない(少ない)」が27.8%と最も高く、次いで「外出にお金がかかる」(23.9%)、「困ったときにどうすればいいのか心配」(21.2%)となっている。
- ▶ 障がい別にみると、身体障がい者手帳所持者では「公共交通機関がない(少ない)」、療育手帳所持者では「困ったときにどうすればいいのか心配」、精神障がい者保健福祉手帳所持者では「公共交通機関がない(少ない)」「外出にお金がかかる」が最も高くなっている。

問 13 あなたが外出する際に困ること、または外出しない理由をお答えください。

(あてはまるものすべてに○)

		n	公共交通機関がない(少ない)	列車やバスの乗り降りが困難	道路や駅に階段や段差が多い	法切符の買い方や乗換えの方法がわかりにくい	外出先の建物の設備が不便(道路、トイレ、エレベーターなど)	介助者が確保できない	外出にお金がかかる	周囲の目が気になる	発作など突然の身体の変化が心配	困ったときにどうすればいいのか心配	その他	特にない	無回答
全 体		806	27.8	12.2	14.8	10.8	10.2	6.3	23.9	15.6	12.8	21.2	9.3	24.6	7.7
障がい別	身体障がい者手帳所持者	312	25.6	17.0	24.0	7.1	16.3	6.7	19.6	9.6	9.6	11.5	11.2	27.6	7.7
	療育手帳所持者	198	22.7	13.1	8.1	19.2	7.1	9.1	18.7	12.6	10.1	28.3	11.1	20.2	8.6
	精神障がい者保健福祉手帳所持者	271	35.1	9.6	11.4	12.2	6.6	5.2	35.1	26.6	19.9	30.3	7.4	18.8	7.0

II 調査結果（障がい者調査）

(9) 医療について困っていること

- ▶ 医療についての困りごとについては、全体では「医療費の負担が大きい」が19.1%と最も高く、次いで「専門的な治療を行う医療機関が身近にない」(15.8%)、「夜間や休日に調子が悪くなった場合受け入れてくれる医療機関が身近にない」(13.0%)となっている。
- ▶ 障がい別にみると、身体障がい者手帳所持者と精神障がい者保健福祉手帳所持者では、「医療費の負担が大きい」、療育手帳所持者では「障がいのため症状が正確に伝わらず、必要な治療が受けられない」が最も高くなっている。

問 14 あなたが医療について困っていることは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

	n	専門的な治療を行う医療機関が身近にない	専門的な治療を行う医療機関が身近にない	ちよつとした病気やけがのときに受け入れてくれる医療機関が身近にない	往診を頼める医師がいない	歯科診療を受けられない	医療費の負担が大きい	夜間や休日に調子が悪くなった場合受け入れてくれる医療機関が身近にない	夜間や休日に調子が悪くなった場合受け入れてくれる医療機関が身近にない	近所に診察してくれる医師がいない	障がい者への配慮が不十分	受診手続きや案内などがわからない	伝わりづらく、必要な治療が受けられない	入院のとき付き添いや個室を強いられる	通院するとき付き添いをしてくれる人がいない	診療を断られる	その他	無回答
全 体	806	15.8	8.6	7.2	4.3	3.8	19.1	13.0	8.9	7.7	9.6	2.0	6.1	2.0	13.4	37.3		
障がい別																		
身体障がい者手帳所持者	312	16.0	10.9	8.7	4.2	2.6	17.3	11.9	9.9	6.7	5.8	1.3	5.1	1.6	14.1	38.8		
療育手帳所持者	198	11.1	3.5	5.1	1.5	6.1	13.1	8.6	7.6	6.1	15.7	5.1	7.1	2.0	14.1	41.4		
精神障がい者保健福祉手帳所持者	271	17.7	9.2	7.4	6.3	3.7	24.4	19.2	9.2	10.3	11.1	1.5	8.1	3.0	10.7	33.6		

(10) 健康管理において、困っていること

- ▶ 健康管理における困りごとについては、全体では「栄養管理が難しい」が20.6%と最も高く、次いで「運動する場がない」(12.0%)、「服薬管理が難しい」(8.7%)となっている。
- 一方、「特にない」は47.5%となっている。
- ▶ 障がい別にみると、すべての手帳所持者で「栄養管理が難しい」が最も高くなっているが、4割以上が「特にない」と回答している。

問 15 あなたが健康管理において、困っていることは何ですか。

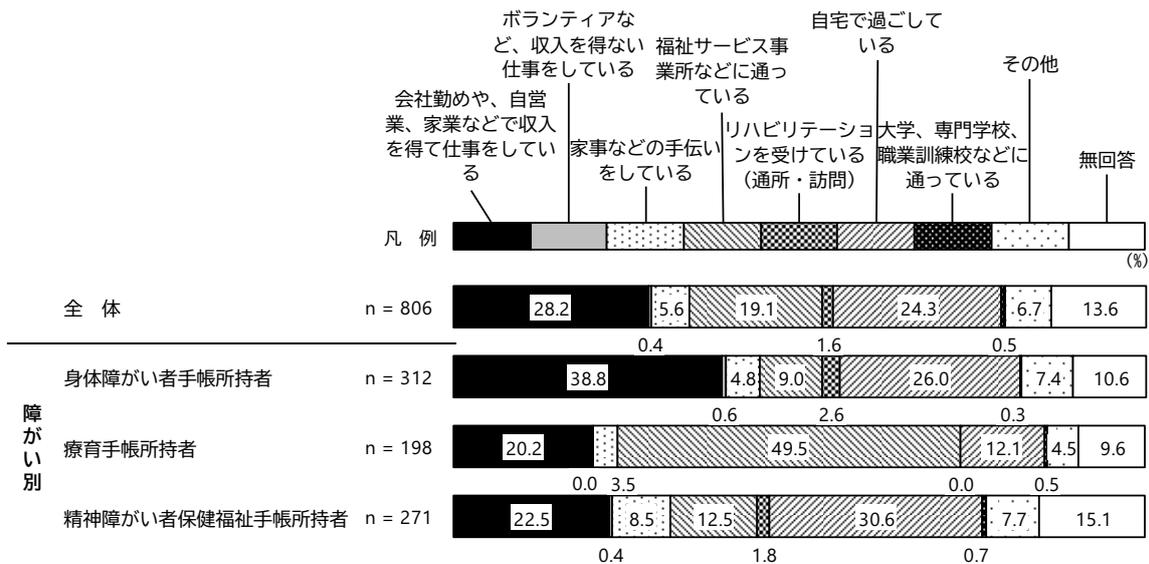
(あてはまるものすべてに○)

	n	定期的健康診断を受けられない	運動する場がない	服薬管理が難しい	栄養管理が難しい	その他	特にない	無回答
全 体	806	7.6	12.0	8.7	20.6	6.5	47.5	11.9
障がい別								
身体障がい者手帳所持者	312	5.4	10.9	4.5	19.6	4.8	51.6	12.2
療育手帳所持者	198	9.1	9.6	12.6	15.7	5.1	46.5	14.6
精神障がい者保健福祉手帳所持者	271	10.0	14.0	12.5	26.9	9.2	41.7	10.3

(11) 平日の日中の過ごし方

- ▶ 平日の日中の主な過ごし方については、全体では「会社勤めや、自営業、家業などで収入を得て仕事をしている」が28.2%と最も高く、次いで「自宅で過ごしている」(24.3%)、「福祉サービス事業所などに通っている」(19.1%)となっている。
- ▶ 障がい別にみると、身体障がい者手帳所持者は「会社勤めや、自営業、家業などで収入を得て仕事をしている」、療育手帳所持者では「福祉サービス事業所などに通っている」、精神障がい者保健福祉手帳所持者では、「自宅で過ごしている」が最も高くなっている。

問 16 あなたは、平日の日中を主にどのように過ごしていますか。(○は1つだけ)



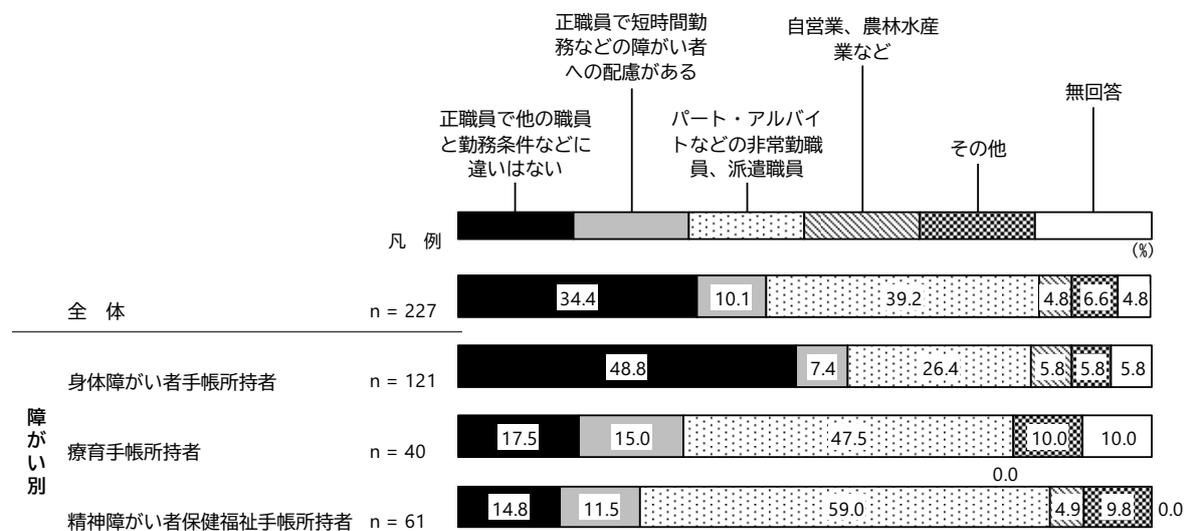
II 調査結果（障がい者調査）

(12) 現在の就労状況

- ▶ 勤務形態については、全体では「パート・アルバイトなどの非常勤職員、派遣職員」が39.2%と最も高く、次いで「正職員で他の職員と勤務条件などに違いはない」(34.4%)、「正職員で短時間勤務などの障がい者への配慮がある」(10.1%)となっている。
- ▶ 障がい別にみると、身体障がい者手帳所持者では「正職員で他の職員と勤務条件などに違いはない」、療育手帳所持者と精神障がい者保健福祉手帳所持者では「パート・アルバイトなどの非常勤職員、派遣職員」が最も高くなっている。

【問 16-1～2は、問 16 で「1. 会社勤めや、自営業、家業など収入を得て仕事をしている」と回答した方にお聞きします】

問 16-1 どのような勤務形態で働いていますか。(○は1つだけ)



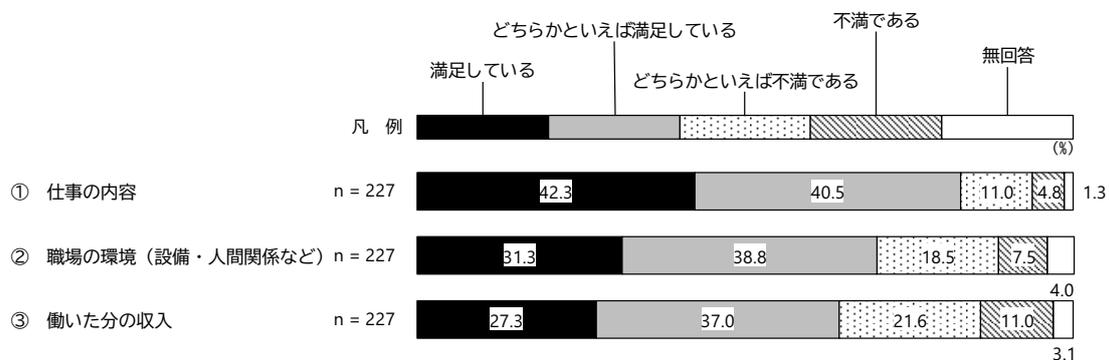
(13) 仕事や職場の満足度

- ▶ 仕事や職場の満足度については、全体では、「①仕事の内容」の満足度が高く、「満足している」(42.3%)と「どちらかといえば満足している」(40.5%)を合わせると8割以上が『満足している』と回答している。
- ▶ 障がい別に『満足している』割合についてみると、すべての手帳所持者で「①仕事の内容」が最も高くなっている。

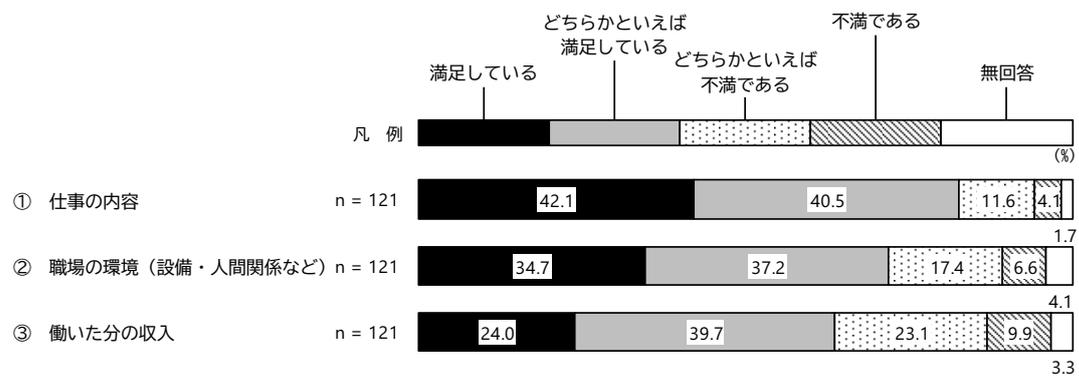
【問 16-1～2は、問 16 で「1. 会社勤めや、自営業、家業など収入を得て仕事をしている」と回答した方にお聞きします】

問 16-2 あなたの仕事や職場に満足していますか。(①～③それぞれ1つに○)

■全体

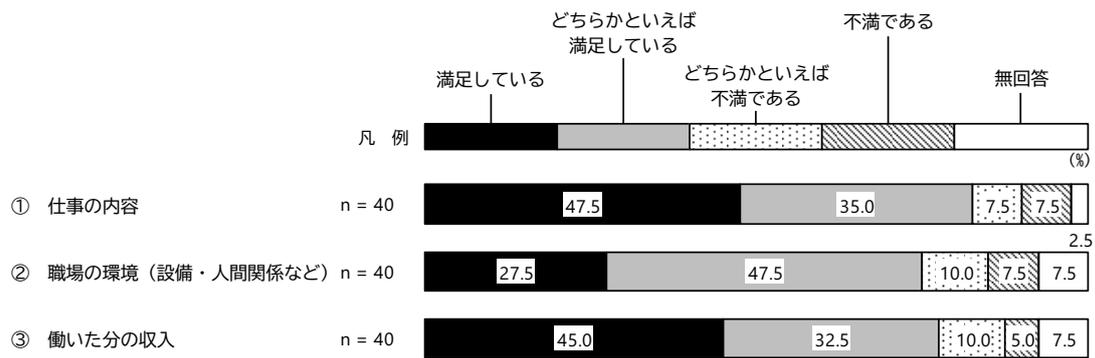


■身体障がい者手帳所持者

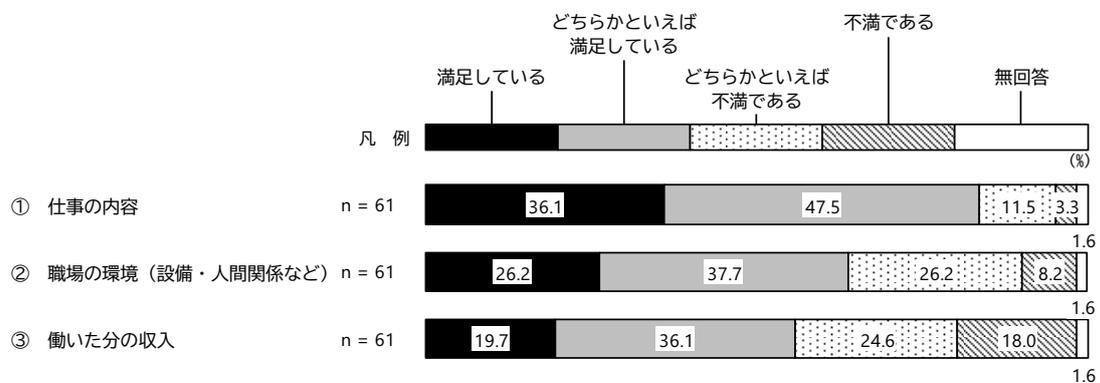


II 調査結果（障がい者調査）

■療育手帳所持者



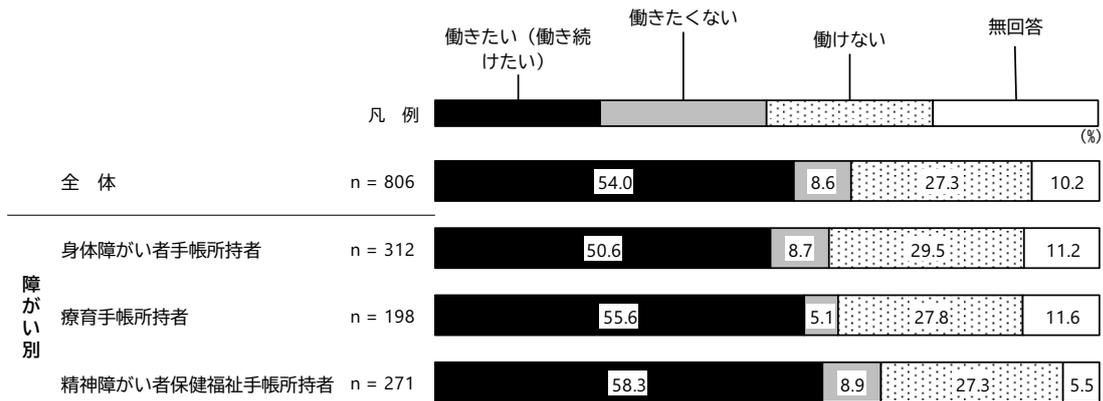
■精神障がい者保健福祉手帳所持者



(14) 今後の仕事について

- ▶ 今後働きたい（働き続けたい）と思うかについては、全体では「働きたい（働き続けたい）」が54.0%と最も高く、次いで「働きたくない」（8.6%）となっている。また、27.3%が「働けない」と回答している。
- ▶ 障がい別にみると、すべての手帳所持者で5割以上が「働きたい（働き続けたい）」となっている。また、すべての手帳所持者で約3割が「働けない」と回答している。

問 17 あなたは、今後、働きたい（働き続けたい）と思いますか。（○は1つだけ）



(15) 障がいのある方が働くために必要なこと

- ▶ 障がいのある方が働くために必要なことについては、全体では「障がい者に対する事業主や職場の仲間の理解があること」が56.6%と最も高く、次いで「障がい者にあつた就労条件（短時間労働など）が整っていること」（48.5%）、「生活できる給料がもらえること」（48.3%）となっている。
- ▶ 障がい別にみると、身体障がい者手帳所持者と療育手帳所持者では「障がい者に対する事業主や職場の仲間の理解があること」、精神障がい者保健福祉手帳所持者では「生活できる給料がもらえること」が最も高くなっている。

問 18 障がいのある方が働くには、どのようなことが必要だと思いますか。

（あてはまるものすべてに○）

	n	企業などが積極的に障がい者を雇うこと	施設・設備が整った職場の提供	（短時間労働など）が整った就労条件	生活できる給料がもらえること	障がい者に対する理解がある事業主や職場の仲間の存在	仕事の機会が充実していること	自営業を希望する障がい者への支援が充実していること	通勤（交通）手段が確保されていること	働く場の紹介（斡旋）や相談が充実していること	健康管理が充実していること	公営住宅やアパート、グループホームなどの住居が整備されていること	その他	無回答
全体	806	36.1	43.7	48.5	48.3	56.6	24.4	14.3	36.1	35.1	20.6	19.9	5.7	15.1
障がい別														
身体障がい者手帳所持者	312	38.1	47.1	47.4	45.2	57.4	19.2	14.7	33.0	33.3	20.2	15.4	5.4	13.8
療育手帳所持者	198	27.8	41.9	42.9	37.9	53.5	23.7	8.6	39.9	31.8	20.2	22.2	4.5	20.7
精神障がい者保健福祉手帳所持者	271	43.2	43.9	56.5	62.0	61.3	33.2	19.9	42.1	42.8	22.9	25.8	7.0	11.8

3 相談支援・情報提供について

(1) 相談相手

- ▶ 悩み事や心配事の相談相手については、全体では「家族や親族」が65.1%と最も高く、次いで「友人や知人」(25.1%)、「障がい者施設の職員」(23.8%)となっている。
- ▶ 障がい別にみると、すべての手帳所持者で「家族や親族」が最も高くなっている。

問 19 あなたがふだんの悩み事や心配事を相談する方はどなたですか。

(あてはまるものすべてに○)

																	(%)		
n		家族や親族	友人や知人	隣近所の人	職場関係の人	医療機関の職員	市役所の職員	民生委員・児童委員	社会福祉協議会の職員	障がい者施設の職員	ホームヘルパー	保健所の職員	知的障がい者相談員や身体障がい者相談員	相談支援事業所などの民間の相談窓口	障がい者(児)団体	その他	相談する人はいない	無回答	
全	体	806	65.1	25.1	2.9	11.0	22.0	7.2	1.9	8.2	23.8	2.4	1.1	8.8	8.3	2.5	4.1	6.9	4.7
障がい別	身体障がい者手帳所持者	312	68.6	28.5	3.2	12.8	18.6	7.7	1.9	8.7	11.5	3.5	1.0	5.4	5.1	2.2	4.2	7.7	4.5
	療育手帳所持者	198	65.2	17.2	2.5	9.1	12.1	7.1	1.5	6.6	44.4	2.5	1.0	23.7	12.6	4.5	3.5	3.5	6.6
	精神障がい者保健福祉手帳所持者	271	63.8	26.9	1.8	10.0	34.7	5.9	1.8	8.1	24.7	1.5	1.1	5.2	9.2	1.5	5.2	7.4	3.0

(2) 相談したいこと

- ▶ 悩み事や心配事など、相談したいことについては、全体では「自分の病気や障がいに関すること」が39.2%と最も高く、次いで「高齢になったときのこと」(34.0%)、「経済的なこと」(31.5%)となっている。
- ▶ 障がい別にみると、身体障がい者手帳所持者では「自分の病気や障がいに関すること」、療育手帳所持者では「高齢になったときのこと」、精神障がい者保健福祉手帳所持者では「経済的なこと」が最も高くなっている。

問 20 あなたの悩み事や心配事など、相談したいことは何ですか。

(あてはまるものすべてに○)

																	(%)	
n		自分の病気や障がいに関すること	家族関係のこと	仕事のこと	仲間(仲間)のこと	社会復帰に関すること	生活に関すること	経済的なこと	福祉サービスのこと	将来のこと(仕事、住まい、結婚など)	災害が発生したときのこと	高齢になったときのこと	虐待やネグレクトに関すること	その他	今はない	人に相談したくない	無回答	
全	体	806	39.2	17.6	23.6	10.9	11.4	22.0	31.5	12.8	29.3	10.8	34.0	2.9	3.0	14.3	1.1	7.6
障がい別	身体障がい者手帳所持者	312	38.8	14.4	19.2	6.1	7.1	20.2	28.5	9.3	22.4	12.5	34.0	1.3	2.6	16.3	1.0	5.8
	療育手帳所持者	198	27.8	11.1	17.7	14.1	4.0	14.1	14.6	13.1	28.8	12.1	32.8	2.0	2.5	17.2	0.5	13.6
	精神障がい者保健福祉手帳所持者	271	46.1	27.3	33.6	14.8	21.8	30.3	46.9	17.3	39.1	8.5	36.2	5.2	4.4	10.3	1.1	4.4

(3) 相談しやすい体制を作るために必要なこと

- ▶ 福祉サービスについて相談しやすい体制を作るために必要なことについては、全体では「専門的・継続的に相談に応じてくれる人が配置されていること」が43.9%と最も高く、次いで「1か所で用件を済ますことのできる総合的な窓口があること」(37.7%)、「地域の身近なところで相談できること」(36.1%)となっている。
- ▶ 障がい別にみると、すべての手帳所持者で「専門的・継続的に相談に応じてくれる人が配置されていること」が最も高くなっている。

問 21 福祉サービスについて相談しやすい体制を作るために、どのようなことが必要だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

		n	(%)							
			地域の身近なところで相談できること	電話、ファックス、メールなどを使って相談できること	平日の昼間以外も相談できること	1か所で用件を済ますことのできる総合的な窓口があること	専門的・継続的に相談に応じてくれる人が配置されていること	その他	わからない	無回答
全 体		806	36.1	22.8	25.3	37.7	43.9	3.3	17.4	9.8
障がい別	身体障がい者手帳所持者	312	34.6	21.5	23.1	41.3	42.0	3.2	15.4	8.7
	療育手帳所持者	198	29.3	15.7	18.7	31.3	46.5	3.0	18.7	11.6
	精神障がい者保健福祉手帳所持者	271	42.8	31.4	33.6	40.6	49.4	3.7	17.3	7.4

(4) 情報の入手先

- ▶ 福祉サービスに関する情報源については、全体では「家族や親族」が21.1%と最も高く、次いで「サービスを受けている事業所や施設」(20.6%)、「市の広報誌、チラシ」(20.0%)となっている。
- ▶ 障がい別にみると、身体障がい者手帳所持者では「市の広報誌、チラシ」、療育手帳所持者では「サービスを受けている事業所や施設」、精神障がい者保健福祉手帳所持者では「インターネット」が最も高くなっている。

問 22 あなたは、福祉サービスに関する情報をどこから入手していますか。

(あてはまるものすべてに○)

		n	(%)																					
			家族や親族	友人・知人	上司・同僚	保健所の窓口	市役所の窓口	市の広報誌、チラシ	市のホームページ	民生委員・児童委員	社会福祉協議会	サービスを受けている事業所や施設	主治医や看護師	病棟のケースワーカーや介護保険のケアマネジャー	知的障がい者相談員や身体障がい者相談員	ホームヘルパー	相談支援事業所などの民間の相談窓口	障がい者（児）団体	インターネット	テレビ・ラジオ・新聞・雑誌	その他	など入手できるかわからない	特になし・情報は入手していません	無回答
全 体		806	21.1	10.3	2.4	1.9	17.4	20.0	6.7	1.7	8.2	20.6	13.3	13.3	7.8	2.1	7.3	3.1	15.5	9.7	0.6	6.2	12.7	6.6
障がい別	身体障がい者手帳所持者	312	20.5	8.0	1.9	2.2	19.9	26.9	9.6	1.9	9.6	12.8	14.7	15.7	4.5	3.5	4.2	2.2	16.0	9.0	1.3	4.2	16.3	3.8
	療育手帳所持者	198	25.3	9.6	3.0	2.0	16.7	11.1	1.5	2.5	5.1	38.9	8.1	6.6	23.7	2.0	12.6	6.1	6.1	7.1	1.0	6.1	10.1	9.6
	精神障がい者保健福祉手帳所持者	271	19.9	12.2	2.6	1.8	16.6	19.2	7.4	1.1	8.9	18.8	17.0	18.1	3.0	1.1	7.7	2.6	22.5	11.8	0.0	8.5	9.2	4.8

II 調査結果（障がい者調査）

（５）今後、充実してほしい情報について

- ▶ 今後充実して欲しい情報については、全体では「困ったときの相談機関・場所の情報」が 45.4%と最も高く、次いで「福祉サービスの具体的内容や利用方法などに関する情報」（43.1%）、「社会情勢や福祉制度の変化に関する情報」（24.7%）となっている。
- ▶ 障がい別にみると、身体障がい者手帳所持者では「福祉サービスの具体的内容や利用方法などに関する情報」、療育手帳所持者と精神障がい者保健福祉手帳所持者では「困ったときの相談機関・場所の情報」が最も高くなっている。

問 23 あなたは、今後どのような情報を充実してほしいと思いますか。

（あてはまるものすべてに○）

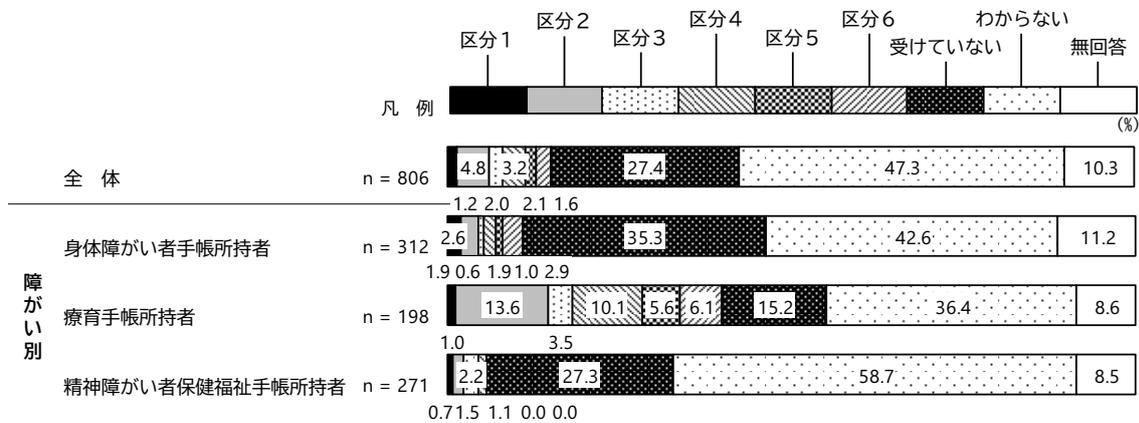
		n	報 や福 利社 用サ ーバ ーシ スな どに 具 体 的 内 容	所 困 つ た と き の 相 談 機 関 ・ 場	医 療 機 関 に 関 する 情 報	就 職 に 関 する 情 報	報 災 害 時 の 対 応 に つ い て の 情	に 社 会 情 勢 や 福 祉 制 度 の 変 化	そ の 他	特 に な い	無 回 答
全 体		806	43.1	45.4	23.1	18.7	16.1	24.7	2.6	15.9	9.3
障 が い 別	身体障がい者手帳所持者	312	46.2	42.3	25.3	13.1	17.6	23.4	1.6	14.1	7.7
	療育手帳所持者	198	39.9	44.4	17.2	10.1	16.2	25.3	4.0	16.7	11.6
	精神障がい者保健福祉手帳所持者	271	46.1	51.3	26.9	32.5	16.6	28.8	3.0	17.0	6.3

4 障がい福祉サービス等について

（1）障がい支援区分の認定

- ▶ 障がい支援区分の認定については、全体では約5割が「わからない」、約3割が「受けていない」と回答している。
認定を受けている人の中では、「区分2」（4.8%）が比較的高くなっている。
- ▶ 障がい別にみると、身体障がい者手帳所持者については「受けていない」と「わからない」が共に約4割となっている。
療育手帳所持者では「わからない」（36.4%）、「受けていない」（15.2%）となっている。
また、精神障がい者保健福祉手帳所持者については「わからない」が5割以上となっている。

問 24 あなたは、障がい支援区分の認定を受けていますか。（○は1つだけ）

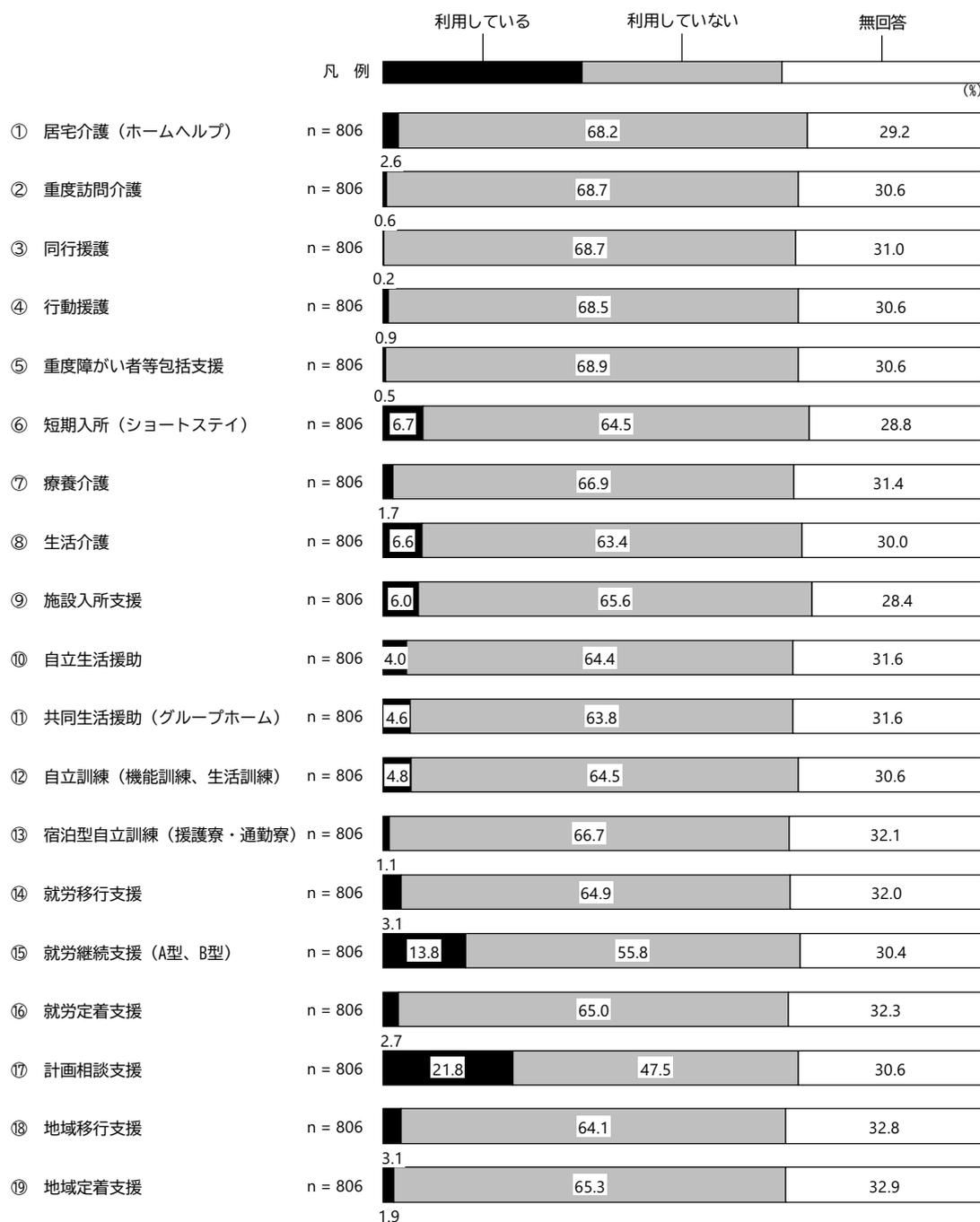


II 調査結果（障がい者調査）

（２）現在利用している障がい福祉サービス等

▶ 現在利用している障がい福祉サービスについては、「⑰計画相談支援」の利用割合が21.8%と、最も高くなっている。

問 25 あなたは次のサービスを利用していますか。①から⑲のサービスごとに、お答えください。（番号に○をしてください）



(3) 障がい福祉サービスを利用しない理由

▶ 障がい福祉サービスを利用しない理由については、すべてのサービスで「サービスを受ける必要がないため」が最も高くなっている。

問 25 現在の利用で「2. 利用していない」と答えた場合、その理由をお答えください。

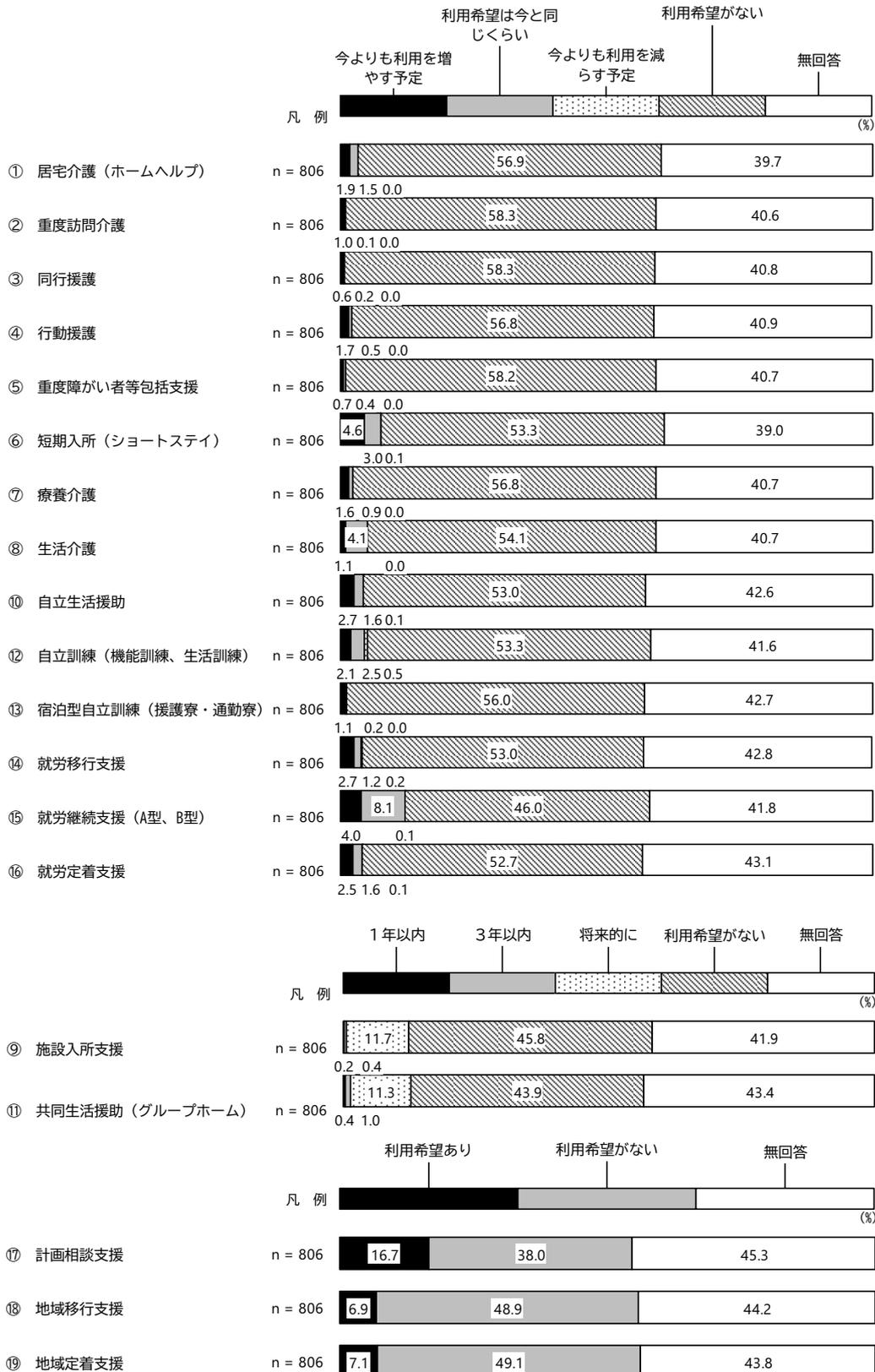
	n	サービスを受ける必要がないため	サービスの対象者に含まれないため	既に別のサービスの提供を受けているため	サービス利用時間の都合が合わないため	地域に相談支援事業所がないため	引き受けしてくれる相談支援事業所が見つからないため	利用料金がかかるため	サービスがあることを知らなかったため	その他	無回答
① 居宅介護（ホームヘルプ）	550	68.7	6.7	2.9	0.2	0.4	0.2	0.7	1.8	0.5	17.8
② 重度訪問介護	554	68.2	9.2	2.5	0.2	0.2	0.2	0.4	1.8	0.4	17.0
③ 同行援護	554	66.8	10.6	2.0	0.2	0.2	0.0	0.4	1.8	0.7	17.3
④ 行動援護	552	66.1	9.1	2.2	0.2	0.2	0.5	0.5	2.9	0.7	17.6
⑤ 重度障がい者等包括支援	555	65.9	10.1	2.7	0.0	0.4	0.2	0.5	2.5	0.4	17.3
⑥ 短期入所（ショートステイ）	520	68.8	6.0	2.7	0.8	0.0	0.4	0.4	1.3	2.1	17.5
⑦ 療養介護	539	67.2	10.2	2.6	0.2	0.0	0.6	0.4	1.1	0.6	17.3
⑧ 生活介護	511	68.7	8.0	2.3	0.4	0.0	0.4	0.8	1.2	0.6	17.6
⑨ 施設入所支援	529	69.0	7.8	1.5	0.6	0.0	1.3	0.6	1.5	0.9	16.8
⑩ 自立生活援助	519	59.2	10.0	4.8	0.4	0.2	1.0	0.6	3.7	3.5	16.8
⑪ 共同生活援助（グループホーム）	514	61.1	8.4	3.7	0.6	0.2	1.4	1.6	2.5	3.3	17.3
⑫ 自立訓練（機能訓練、生活訓練）	520	60.4	9.2	2.5	0.6	0.4	1.0	0.6	4.6	2.7	18.1
⑬ 宿泊型自立訓練（援護寮・通勤寮）	538	59.1	9.9	2.6	0.2	0.0	0.7	0.7	5.6	2.4	18.8
⑭ 就労移行支援	523	53.5	10.1	4.4	0.4	0.2	1.5	0.8	5.7	5.0	18.4
⑮ 就労継続支援（A型、B型）	450	52.4	9.3	3.1	0.9	0.2	2.2	1.6	5.1	6.2	18.9
⑯ 就労定着支援	524	53.4	10.9	4.4	0.4	0.0	1.1	0.6	6.5	4.0	18.7
⑰ 計画相談支援	383	59.5	5.7	1.8	0.0	0.0	1.3	0.5	8.6	4.7	17.8
⑱ 地域移行支援	517	58.2	10.8	3.1	0.0	0.2	1.2	0.2	5.0	2.3	19.0
⑲ 地域定着支援	526	56.7	10.3	4.0	0.0	0.0	1.0	0.2	6.8	2.9	18.3

II 調査結果（障がい者調査）

（４）今後利用をしたいサービスの有無

▶ 今後利用をしたいサービスについては、すべてのサービスで「利用希望がない」が最も高くなっている。

問 25 あなたは次のサービスをこれから利用する希望はありますか。①から⑱のサービスごとに、「今後3年以内の利用希望」をお答えください。（番号に○をしてください）



(5) 今後、障がい福祉サービスを利用しない理由

▶ 今後、障がい福祉サービスを利用しない理由としては、すべてのサービスで「サービスを受ける必要がないから」が最も高くなっている。

問 25 今後3年以内の利用希望で「4. 利用希望がない」と答えた場合、その理由をお答えください。

		(%)										
	n	サービスを受ける必要がないため	サービスの対象者に含まれないため	既に別のサービスの提供を受けているため	サービス利用時間の都合が合わないため	地域に相談支援事業所がないため	引き受けられる相談支援事業所が見つからないため	利用料金がかかるため	サービスがあることを知らなかったため	その他	無回答	
① 居宅介護（ホームヘルプ）	459	70.4	7.2	2.4	0.0	0.0	0.0	1.5	0.4	3.3	14.8	
② 重度訪問介護	470	69.1	9.8	1.9	0.0	0.0	0.0	1.5	0.4	3.2	14.0	
③ 同行援護	470	68.3	11.1	1.5	0.0	0.0	0.2	1.1	0.9	3.4	13.6	
④ 行動援護	458	67.7	9.8	1.7	0.0	0.0	0.7	1.1	0.9	4.4	13.8	
⑤ 重度障がい者等包括支援	469	68.2	10.2	2.1	0.2	0.0	0.2	1.1	1.1	3.0	13.9	
⑥ 短期入所（ショートステイ）	430	70.7	7.4	2.1	0.2	0.0	0.2	1.4	0.9	2.8	14.2	
⑦ 療養介護	458	68.8	10.3	1.7	0.0	0.0	0.2	1.5	0.7	2.8	14.0	
⑧ 生活介護	436	71.3	8.3	1.6	0.0	0.0	0.2	1.8	0.5	2.5	13.8	
⑨ 施設入所支援	369	73.7	7.3	1.4	0.0	0.0	0.0	1.9	1.1	3.3	11.4	
⑩ 自立生活援助	427	62.8	8.7	3.3	0.0	0.0	0.7	2.1	2.6	5.6	14.3	
⑪ 共同生活援助（グループホーム）	354	68.6	7.1	2.5	0.0	0.0	0.8	2.5	1.4	5.1	11.9	
⑫ 自立訓練（機能訓練、生活訓練）	430	65.3	8.8	2.1	0.0	0.0	0.5	1.6	2.1	5.8	13.7	
⑬ 宿泊型自立訓練（援護寮・通勤寮）	451	64.5	9.3	2.4	0.0	0.0	0.4	2.0	3.1	4.9	13.3	
⑭ 就労移行支援	427	59.5	10.1	3.5	0.0	0.5	0.7	1.2	3.3	7.7	13.6	
⑮ 就労継続支援（A型、B型）	371	58.0	10.0	2.7	0.5	0.0	0.8	1.6	2.4	9.4	14.6	
⑯ 就労定着支援	425	59.5	11.1	4.0	0.0	0.0	0.9	0.9	3.8	6.8	12.9	
⑰ 計画相談支援	306	67.0	6.5	2.6	0.0	0.0	0.0	1.3	2.3	8.2	12.1	
⑱ 地域移行支援	394	66.0	10.9	2.8	0.0	0.0	0.3	0.5	2.0	5.8	11.7	
⑲ 地域定着支援	396	64.4	10.6	3.5	0.0	0.0	0.3	0.8	2.3	6.1	12.1	

II 調査結果（障がい者調査）

（6）必要な支援について

- ▶ 問 25 のサービス以外で、特に必要な支援については、全体では「ちょっとした不安や困りごとでも相談にのってくれる身近な相談サービス」が 33.1%と最も高く、次いで「話し相手や地域の人の声かけ、訪問」（14.4%）、「通学時の送迎や夜間等緊急時の送迎サービス」（13.0%）となっている。
- ▶ 障がい別にみると、すべての手帳所持者で「ちょっとした不安や困りごとでも相談にのってくれる身近な相談サービス」が最も高くなっている。

問 26 問 25 であげたサービス以外で、特にどのような支援が必要だと思いますか。

（○は3つまで）

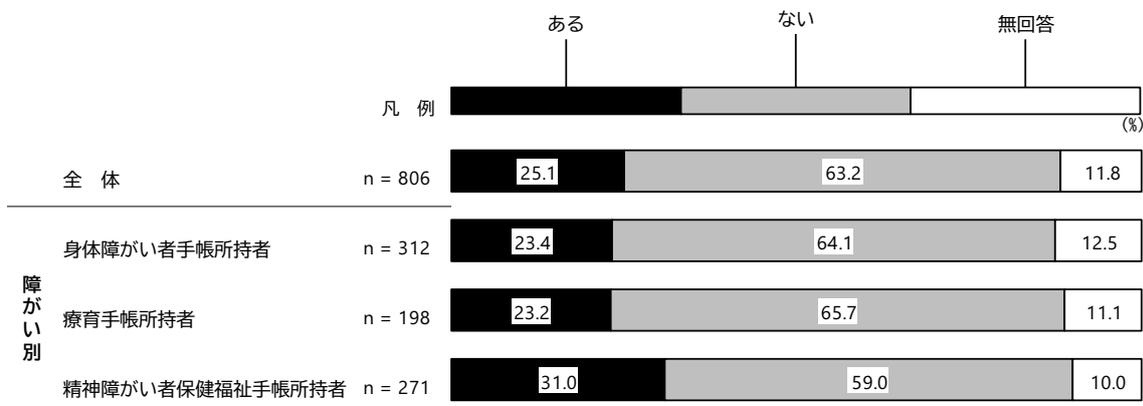
		n	話し相手や地域の人の声かけ、訪問	身近な相談サービス	ちょっとした不安や困りごとでも相談にのってくれる	趣味やスポーツなどの集まり	食事の配達サービス	自宅に来てくれる散髪や美容サービス	必要な書類を管理するサービス	日常のお金の管理や、重	通学時の送迎サービス	夜間等緊急時の送迎サービス	その他	無回答
全 体		806	14.4	33.1	12.4	9.8	10.5	10.7	13.0	5.5	44.4			
障がい別	身体障がい者手帳所持者	312	12.8	28.5	9.6	11.5	14.1	6.1	13.5	5.8	45.8			
	療育手帳所持者	198	12.6	28.3	14.1	4.5	10.1	13.1	18.2	2.0	48.5			
	精神障がい者保健福祉手帳所持者	271	16.2	41.7	16.2	10.7	5.5	14.8	11.4	7.0	39.5			

5 障がいのある方のための取り組みについて

（1）日常生活での差別や偏見について

- ▶ ここ2～3年の間で障がいによる差別を受けたり、いやな思いをしたことについては、全体では「ない」が63.2%、「ある」が25.1%となっている。
- ▶ 障がい別にみると、「ある」については、身体障がい者手帳所持者が23.4%、療育手帳所持者が23.2%、精神障がい者保健福祉手帳所持者が31.0%となっており、精神障がい者保健福祉手帳所持者の割合が最も高くなっている。

問27 ここ2～3年の間に、障がいがあるために、差別を受けたり、いやな思いをしたことがありますか。（○は1つだけ）



- ▶ いやな思いをした場面については、全体では「学校・職場」が40.1%と最も高く、次いで「外出先」(31.2%)、「住んでいる地域」(24.8%)となっている。
- ▶ 障がい別にみると、身体障がい者手帳所持者と精神障がい者保健福祉手帳所持者では「学校・職場」、療育手帳所持者では「外出先」が最も高くなっている。

【問27-1は、問27で「1. ある」と回答した方にお聞きします】

問27-1 どのような場面で、いやな思いをしましたか。（あてはまるものすべてに○）

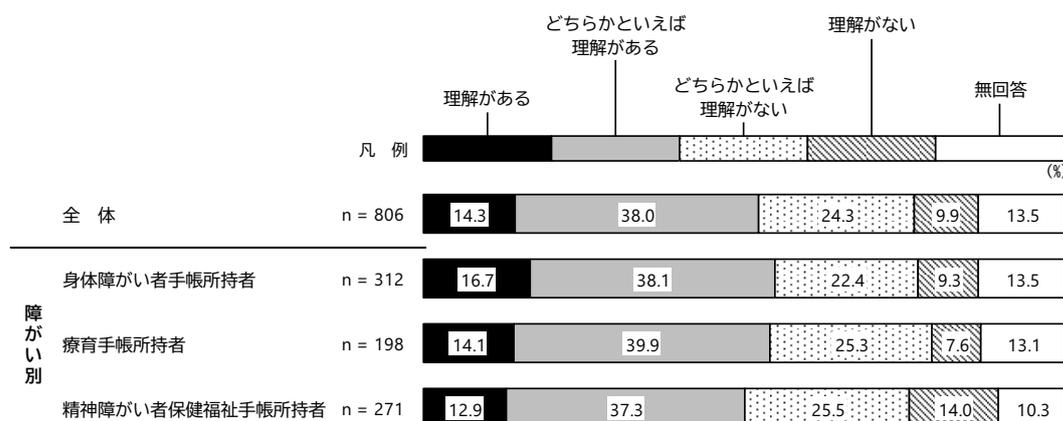
		n	学校・職場 (%)	仕事を探するとき (%)	外出先 (%)	余暇を楽しむとき (%)	病院などの医療機関 (%)	住んでいる地域 (%)	その他 (%)	無回答 (%)
全体		202	40.1	23.3	31.2	18.3	24.3	24.8	16.3	0.5
障がい別	身体障がい者手帳所持者	73	39.7	15.1	32.9	15.1	28.8	24.7	11.0	0.0
	療育手帳所持者	46	32.6	10.9	41.3	23.9	21.7	26.1	4.3	0.0
	精神障がい者保健福祉手帳所持者	84	47.6	35.7	27.4	19.0	22.6	25.0	26.2	0.0

II 調査結果（障がい者調査）

（2）障がいのある方に対するの周囲の理解

- ▶ 障がい者に対する周囲の理解度については、全体では「どちらかといえば理解がある」が38.0%と最も高く、次いで「どちらかといえば理解がない」（24.3%）、「理解がある」（14.3%）となっている。
- ▶ 障がい別に「理解がある」の回答割合をみると、身体障がい者手帳所持者が16.7%、療育手帳所持者が14.1%、精神障がい者保健福祉手帳所持者が12.9%となっている。また、「理解がない」の割合は、精神障がい者保健福祉手帳所持者が14.0%で最も高くなっている。

問 28 障がいのある方に対するの周囲の理解について、どのように感じていますか。
 （○は1つだけ）



（3）障がい者への地域の理解を深めるために必要なこと

- ▶ 地域住民が障がいのある方を理解するために必要なことについては、全体では「障がいや障がい者の福祉について関心や理解を求めるとの啓発」が35.7%と最も高く、次いで「学校における福祉教育の充実」(27.3%)、「障がいのある人への福祉的な就労や生産活動の機会の提供」(26.9%)となっている。
- ▶ 障がい別にみると、すべての手帳所持者で「障がいや障がい者の福祉について関心や理解を求めるとの啓発」が最も高くなっている。

問 29 地域の方が、障がいのある方を理解するために、何が重要だと感じていますか。
(あてはまるものすべてに○)

		n	障がいや障がい者の福祉について関心や理解を求めるとの啓発	障がいのある人への理解促進を促すための啓発	障がいのある人との交流促進	学校における福祉教育の充実	障がいに関する講演会や学習会の開催	障がいのある人への福祉的な就労や生産活動の機会の提供	障がいのある人との交流機会の提供	障がいのある人の地域活動への参加機会の促進	障がいのある人の積極的な社会参加	その他	わからない	無回答
全	体	806	35.7	20.6	25.8	27.3	14.1	26.9	15.1	14.4	19.5	4.1	23.6	12.7
障がい別	身体障がい者手帳所持者	312	34.9	18.6	25.0	25.3	12.2	22.1	12.2	13.1	19.6	3.8	22.4	14.4
	療育手帳所持者	198	34.3	23.7	29.8	30.8	12.1	27.3	20.7	13.6	15.2	3.0	23.2	12.6
	精神障がい者保健福祉手帳所持者	271	38.7	21.0	25.1	31.7	19.2	33.9	15.9	19.2	24.7	6.3	24.0	9.6

（4）住みなれた地域の中で安心して生活ができるために必要なこと

- ▶ 障がいのある方が住みなれた地域の中で安心して生活できるまちづくりに必要なことについては、全体では「相談体制の充実」が36.2%と最も高く、次いで「サービス利用の手続きの簡素化」(31.6%)、「保健・医療・福祉のサービスの充実」(27.8%)となっている。
- ▶ 障がい別にみると、身体障がい者手帳所持者では「サービス利用の手続きの簡素化」、療育手帳所持者と精神障がい者保健福祉手帳所持者では「相談体制の充実」が最も高くなっている。

問 30 障がいのある方が住みなれた地域の中で安心して生活ができるまちをつくるために、どのようなことが必要だと考えますか。(○は3つまで)

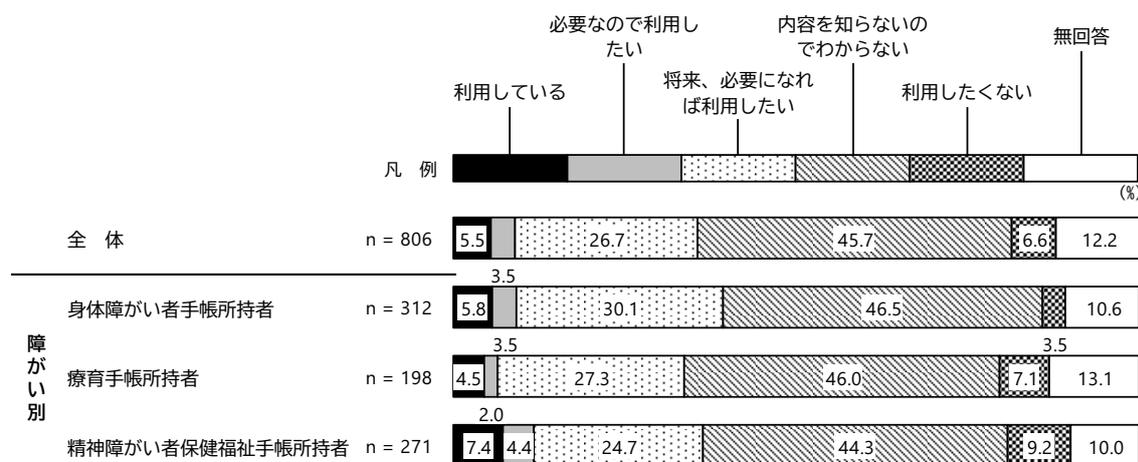
		n	相談体制の充実	サービス利用の手続きの簡素化	行政からの福祉に関する情報提供の充実	参加しやすいスポーツ・サークル・文化活動の充実	ボランティアの育成	保健・医療・福祉のサービスの充実	障がい児保育・教育内容の充実	福祉教育や広報活動の充実	会や場の見えやすさの確保	障がいのある人が安心して生活できる環境の整備	職業訓練の充実や働く場所の確保	入所施設の整備	訓練などの通所施設・職業訓練の整備	グループホームの整備	障がい者に配慮した公営住宅の整備	利用しやすい道路・建物などの整備・改善	災害のときの避難誘導体制の整備	その他	無回答
全	体	806	36.2	31.6	23.3	10.4	7.1	27.8	7.7	21.3	11.8	16.9	12.4	9.1	10.7	11.4	12.2	10.3	3.6	15.8	
障がい別	身体障がい者手帳所持者	312	32.4	34.3	25.6	9.9	8.7	30.4	7.7	17.9	12.8	13.5	12.2	11.9	7.4	11.2	18.9	9.9	3.5	14.1	
	療育手帳所持者	198	35.4	26.3	16.7	9.1	7.1	26.8	9.1	23.7	9.6	12.1	19.2	7.6	19.2	6.1	6.6	11.1	3.0	19.7	
	精神障がい者保健福祉手帳所持者	271	41.7	33.6	26.9	12.9	5.9	28.0	8.9	26.2	12.9	25.8	8.5	7.0	10.0	15.9	8.5	8.5	3.7	14.0	

II 調査結果（障がい者調査）

（5）ヘルプマークについて

- ▶ 「ヘルプマーク」の利用状況については、全体では「内容を知らないのでわからない」が45.7%と最も高く、次いで「将来、必要になれば利用したい」（26.7%）、「利用したくない」（6.6%）となっている。
- ▶ 障がい別にみると、すべての手帳所持者で「内容を知らないのでわからない」が4割以上となっている。
また、「利用している」の割合は、精神障がい者保健福祉手帳所持者が7.4%で最も高くなっている。

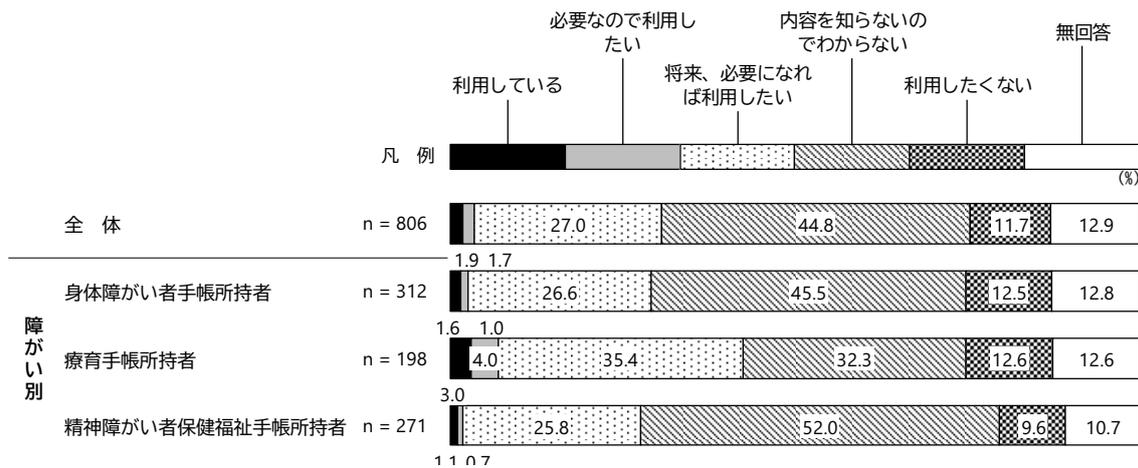
問 31 あなたは、「ヘルプマーク」を利用していますか。（○は1つだけ）



（6）成年後見制度について

- ▶ 成年後見制度の利用状況については、全体では「内容を知らないのわからない」が44.8%と最も高く、次いで「将来、必要になれば利用したい」(27.0%)、「利用したくない」(11.7%)となっている。
- ▶ 障がい別にみると、精神障がい者保健福祉手帳所持者では、5割以上が「内容を知らないのわからない」となっている。また、「将来、必要になれば利用したい」の割合は、療育手帳所持者が35.4%で最も高くなっている。

問 32 あなたは、成年後見制度を利用していますか。（○は1つだけ）



- ▶ 成年後見制度を利用したくない理由については、全体では「支援してくれる家族等がいるから」が55.3%と最も高く、次いで「誰が後見人になるかわからないから」(27.7%)、「申請手続きが大変そうだから」(22.3%)となっている。
- ▶ 障がい別にみると、すべての手帳所持者で「支援してくれる家族等がいるから」が最も高くなっている。

【問 32-1 は、問 32 で「5. 利用したくない」と回答した方にお聞きします】

問 32-1 成年後見制度を利用したくない理由を教えてください。

（あてはまるものすべてに○）

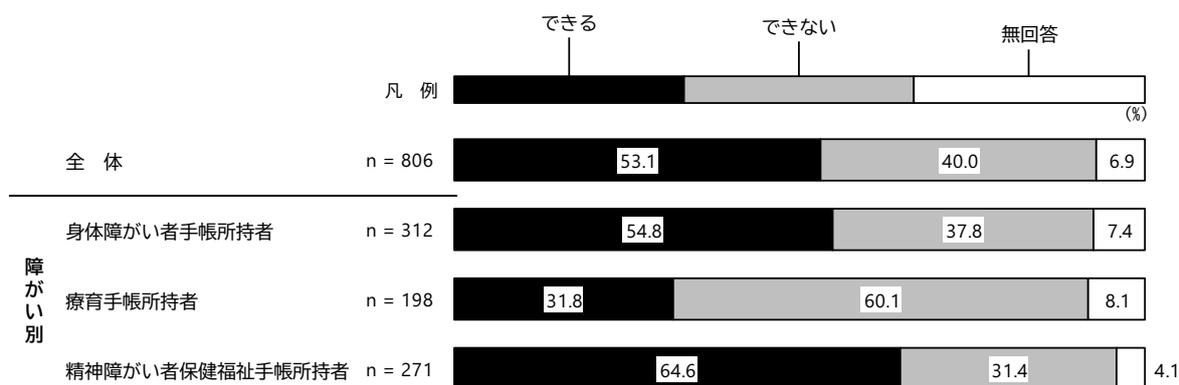
		n	制度を良く知らないから (%)	利用料が心配だから (%)	誰が後見人になるかわからない (%)	申請手続きが大変そうだから (%)	支援してくれる家族等がいるから (%)	その他 (%)	無回答 (%)
全 体		94	18.1	12.8	27.7	22.3	55.3	12.8	1.1
障がい別	身体障がい者手帳所持者	39	15.4	5.1	10.3	15.4	71.8	7.7	0.0
	療育手帳所持者	25	20.0	16.0	44.0	24.0	52.0	16.0	0.0
	精神障がい者保健福祉手帳所持者	26	19.2	26.9	38.5	34.6	46.2	15.4	3.8

6 災害時の対応について

（1）災害時の避難

- ▶ 災害時に一人で避難できるかについては、全体では「できる」が53.1%、「できない」が40.0%となっている。
- ▶ 障がい別にみると、療育手帳所持者では、「できない」が6割を超えている。また、「できる」の割合は、精神障がい者保健福祉手帳所持者が64.6%で最も高くなっている。

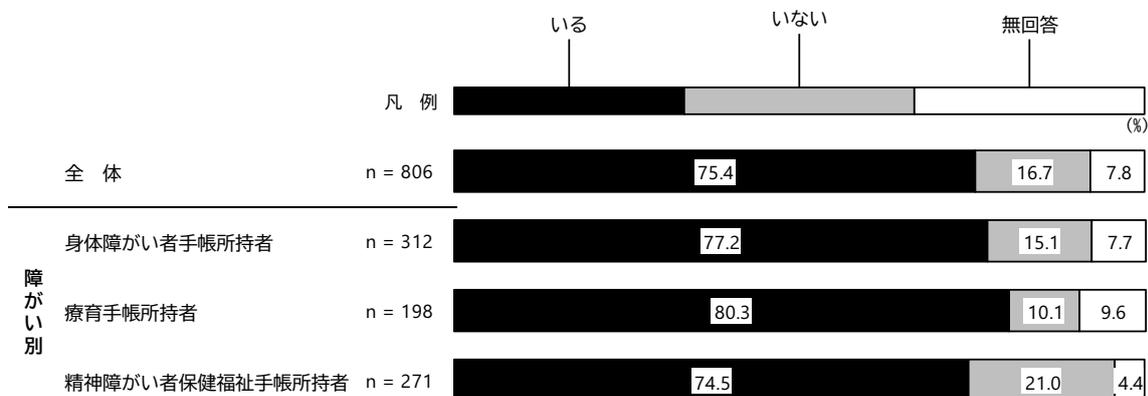
問 33 あなたは災害時に、一人で避難できますか。（○は1つだけ）



（2）災害時の介助者について

- ▶ 災害時に救助してくれる家族や近隣住民の有無については、全体では「いる」が75.4%、「いない」が16.7%となっている。
- ▶ 障がい別にみると、すべての手帳所持者で「いる」が7割以上となっている。また、「いない」の割合は、精神障がい者保健福祉手帳所持者が21.0%で最も高くなっている。

問 34 災害時に、あなたを救助してくれる家族や近隣の方はいますか。（○は1つだけ）



(3) 災害発生時に困ること

- ▶ 災害発生時に困ることについては、全体では「避難場所までひとりで行けない」が31.5%と最も高く、次いで「災害時の緊急連絡先がわからない」(23.0%)、「災害時の情報入手の手段がない」(17.1%)となっている。
- ▶ 障がい別にみると、身体障がい者手帳所持者と療育手帳所持者では「避難場所までひとりで行けない」、精神障がい者保健福祉手帳所持者では「災害時の緊急連絡先がわからない」が最も高くなっている。

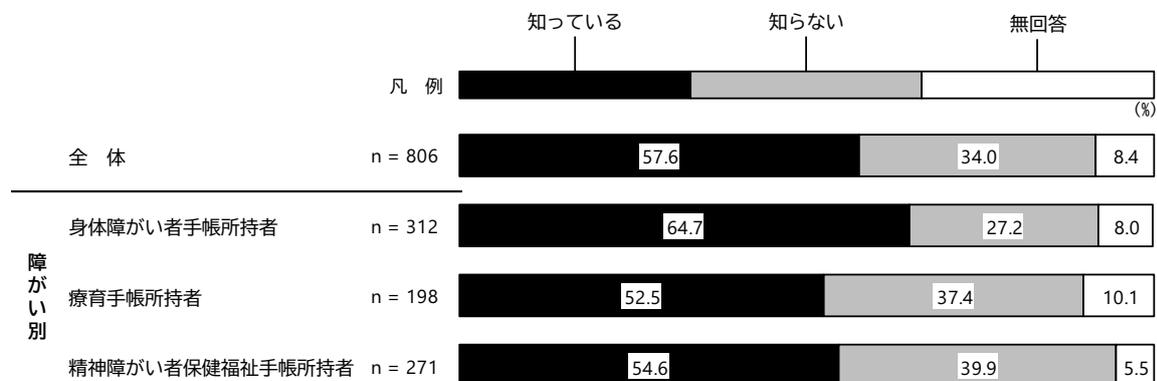
問 35 災害発生時に困ることは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

		n	な避難場所までひとりで行けない	災害時の介助者がいない	で介助している人が高齢などでできない	ら災害時の緊急連絡先がわからない	ない災害時の情報入手の手段がない	その他	無回答
全 体		806	31.5	7.8	8.3	23.0	17.1	16.4	30.4
障がい別	身体障がい者手帳所持者	312	29.2	8.3	9.0	17.3	13.1	20.2	32.1
	療育手帳所持者	198	44.4	7.6	7.1	24.2	20.2	11.6	27.8
	精神障がい者保健福祉手帳所持者	271	26.6	6.3	10.0	29.5	19.9	15.1	28.8

(4) 災害発生時の避難場所について

- ▶ 地震などの災害時の避難場所の認知については、全体では「知っている」が57.6%、「知らない」が34.0%となっている。
- ▶ 障がい別にみると、身体障がい者手帳所持者では27.2%、療育手帳所持者では37.4%、精神障がい者保健福祉手帳所持者では39.9%が「知らない」となっている。

問 36 地震などの災害発生時の避難場所を知っていますか。(○は1つだけ)



II 調査結果（障がい者調査）

（５）東日本大震災などの災害時に困ったこと

- ▶ 東日本大震災などの災害時に困ったことについては、全体では「被害状況、避難場所などの情報が入手できなかった」が12.8%と最も高く、次いで「周囲とのコミュニケーションがとれなかった」(12.0%)、「避難場所の設備（トイレなど）や生活環境が不安だった」(11.8%)となっている。
- ▶ 障がい別にみると、身体障がい者手帳所持者では「避難場所の設備（トイレなど）や生活環境が不安だった」、療育手帳所持者では「周囲とのコミュニケーションがとれなかった」、精神障がい者保健福祉手帳所持者では「被害状況、避難場所などの情報が入手できなかった」「周囲とのコミュニケーションがとれなかった」が最も高くなっている。

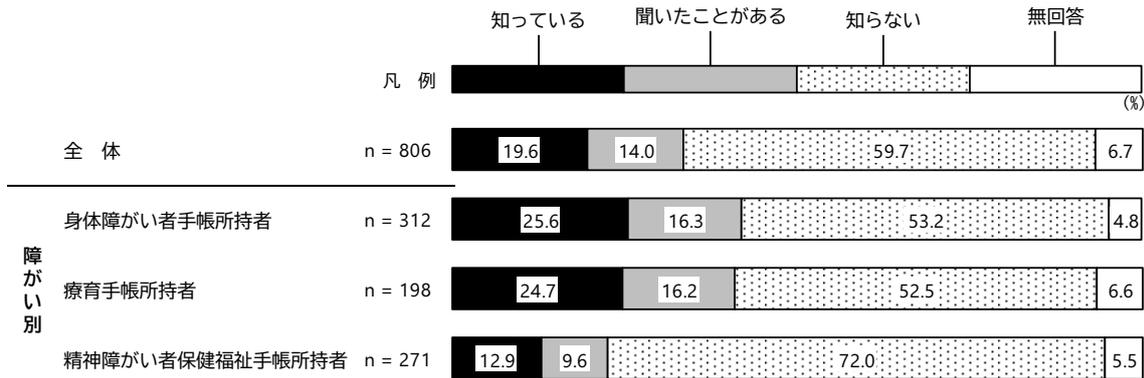
問 37 東日本大震災などの災害時に困ったことは何ですか。（あてはまるものすべてに○）

		n	投薬や治療が受けられなかった	補装具の使用が困難だった	補装具や日常生活用具の入手できなかった	救助を求めることができなかった	避難安全なところまで、迅速に避難することができなかった	被害状況、避難場所などの情報が入手できなかった	周囲とのコミュニケーションがとれなかった	避難場所の設備（トイレなど）や生活環境が不安だった	その他	特になし	無回答
全 体		806	6.9	0.9	4.2	3.2	5.2	12.8	12.0	11.8	13.5	41.7	14.5
障がい別	身体障がい者手帳所持者	312	8.0	1.0	3.8	2.2	3.8	12.8	8.7	13.1	12.8	41.3	13.5
	療育手帳所持者	198	4.0	0.5	2.0	3.0	5.6	8.6	11.6	10.1	9.1	44.9	19.7
	精神障がい者保健福祉手帳所持者	271	8.1	1.1	6.3	4.4	6.3	15.9	15.9	13.3	17.0	41.0	10.7

（6）避難行動要支援者制度について

- ▶ 「避難行動要支援者制度」の認知については、全体では「知らない」が59.7%と最も高く、次いで「知っている」(19.6%)、「聞いたことがある」(14.0%)となっている。
- ▶ 障がい別にみると、身体障がい者手帳所持者では53.2%、療育手帳所持者では52.5%、精神障がい者保健福祉手帳所持者では72.0%が「知らない」と回答している。

問 38 あなたは「避難行動要支援者制度」を知っていますか。(○は1つだけ)
 ※災害発生時において、避難誘導や安否の確認などが、地域において的確に行われるよう、本人の了承を得たうえで名簿に登載される制度



7 自由記述

ご意見・ご要望（自由記述）

- ▶ 行政の取組み全般に関する意見が最も多く、障がい福祉サービスや施設の充実についての意見も多くみられた。
- ▶ 他、親亡き後の将来の不安や就労に関する意見もやや目立った。

問 39 最後に、ご意見・ご要望などありましたら、ご自由にお書きください。

項目	件数
行政等の取組みについて（対応、制度、希望する施策等）	66
アンケートについて	37
今後の不安（援助者がいなくなった時の不安、身体の不安等）	32
障がい者の理解	30
障がい福祉サービスについて（サービス内容、料金、利用のしやすさ等）	22
病院医療	21
施設の充実について（入所関係を含む）	18
交通	17
就労について	16
近況報告	12
災害時の対応	6
住居	4
情報提供・発信	3
公共施設	2
就園・就学	1
その他	23
特になし	18
意見数計	328

※回答者数：235人（複数回答あり）

【主な意見】 ※上位5項目

① 行政等の取組みについて（対応、制度、希望する施策等）

- ・「病院から地域へ」で親族の負担増で、親族の高齢化にともない、当事者とその親族、共々、共倒れが多くなってきている。それに加えて、コロナ禍で人と人とのつながりが薄れてきていて、孤立化・孤独化、自殺も増えてきている。また福祉の予算も削られ、「高負担、低福祉」の時代になってきている。国も自治体ももう一度抜本的な改革が必要と思われる。
- ・就労継続支援B型の工賃アップにつながる行政からの働きかけをお願いしたい。
- ・障がい者のサービス内容を広報はなまきでくわしく提供してほしいです。
- ・サービス利用の手続きの為市役所へ行く回数が多すぎる。（書類記入の数も）
- ・透析を受けています。現在は、自分で車を運転して通院できていますが、将来的に運転ができなくなった場合のことを考えると、タクシー代等の費用面で非常に不安を感じます。同じ施設で透析を受けている方の中には、通院にかかる交通費が月あたり約13万円かかっているという方もいると

聞いております。市には軽自動車税の減免、タクシー代の補助等ご配慮いただいているところではあります。透析患者のおかれた状況をご理解いただき、支援の拡充をはかって下さいますようお願いいたします。

- ・働きながらも受けられる障がい者向け職業訓練が欲しいです。就労移行支援を受ける際に一定の条件を満たせば期間中、生活援助金をもらえる制度がほしいです。
- ・郵送や回覧、広報などで使用出来る制度や補助金の事を詳しく知りたい。どんな制度やどんな補助があるかの一覧など。

② アンケートについて

- ・アンケートを基に改善されたことをHPなどで知らせて下さい。
- ・アンケートを実施いただけること自体は大変ありがたいが、アンケートが長く（設問や分岐が多く）回答へのハードルが高くストレスがある。回収率が上がるようもっと易しく単純化されてはどうか。
- ・一律のアンケートではなく、障がい区分、程度別のアンケートにしてほしい。軽度者の場合、ほとんど書けるところがない。ネットで回答できるとよい。
- ・このようなアンケートを記入しても、何も変わらない。我が家の障がい者は重度です。言葉も話せません。家族へ向けたアンケートならよいのですが…。手間が増えるだけです。

③ 今後の不安（援助者がいなくなった時の不安、身体的不安等）

- ・本人が高齢のため、家族が記入しました。障がい自体の等級は重くないが、他の持病もかかえていて通院の回数も多く、受診の時のつきそいもこれから必要になるかも知れないので、不安がある。
- ・医療機関も少なく、選択肢が限られているのもどうしたものかと思う。遠がい方までは、身体的に難しいため。
- ・母娘のふたり暮らしです。現在はなんとかふたりで生活してますが、将来が不安です。母親の私がめんどろを見れなくなった時、すぐに入れる施設があれば安心です。人付き合いの苦手な人達が入れるようなサークルがあればと思ってます。
- ・親が元気であるうちは、手続きをやってもらえるが、亡くなった後のことを考えるととても不安である。公的機関で相談窓口を分かりやすい所に設けてほしい。
- ・両親が高齢のため、子供がどんな施設に入るのか将来の不安でいっぱいです。子供の将来の生活の場が決まるまでは毎日眠れない日々が続きます。
- ・将来、買物や通院が困難になるであろう事が心配。親の高齢化、親の病気で生活が困難になってきた。

④ 障がい者の理解について

- ・障がいになった理由を話せる場をもつこと。つらいことやよいこと楽しいこと等色々な会話が大切。
- ・一般企業で働いている一般の方からの病気や障がいに対する理解をもっと得たい。仕事が大変な中で病気や障がいについて勉強してくださいとは言いがたい。一般企業の研修などで病気や障がいについての知識を共有する場を持ってほしい。病気や障がいについて無知な一般の方を責めることはできない。

II 調査結果（障がい者調査）

- ・ 一見、障がいがあるように見えないので、普通の生活をおくる事が困難、人とコミュニケーションがとれなかったり、障がいがあると世間に知られるのもこわい、精神障がいなので、知られるのがこわい。地区の役員もできそうにないのに、困っています。近所の人には、「身体が弱い」と言っています。家に居るので、地区の行事に参加できない事もあるので、だんなも忙しく、困っています。
- ・ 問 28 周囲の理解について、何も知らない方はジロジロ見たり陰口を言ったりするが、こちらから本人はこのような障がいを持っています、このような特性があります、性格です、と説明をすると、ご近所の方々は理解して下さい、会った時に声をかけて下さったりする。こちらからのアプローチによって違いがあると思う。
- ・ 障がい者雇用の仕事が少ないため一般の人とまざって仕事をするしかないので障がい者（精神）の理解がある場所で働ける場所がもっとほしい。また障がい者の枠になると給料が一般より下がるのも苦しい。差別しないで雇用してほしい。

⑤ 障がい福祉サービスについて（サービス内容、料金、利用のしやすさ等）

- ・ 今は働き手不足のようで施設の職員の移動が多く人のかかわりが大事な障がいなので必要な人員の確保お願いしたいです。
- ・ 福祉の制度は、全体的にわかりにくく、どこにどんなサービスや制度があるのか、自分で知ろうと入手しなければならないことが多い。何事も請求しなければならないシステムの世の中だから仕方ないのかもしれない。ただ必要なものを必要な人に届けるためには、手間はかかるが個別に自治体から案内があると助かる。無知な人間にとって（自分も含めて）福祉サービスは敷居が高い。
- ・ 就労支援施設に何ヶ所か通いましたが、全て断われ今は行く所がありません。本人の障がい特性もあり、他の利用者に迷惑をかけてしまうことは理解できますが、結局は施設側が扱いやすい人を受け入れて、扱いにくい人は辞めてもらうというのが現状です。誰でも平等にサービスを受ける権利があると思うのですが、実際は平等ではありません。誰でも希望のサービスを受けられるよう、施設の充実と専門家の育成をお願いします。
- ・ 通院の移動サービスの充実をお願いしたいです。（タクシーは料金が高い、バス停まで行けない（車イスのため））治療やリハビリを我慢しないよう必要な治療を受けれるようお願いしたいです。
- ・ サービス利用の予約がとれない。希望しても利用できない（日中一時、短期入所など）。
- ・ 病院。障がいのある人専用のような所があっても、予約とれない。特に歯科、耳鼻科。

※掲載した意見は原文を基本としているが、固有名詞が含まれている場合や長文の場合などは、一部省略して掲載

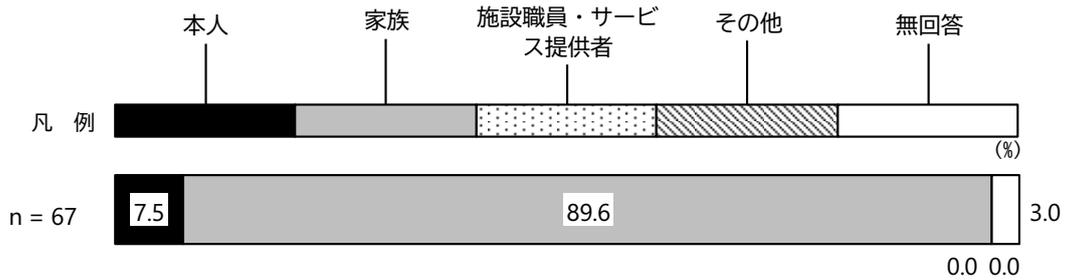
Ⅲ 調査結果（障がい児調査）

1 あなたのことについて

（1）調査票記入者

問1 調査票にご回答いただく方はどなたですか。（○は1つだけ）

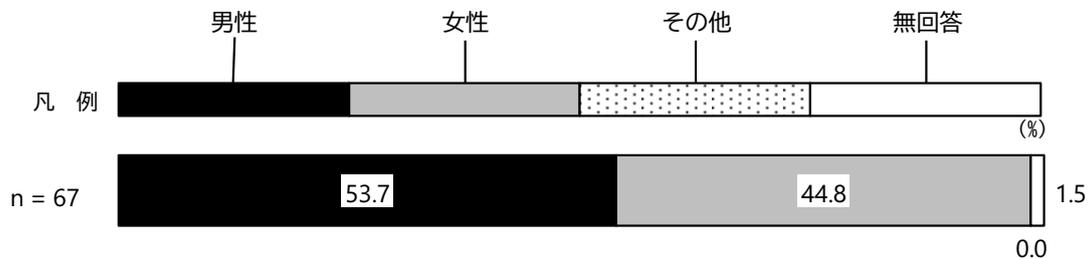
※本人は代筆を含む



（2）性別

問2 あなた（対象者）の性別をお答えください。（○は1つだけ）

※性的違和を感じている方は、あなたの感じている性に○をつけてください

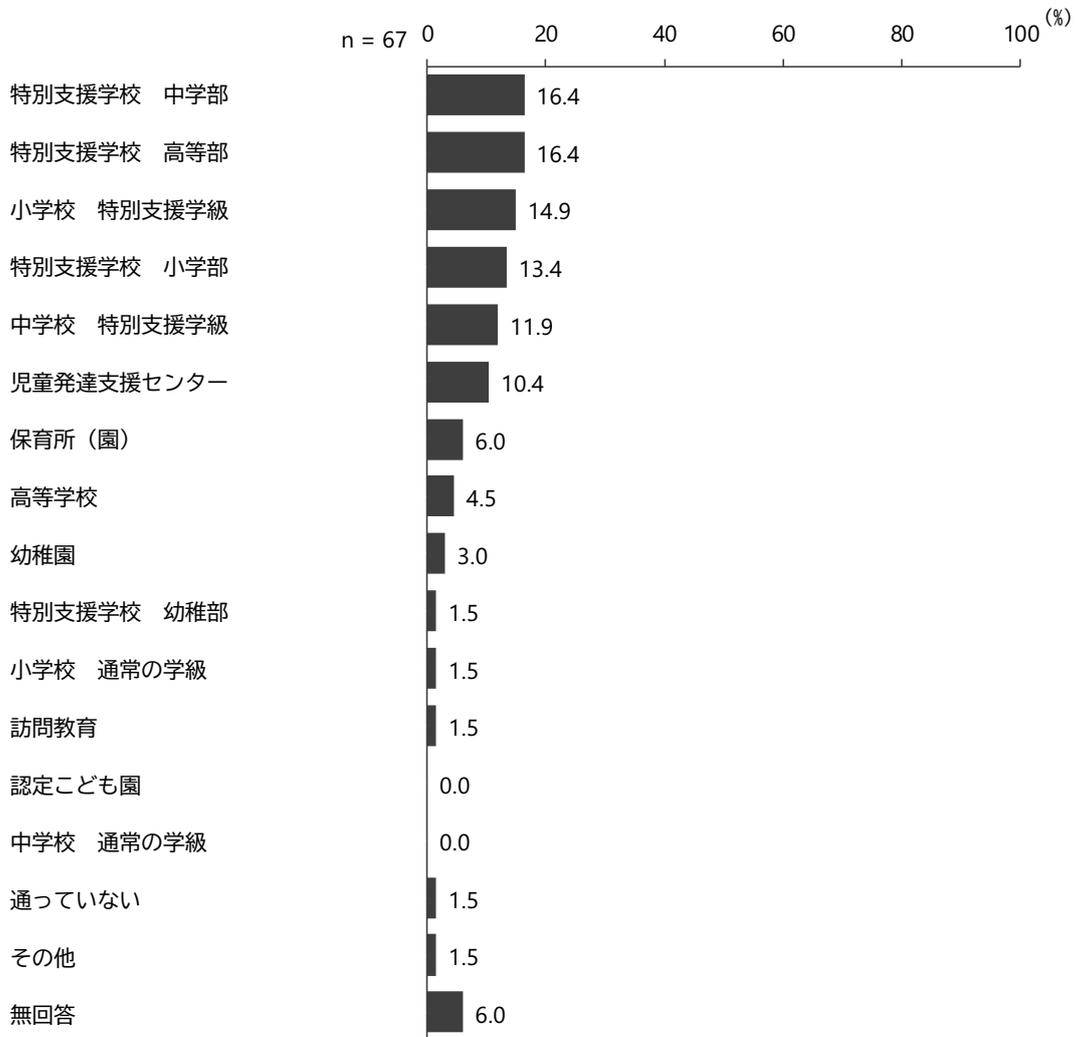


Ⅲ 調査結果（障がい児調査）

（3）通園、通学先について

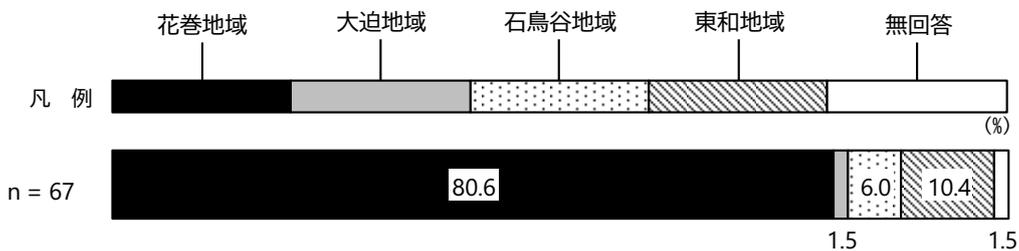
- ▶ 通園・通学先については、「特別支援学校 中学部」「特別支援学校 高等部」が共に16.4%と最も高く、次いで「小学校 特別支援学級」（14.9%）、「特別支援学校 小学部」（13.4%）となっている。

問3 あなたは学校や保育所（園）・幼稚園などに通っていますか。
（あてはまるものすべてに○）



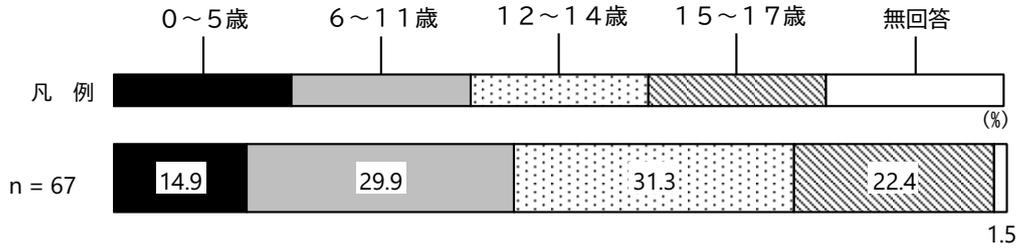
（4）居住地区

問4 あなたがお住まいの地域はどこですか。（○は1つだけ）



（５）年齢

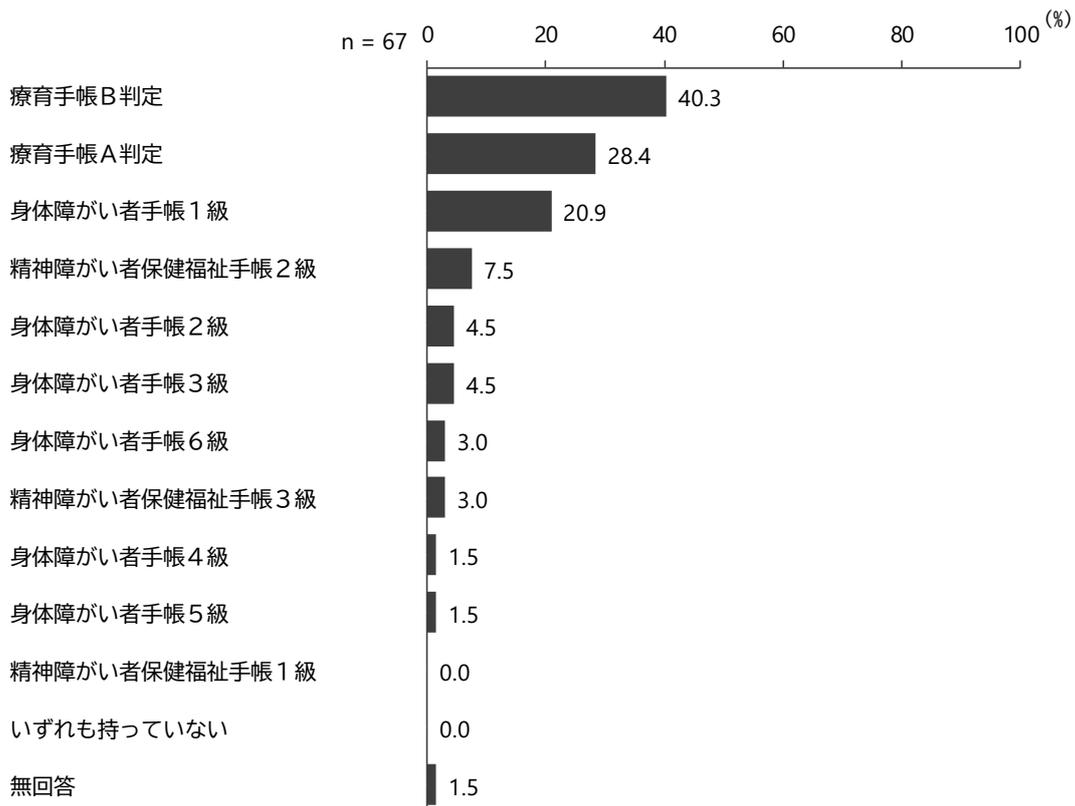
問５ 令和５年７月１日現在のあなた（対象者）の年齢をお答えください。（数字を記入）



（６）障がい者手帳の所持状況

▶ 手帳の所持状況については、「療育手帳B判定」が40.3%と最も高く、次いで「療育手帳A判定」（28.4%）、「身体障がい者手帳1級」（20.9%）となっている。

問６ あなたがお持ちの手帳はどれですか。（あてはまるものすべてに○）

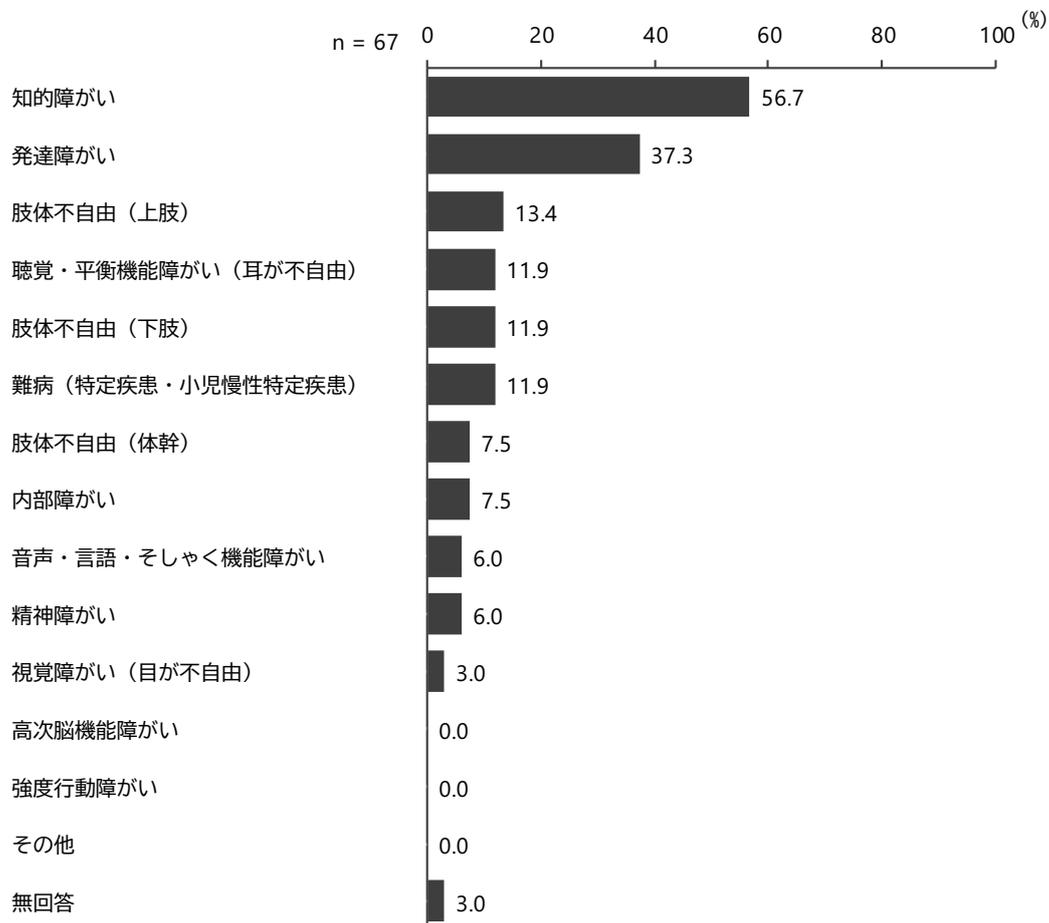


Ⅲ 調査結果（障がい児調査）

（7）障がいの種類

▶ 障がいの種類については、「知的障がい」が56.7%と最も高く、次いで「発達障がい」(37.3%)、「肢体不自由（上肢）」(13.4%)となっている。

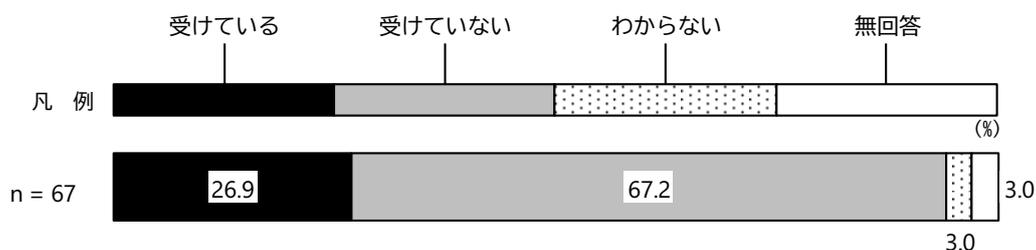
問7 あなたは、どのような障がいがありますか。（あてはまるものすべてに○）



（8）医療的ケアの利用状況

▶ 医療的ケアの利用状況については、「受けていない」が67.2%、「受けている」が26.9%となっている。「わからない」は3.0%となっている。

問8 あなたは、現在医療的ケアを受けていますか。（○は1つだけ）

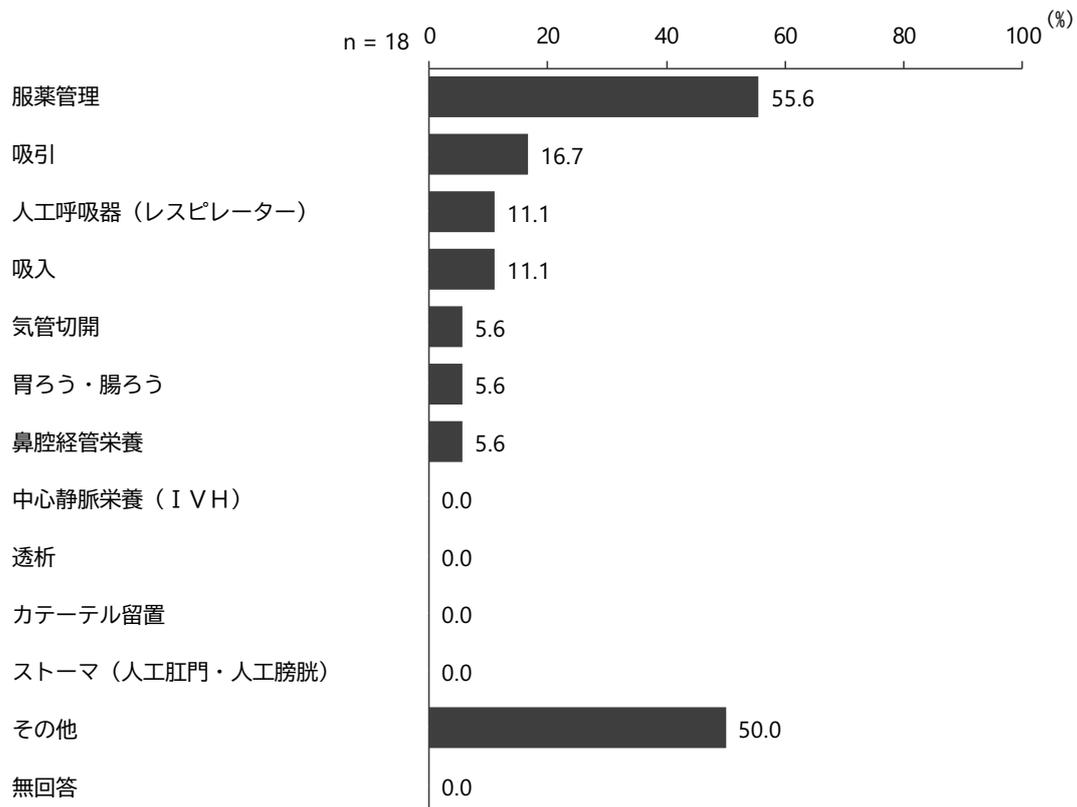


（９）利用している医療的ケアの内容

▶ 利用している医療的ケアについては、「服薬管理」が55.6%と最も高く、次いで「吸引」（16.7%）、「人工呼吸器（レスピレーター）」「吸入」（共に11.1%）となっている。

【問8-1は、問8で「1. 受けている」と回答した方にお聞きします】

問8-1 あなたが現在受けている医療的ケアをご回答ください。
（あてはまるものすべてに○）

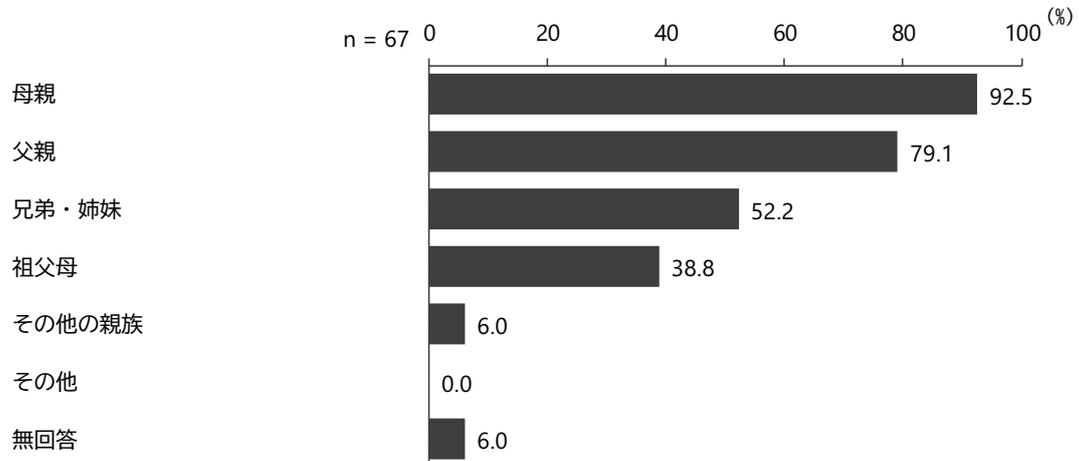


Ⅲ 調査結果（障がい児調査）

(10) 同居者

▶ 同居者については、「母親」が92.5%と最も高く、次いで「父親」(79.1%)、「兄弟・姉妹」(52.2%)となっている。

問9 あなたと同居している方はどなたですか。(あてはまるものすべてに○)

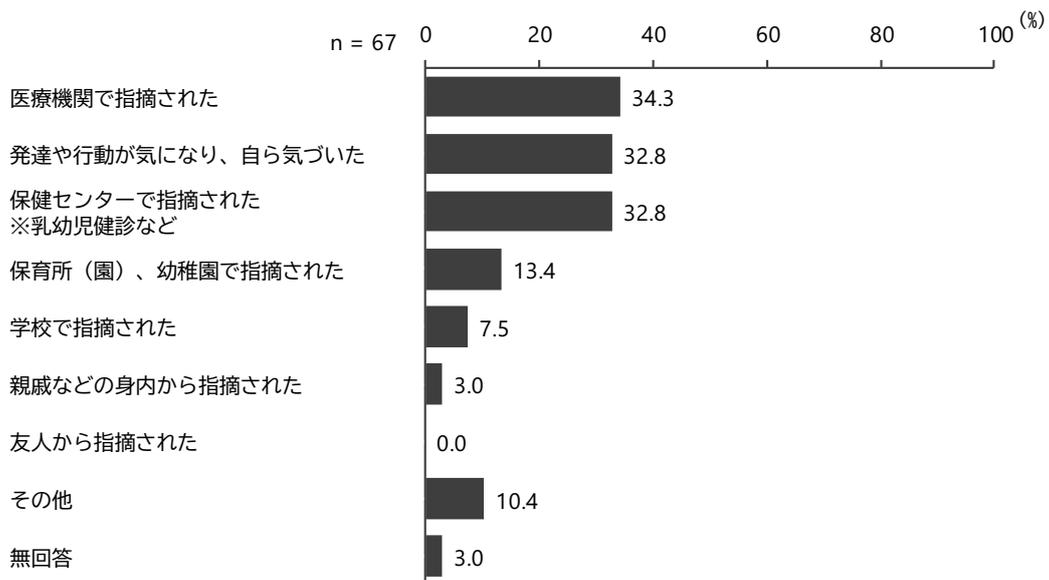


2 障がいについて

（1）発達の遅れに気づいたきっかけ

- ▶ 発達の遅れに気づいたきっかけについては、「医療機関で指摘された」が 34.3%と最も高く、次いで「発達や行動が気になり、自ら気づいた」「保健センターで指摘された※乳幼児健診など」（共に 32.8%）、「保育所（園）、幼稚園で指摘された」（13.4%）となっている。

問 10 あなたの発達の遅れに気づいたのは、どのようなきっかけでしたか。
（あてはまるものすべてに○）

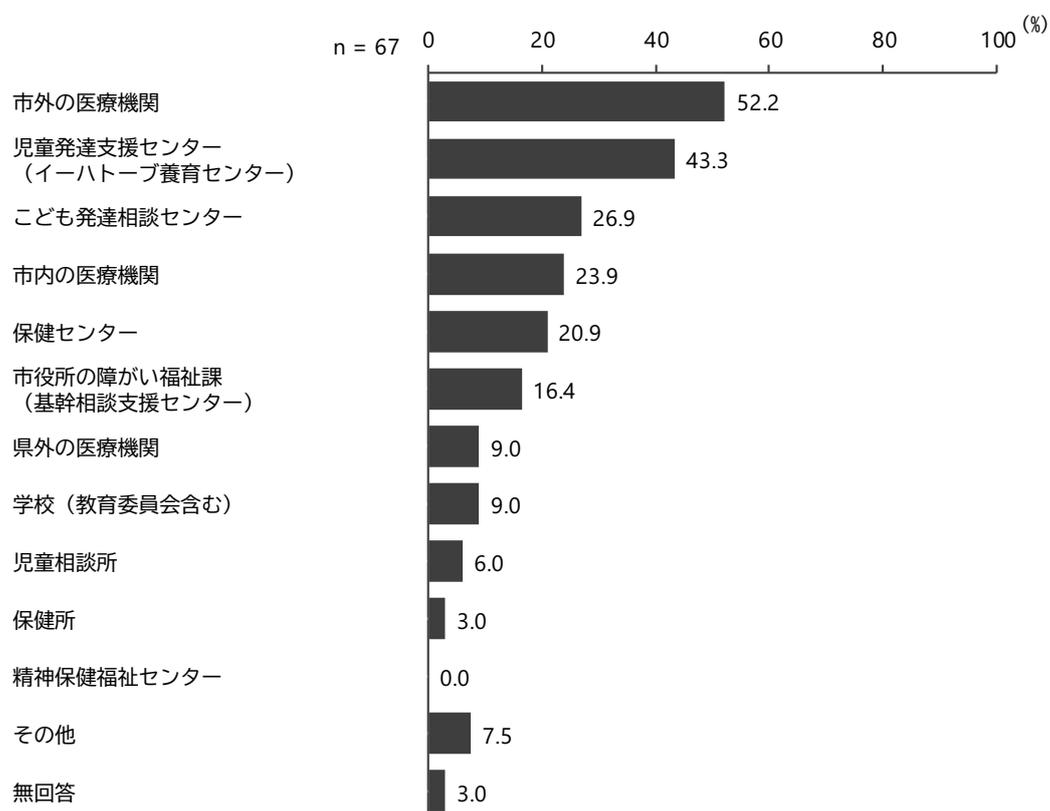


Ⅲ 調査結果（障がい児調査）

（２）発達の遅れの相談・診察・検査について

- ▶ 発達の遅れに気づいてから、相談し、診察・検査を求めた先については、「市外の医療機関」が 52.2%と最も高く、次いで「児童発達支援センター（イーハトーブ養育センター）」(43.3%)、「こども発達相談センター」(26.9%)となっている。

問 11 あなたは、発達の遅れに気づいてから、どこに相談し、診察・検査を求めに行きましたか。または行っていますか。（あてはまるものすべてに○）

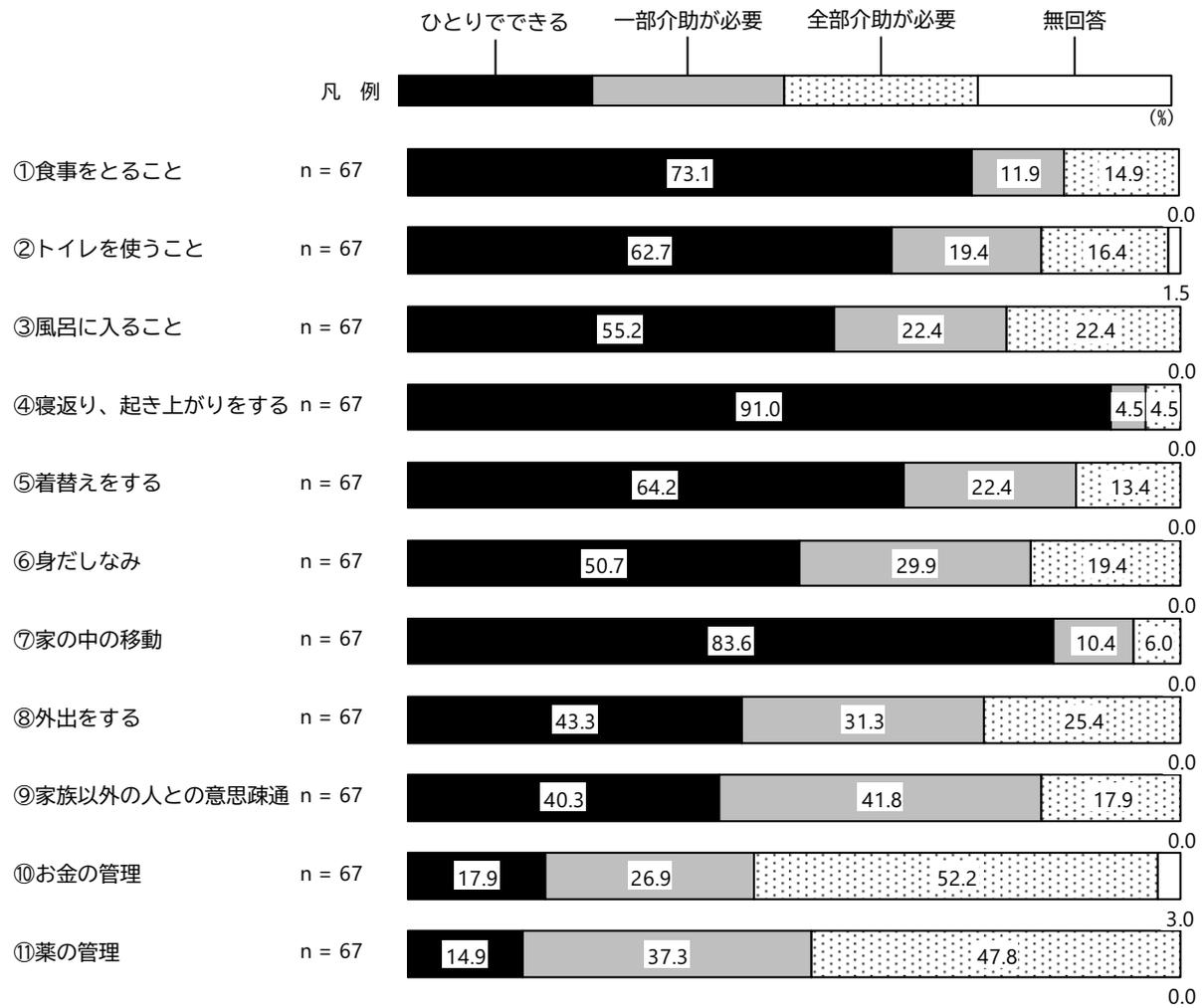


3 生活のことについて

(1) 日常生活動作

▶ 日常生活については、「ひとりでできる」という回答割合が最も高かったのは、「④寝返り、起き上がりをする」(91.0%)で、以下「⑦家の中の移動」(83.6%)、「①食事をとること」(73.1%)となっている。

問 12 日常生活で、次のことをどのようにしていますか。①から⑪のそれぞれにお答え下さい。(①から⑪それぞれに○を1つ)



Ⅲ 調査結果（障がい児調査）

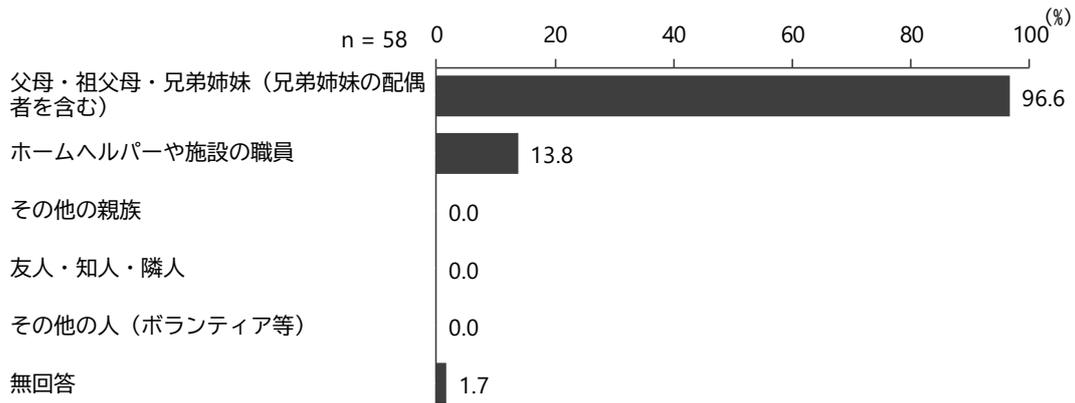
（2）主に世話をしてくれる方

- ▶ 主にお世話をしてくれる方については、「父母・祖父母・兄弟姉妹（兄弟姉妹の配偶者を含む）」が96.6%と最も高く、次いで「ホームヘルパーや施設の職員」（13.8%）となっている。

【問12で「一部介助が必要」又は「全部介助が必要」と回答した方にお聞きします】

問12-1 あなたのお世話をしてくれる方は主にどなたですか。

（あてはまるものすべてに○）



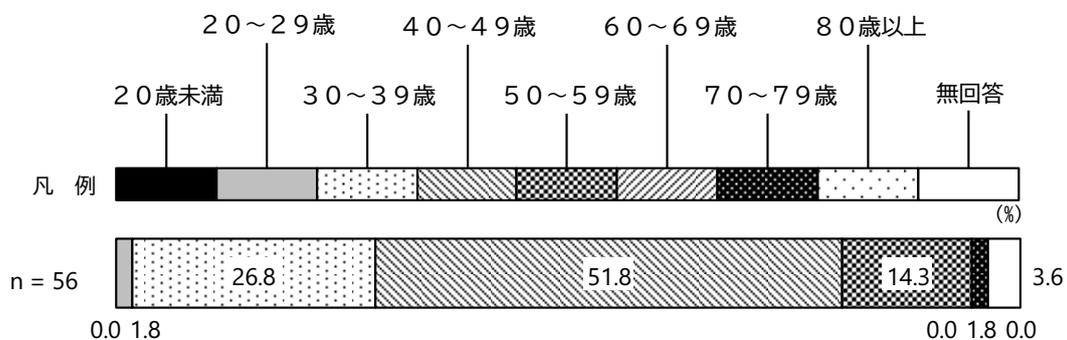
（3）主に世話をしてくれる家族の方の年齢

- ▶ 主にお世話をしてくれる家族の方の年齢については、「40～49歳」が51.8%と最も高く、次いで「30～39歳」（26.8%）、「50～59歳」（14.3%）となっている。

【問12-1で「1. 父母・祖父母・兄弟姉妹（兄弟姉妹の配偶者を含む）」と回答した方にお聞きします】

問12-2 「主にお世話をしてくれる家族の方」の年齢を教えてください。（数字を記入）

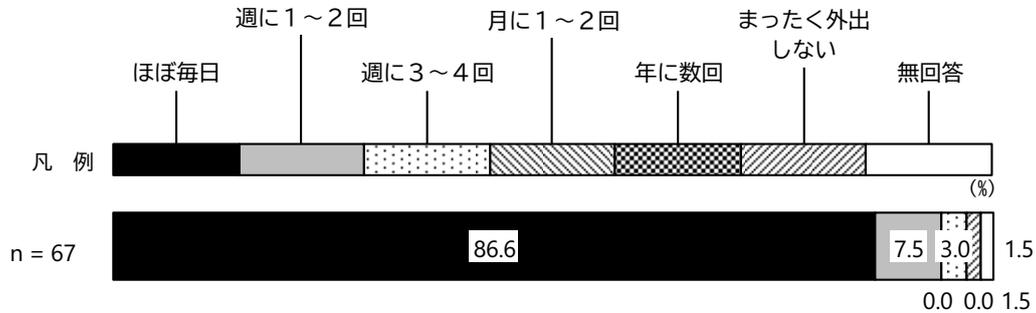
※調査票記入時点



（４）外出の頻度

▶ 外出の頻度については、「ほぼ毎日」が 86.6%と最も高く、次いで「週に1～2回」(7.5%)、「週に3～4回」(3.0%)となっている。

問 13 あなたは、どのくらいの頻度で外出しますか。（○は1つだけ）



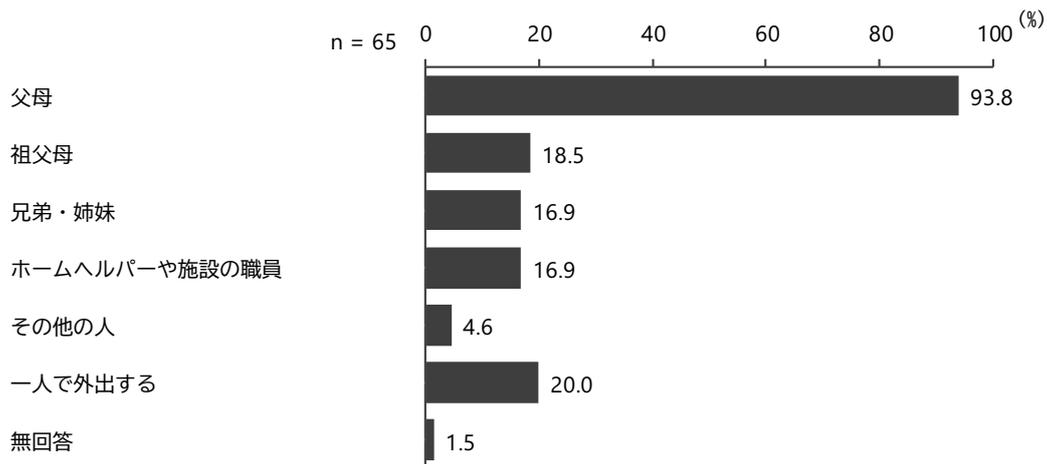
（５）外出する際の主な同伴者

▶ 外出する際の主な同伴者については、「父母」が 93.8%と最も高く、次いで「祖父母」(18.5%)、「兄弟・姉妹」「ホームヘルパーや施設の職員」(共に 16.9%)となっている。一方、「一人で外出する」は 20.0%となっている。

【問 13-1～3は、問 13で「1. ほぼ毎日」～「5. 年に数回」と回答した方にお聞きします】

問 13-1 あなたが外出する際の主な同伴者はどなたですか。

（あてはまるものすべてに○）



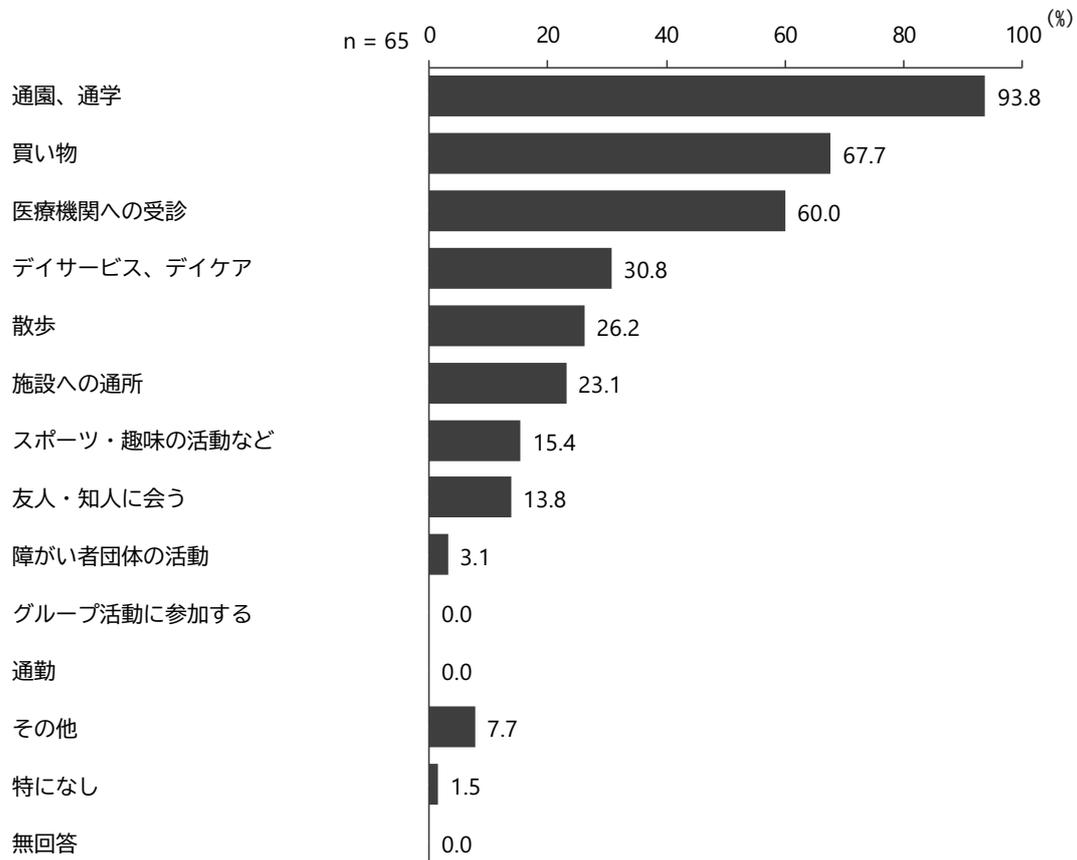
Ⅲ 調査結果（障がい児調査）

（6）外出する目的

- ▶ 外出する目的については、「通園、通学」が93.8%と最も高く、次いで「買い物」(67.7%)、「医療機関への受診」(60.0%)となっている。

【問13-1～3は、問13で「1.ほぼ毎日」～「5.年に数回」と回答した方にお聞きします】

問13-2 あなたが外出する目的をお答えください。(あてはまるものすべてに○)

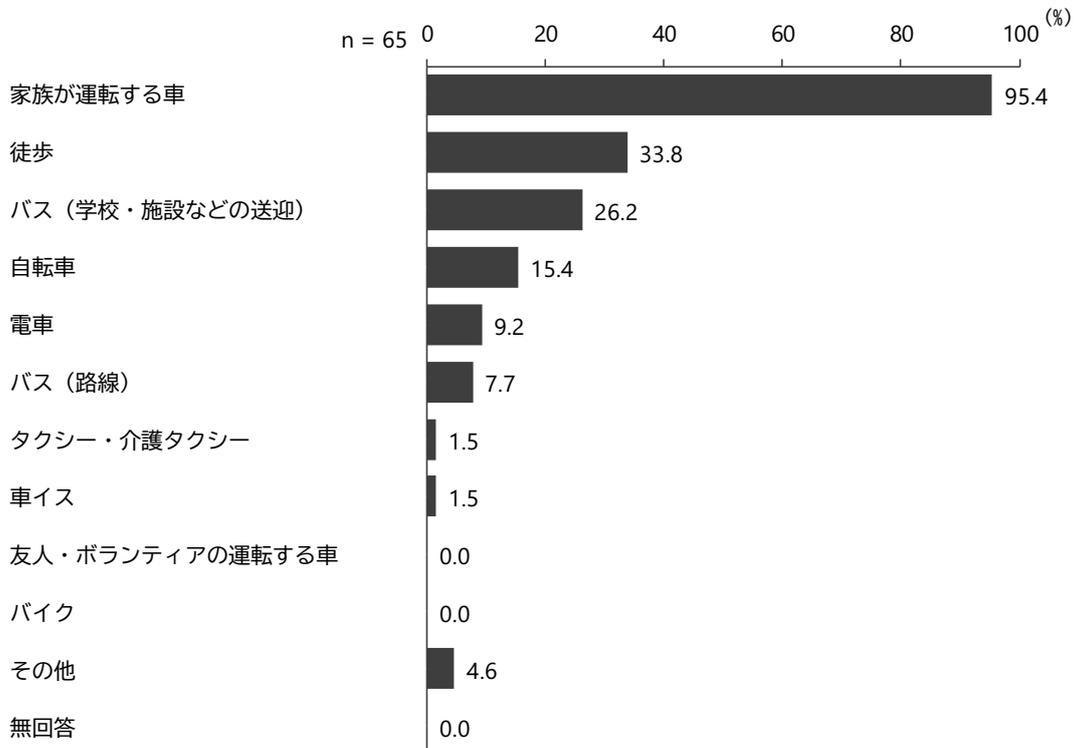


（7）外出する際の手段

▶ 外出する際の手段については、「家族が運転する車」が95.4%と最も高く、次いで「徒歩」(33.8%)、「バス（学校・施設などの送迎）」(26.2%)となっている。

【問13-1～3は、問13で「1.ほぼ毎日」～「5.年に数回」と回答した方にお聞きします】

問13-3 あなたが外出する時の交通手段は何ですか。（あてはまるものすべてに○）



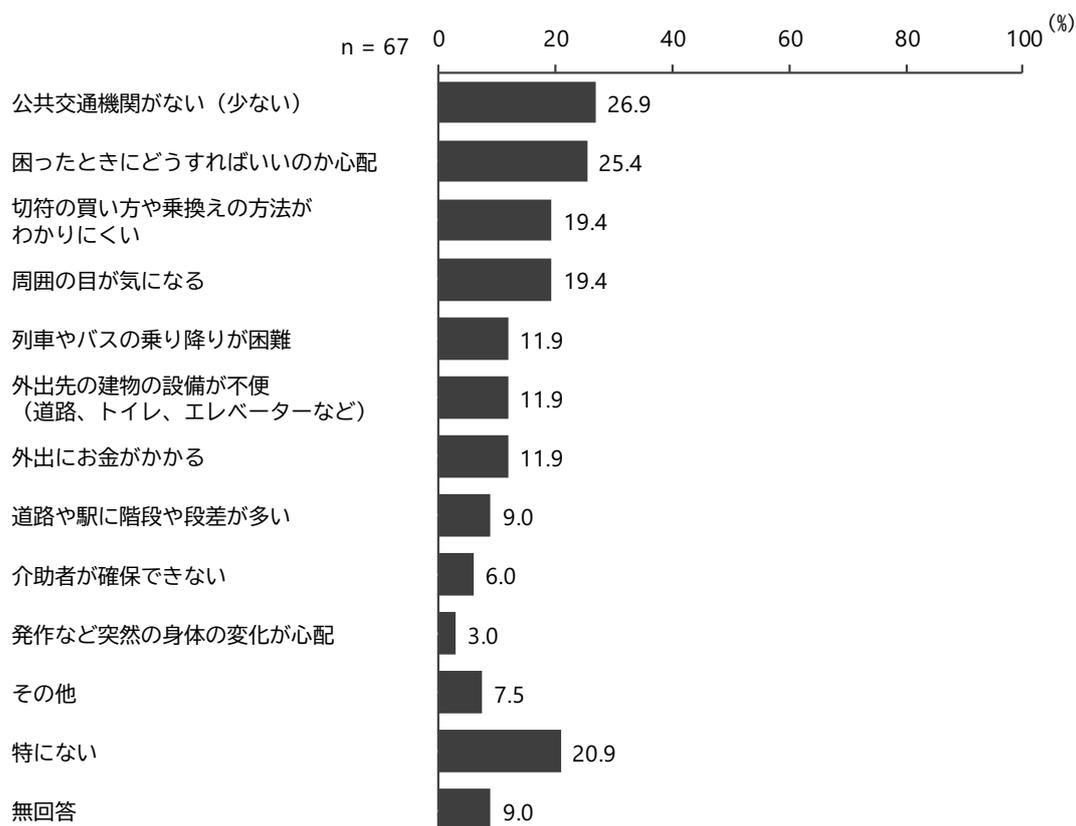
Ⅲ 調査結果（障がい児調査）

（８）外出の際に困ることや外出しない理由

- ▶ 外出の際に困ることや外出しない理由については、「公共交通機関がない（少ない）」が26.9%と最も高く、次いで「困ったときにどうすればいいのか心配」（25.4%）、「切符の買い方や乗換えの方法がわかりにくい」「周囲の目が気になる」（共に19.4%）となっている。

問 14 あなたが外出する際に困ること、または外出しない理由をお答えください。

（あてはまるものすべてに○）

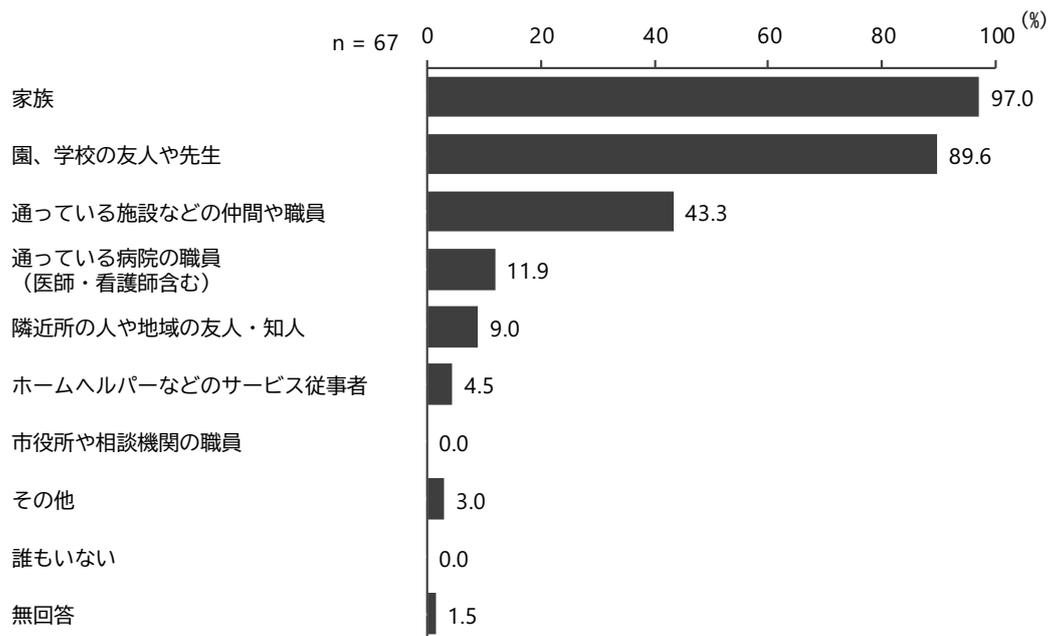


4 地域での暮らしや、今後の生活について

（1）普段どのような人と一緒に過ごしているかについて

- ▶ 普段どのような人と一緒に過ごしているかについては、「家族」が97.0%と最も高く、次いで「園、学校の友人や先生」(89.6%)、「通っている施設などの仲間や職員」(43.3%)となっている。

問 15 あなたはふだんどのような人と一緒に過ごしたり、会話をすることが多いですか。
（あてはまるものすべてに○）

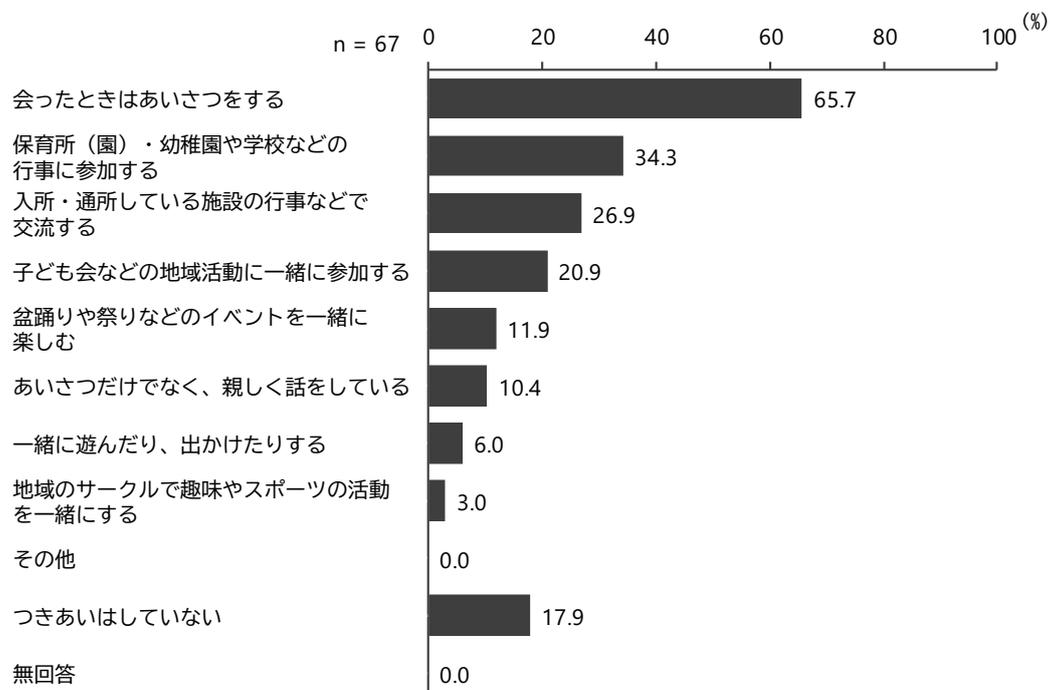


Ⅲ 調査結果（障がい児調査）

（２）地域の方とのつきあいについて

▶ 地域の方とのつきあいについては、「会ったときはあいさつをする」が 65.7%と最も高く、次いで「保育所（園）・幼稚園や学校などの行事に参加する」（34.3%）、「入所・通所している施設の行事などで交流する」（26.9%）となっている。

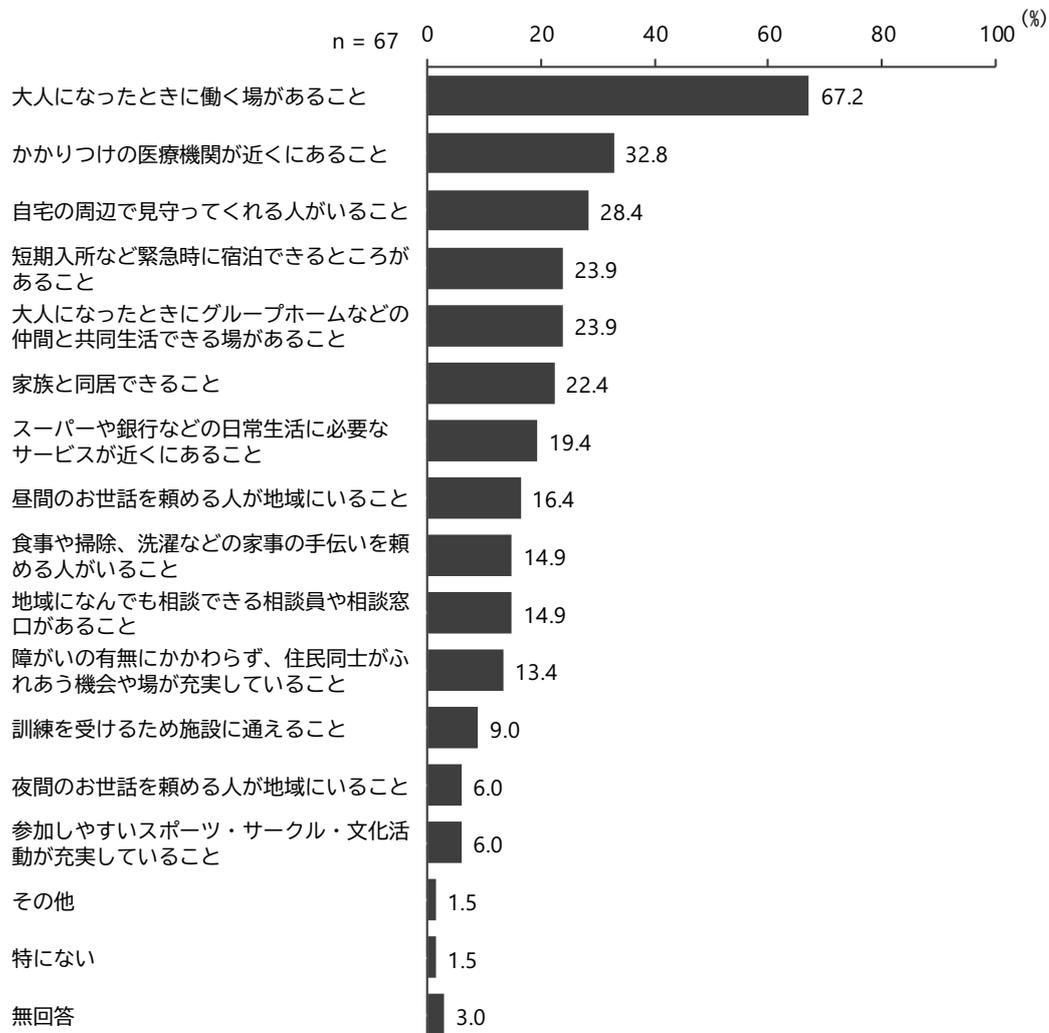
問 16 あなたは、ふだん地域の方とどのようなおつきあいをしていますか。
（あてはまるものすべてに○）



（3）地域で生活するために必要な環境について

▶ 地域で生活するために必要な環境については、「大人になったときに働く場があること」が67.2%と最も高く、次いで「かかりつけの医療機関が近くにあること」（32.8%）、「自宅の周辺で見守ってくれる人がいること」（28.4%）となっている。

問 17 あなたが地域で生活するためには、どのような環境が必要だと思いますか。
（○は3つまで）

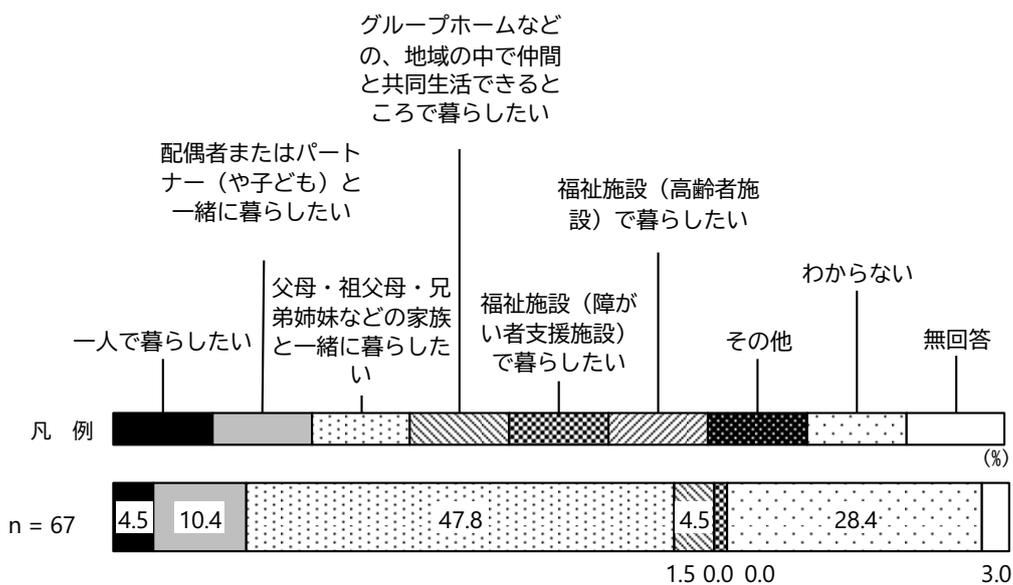


Ⅲ 調査結果（障がい児調査）

（４）成人した後、どのように暮らしたいかについて

- ▶ 成人した後、どのように暮らしたいかについては、「父母・祖父母・兄弟姉妹などの家族と一緒に暮らしたい」が47.8%と最も高く、次いで「配偶者またはパートナー（や子ども）と一緒に暮らしたい」（10.4%）となっている。
一方、「わからない」は28.4%となっている。

問 18 あなたは、将来、成人した後、どのように暮らしたいと思いますか。（○は1つだけ）

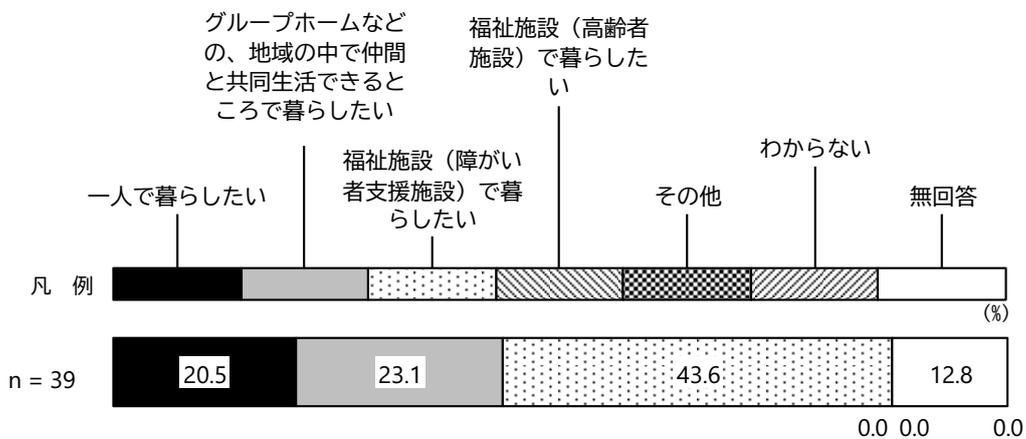


（5）家族との同居以外の希望する暮らし方

▶ 成人後、家族との同居以外の希望する暮らし方については、「福祉施設（障がい者支援施設）で暮らしたい」が43.6%と最も高く、次いで「グループホームなどの、地域の中で仲間と共同生活できるところで暮らしたい」（23.1%）、「一人で暮らしたい」（20.5%）となっている。

【問 18-1 は、問 18 で「2. 配偶者またはパートナー（や子ども）と一緒に暮らしたい」または「3. 父母・祖父母・兄弟姉妹などの家族と一緒に暮らしたい」と回答した方にお聞きします】

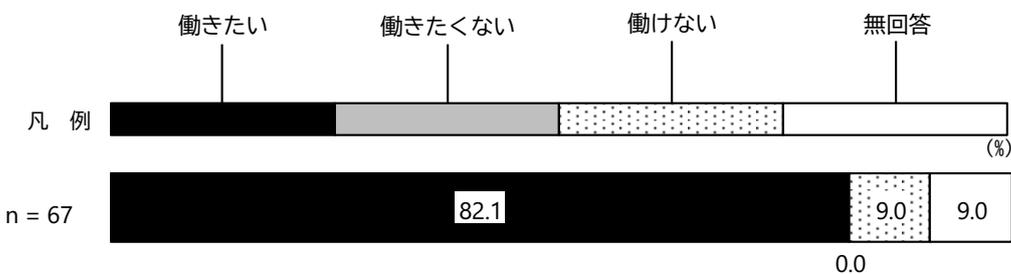
問 18-1 将来、あなたが成人した後、さまざまな理由で家族との同居ができなくなった時どのように暮らしたいと思いますか。（○は1つだけ）



（6）将来の仕事について

▶ 将来働きたいかについては、「働きたい」が82.1%と最も高く、次いで「働けない」(9.0%)となっている。「働きたくない」という回答はなかった。

問 19 あなたは、将来働きたいと思いますか。（○は1つだけ）



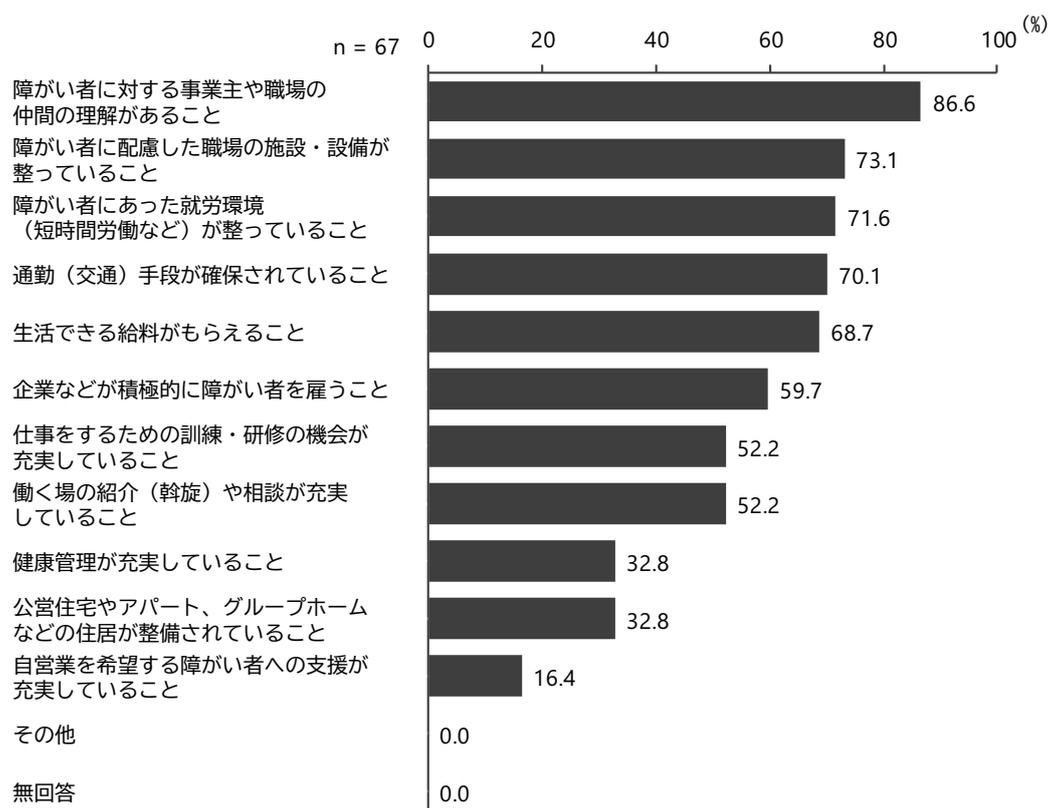
Ⅲ 調査結果（障がい児調査）

（7）障がいのある人が働くために必要なこと

- ▶ 障がいのある人が働くために必要なことについては、「障がい者に対する事業主や職場の仲間の理解があること」が86.6%と最も高く、次いで「障がい者に配慮した職場の施設・設備が整っていること」（73.1%）、「障がい者にあった就労環境（短時間労働など）が整っていること」（71.6%）となっている。

問 20 障がいのある方が働くには、どのようなことが必要だと思いますか。

（あてはまるものすべてに○）



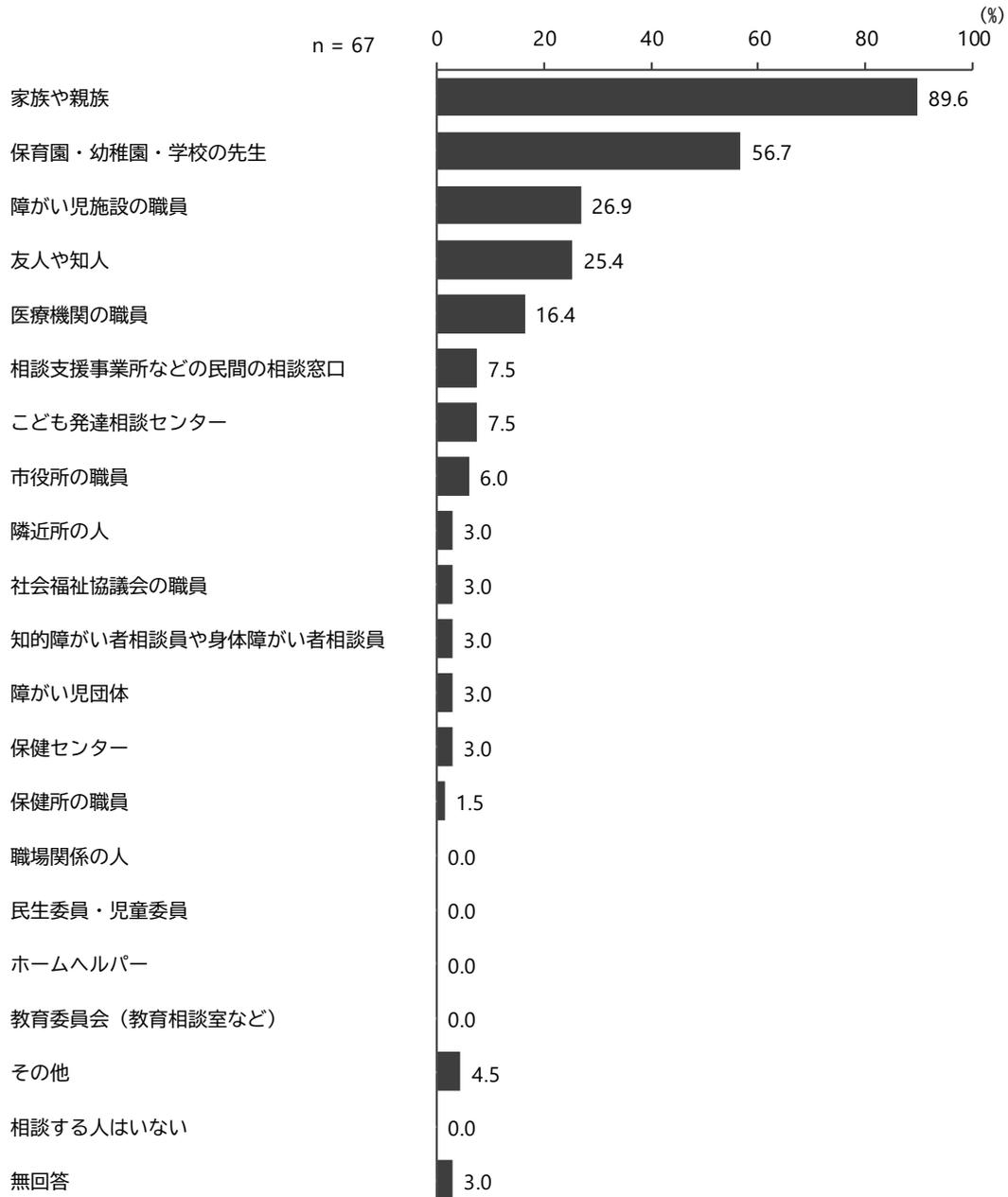
5 相談支援・情報提供について

（1）相談相手

- ▶ 悩み事や心配事などの相談相手については、「家族や親族」が89.6%と最も高く、次いで「保育園・幼稚園・学校の先生」（56.7%）、「障がい児施設の職員」（26.9%）となっている。

問 21 あなたは、ふだんの悩み事や心配事を、どなたに相談しますか。

（あてはまるものすべてに○）



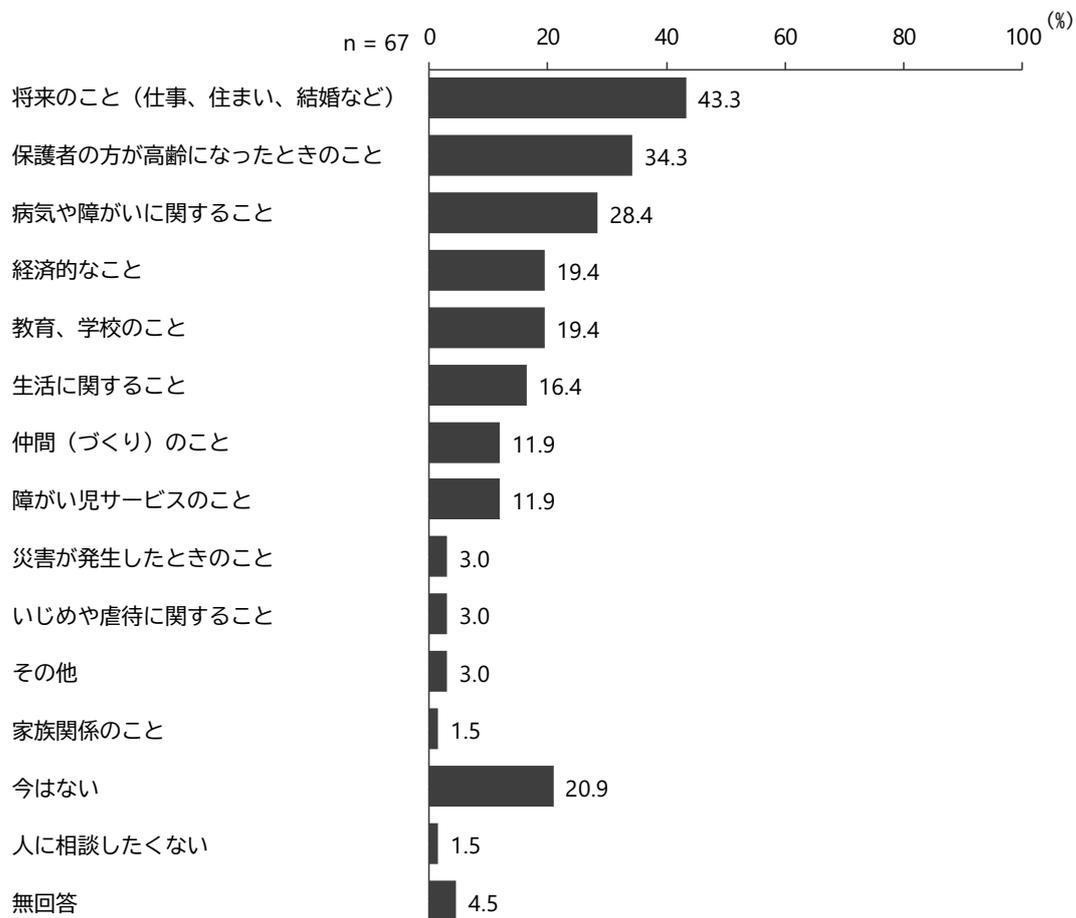
Ⅲ 調査結果（障がい児調査）

（２）相談したいこと

▶ 悩み事や心配事など、相談したいことについては、「将来のこと（仕事、住まい、結婚など）」が43.3%と最も高く、次いで「保護者の方が高齢になったときのこと」（34.3%）、「病気や障がいに関すること」（28.4%）となっている。

問 22 あなたの悩み事や心配事など、相談したいことは何ですか。

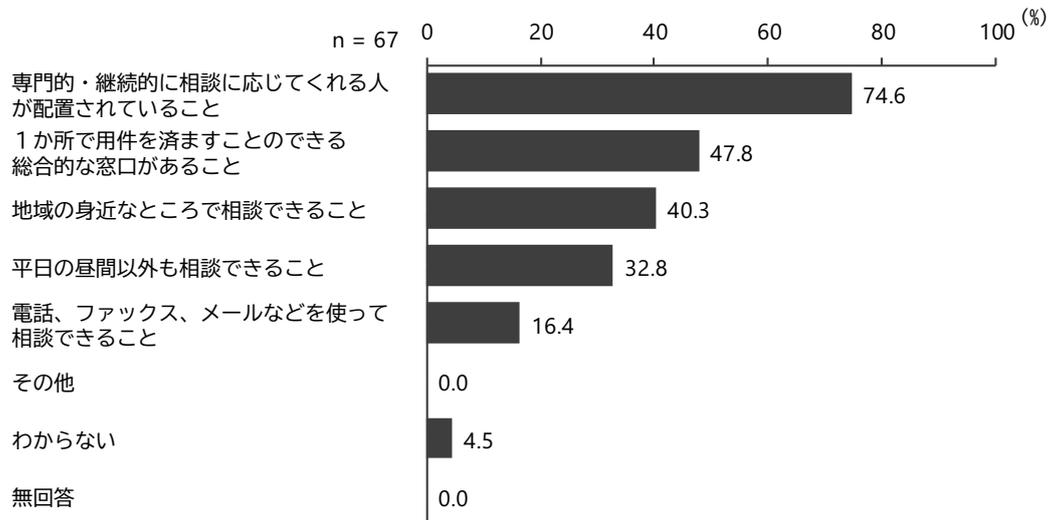
（あてはまるものすべてに○）



（3）相談しやすい体制を作るために必要なこと

- ▶ 福祉サービスについて相談しやすい体制を作るために必要なことについては、「専門的・継続的に相談に応じてくれる人が配置されていること」が 74.6%と最も高く、次いで「1か所で用件を済ますことのできる総合的な窓口があること」（47.8%）、「地域の身近なところで相談できること」（40.3%）となっている。

問 23 あなたは、福祉サービスについて相談しやすい体制を作るために、どのようなことが必要だと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

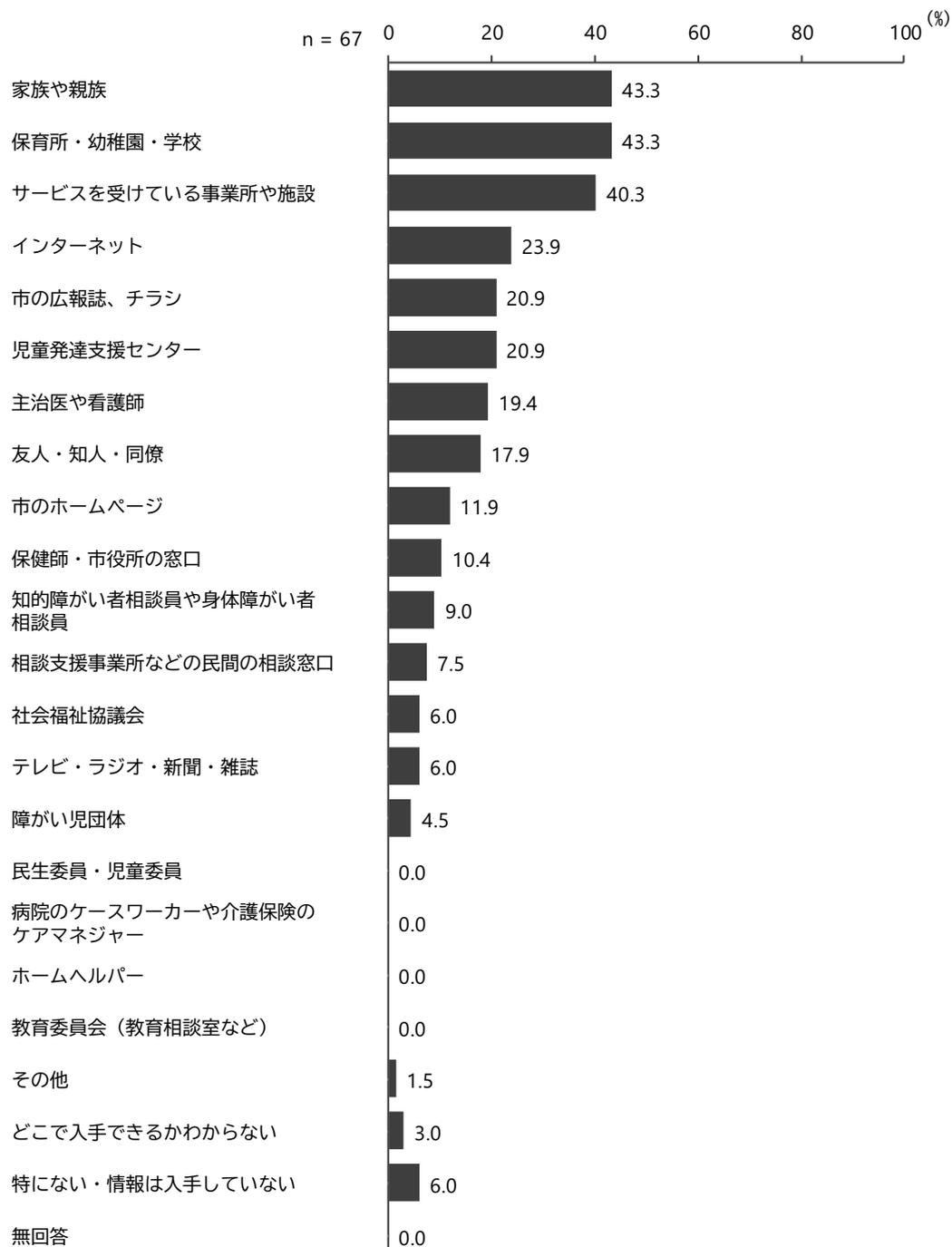


Ⅲ 調査結果（障がい児調査）

（４）情報の入手先

▶ 福祉サービスに関する情報の入手先については、「家族や親族」「保育所・幼稚園・学校」が共に 43.3%と最も高く、次いで「サービスを受けている事業所や施設」（40.3%）、「インターネット」（23.9%）となっている。

問 24 あなたは、福祉サービスに関する情報をどこから入手していますか。
（あてはまるものすべてに○）

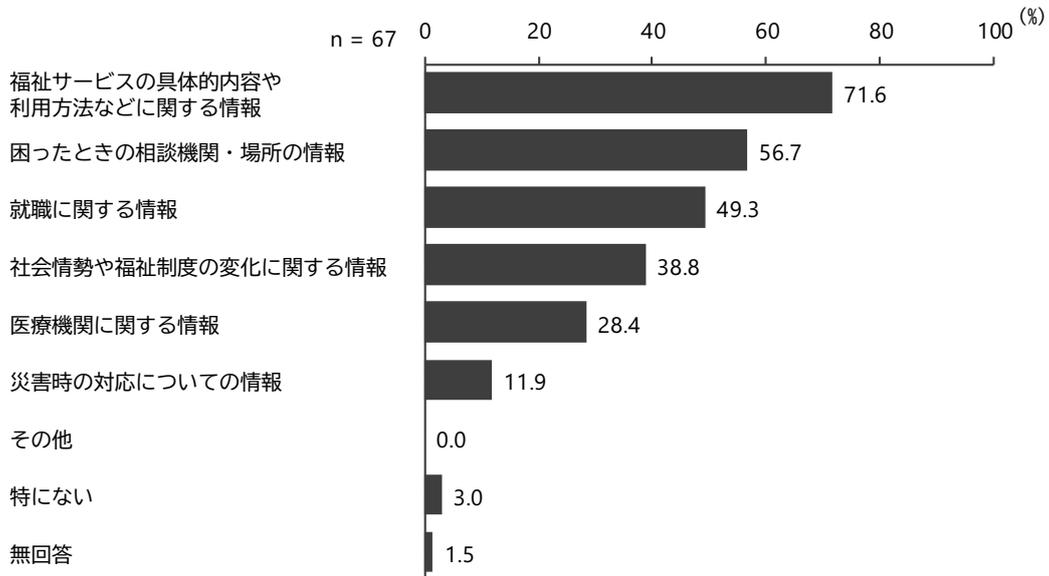


（5）今後、充実してほしい情報について

▶ 今後充実してほしい情報については、「福祉サービスの具体的内容や利用方法などに関する情報」が71.6%と最も高く、次いで「困ったときの相談機関・場所の情報」(56.7%)、「就職に関する情報」(49.3%)となっている。

問 25 あなたは、今後どのような情報を充実してほしいと思いますか。

（あてはまるものすべてに○）

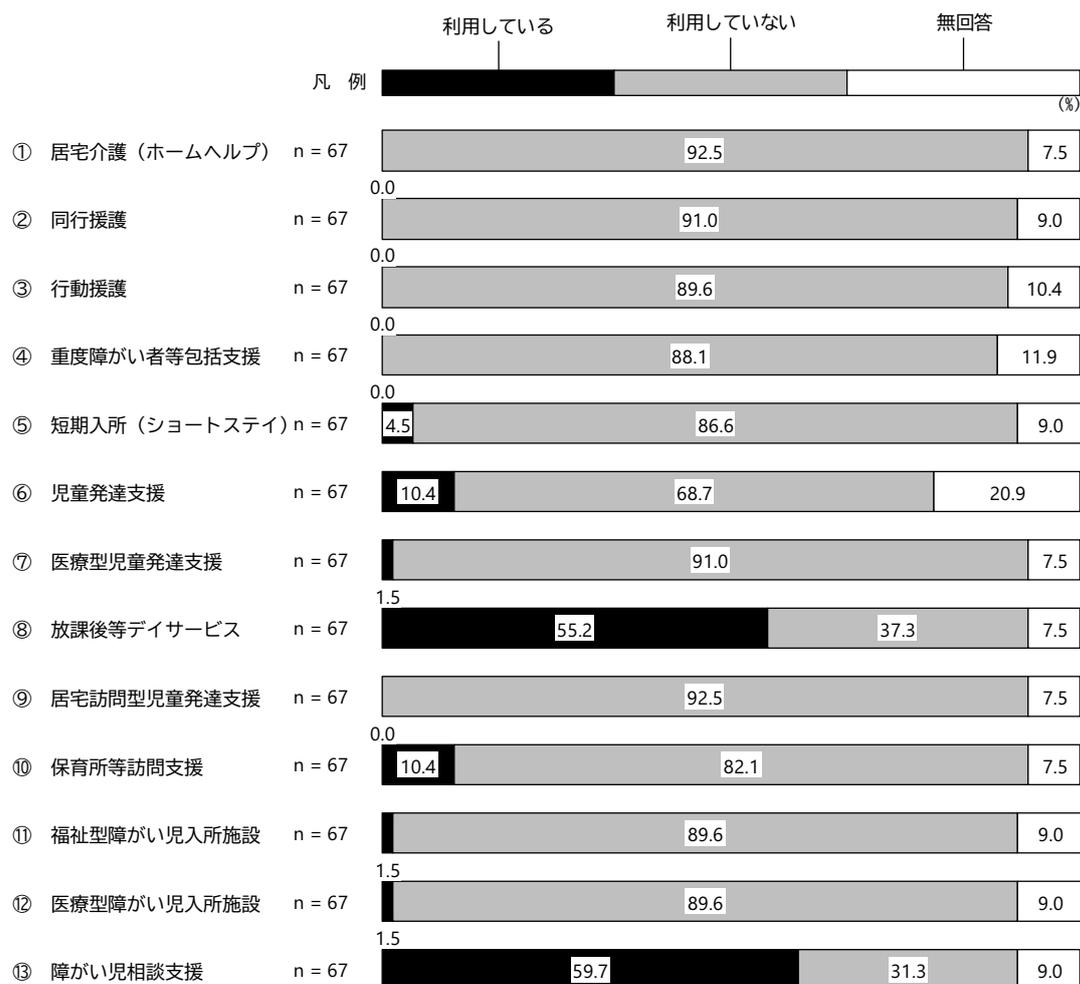


6 障がい福祉サービス等について

（１）現在の利用状況

▶ 現在利用している障がい福祉サービスについては、「⑬障がい児相談支援」が59.7%と最も高くなっている。

問 26 あなたは次のサービスを利用していますか。①から⑬のサービスごとに、お答えください。（番号に○をしてください）



(2) 障がい福祉サービスを利用しない理由

▶ 障がい福祉サービスを利用しない理由については、すべてのサービスで「サービスを受ける必要がないため」が最も高くなっている。

問 26 現在の利用で「2. 利用していない」と答えた場合、その理由をお答えください。

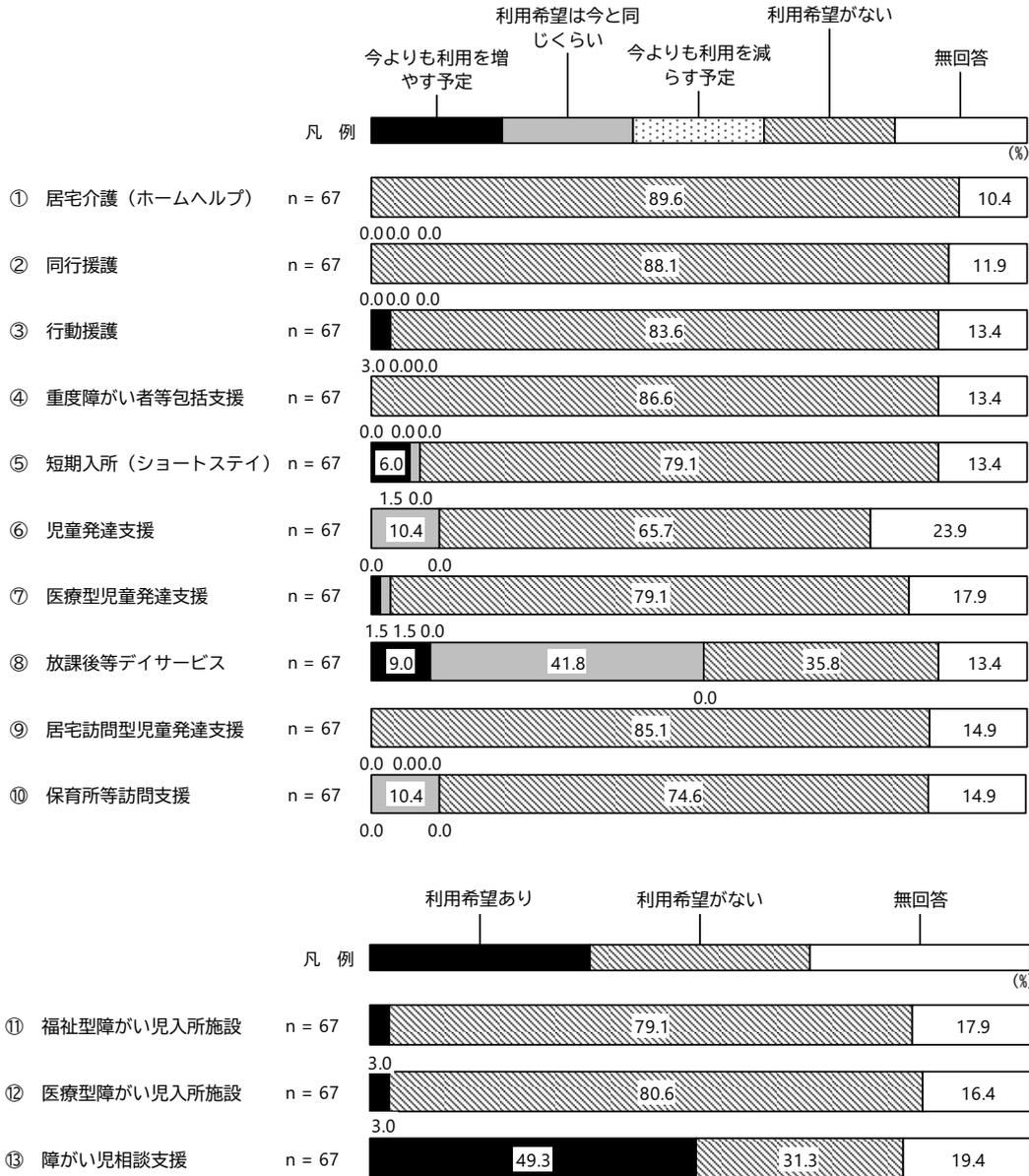
	n	(%)										
		サービスを受ける必要がないため	サービスの対象者に含まれないため	既に別のサービスの提供を受けているため	サービス利用時間の都合が合わないため	地域に相談支援事業所がないため	引き受けが見つからないため	事業所が提供する相談支援	利用料金がかかるため	サービスがあることを知らなかったため	その他	無回答
① 居宅介護（ホームヘルプ）	62	77.4	4.8	1.6	1.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14.5
② 同行援護	61	80.3	4.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14.8
③ 行動援護	60	76.7	3.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.7	3.3	0.0	15.0
④ 重度障がい者等包括支援	59	79.7	5.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.7	0.0	13.6
⑤ 短期入所（ショートステイ）	58	81.0	1.7	0.0	0.0	1.7	1.7	0.0	0.0	0.0	0.0	13.8
⑥ 児童発達支援	46	58.7	13.0	6.5	4.3	0.0	0.0	0.0	6.5	0.0	0.0	10.9
⑦ 医療型児童発達支援	61	62.3	11.5	3.3	1.6	0.0	1.6	0.0	1.6	0.0	0.0	18.0
⑧ 放課後等デイサービス	25	64.0	16.0	0.0	4.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	16.0
⑨ 居宅訪問型児童発達支援	62	62.9	12.9	1.6	0.0	0.0	0.0	0.0	6.5	0.0	0.0	16.1
⑩ 保育所等訪問支援	55	61.8	21.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.8	0.0	0.0	14.5
⑪ 福祉型障がい児入所施設	60	68.3	8.3	0.0	0.0	0.0	1.7	0.0	1.7	0.0	0.0	20.0
⑫ 医療型障がい児入所施設	60	65.0	11.7	0.0	0.0	0.0	1.7	0.0	1.7	0.0	0.0	20.0
⑬ 障がい児相談支援	21	76.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.8	4.8	0.0	14.3

Ⅲ 調査結果（障がい児調査）

（3）今後の利用意向

▶ 今後利用をしたいサービスについては、⑧放課後等デイサービスと⑬障がい児相談支援を除くすべてのサービスで「利用希望がない」が最も高くなっている。

問 26 あなたは次のサービスをこれから利用する希望はありますか。①から⑬のサービスごとに、「今後3年以内の利用希望」をお答えください。（番号に○をしてください）



（４）今後、障がい福祉サービスを利用しない理由

▶ 今後、障がい福祉サービスを利用しない理由としては、すべてのサービスで「サービスを受ける必要がないため」が最も高くなっている。

問 26 今後3年以内の利用希望で「4.利用希望がない」と答えた場合、その理由をお答えください。

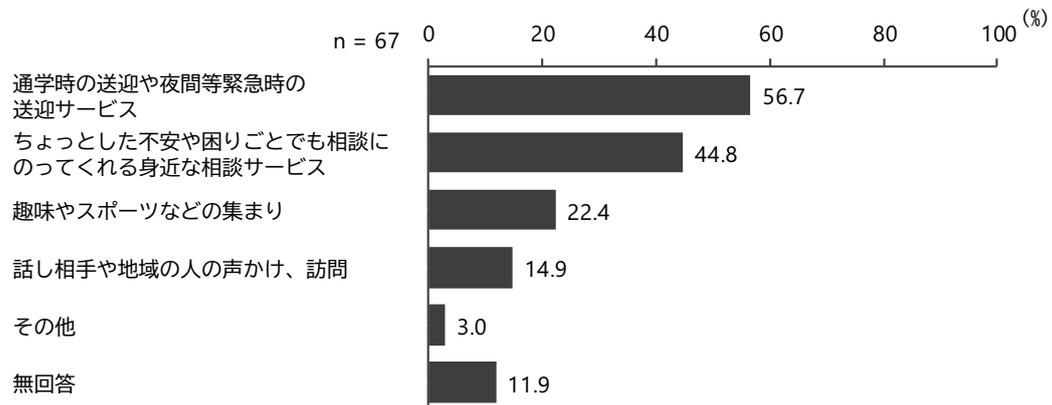
	n	いサービスを受ける必要がないため	ないサービスの対象者に含まれないため	既に別のサービスの提供を受けているため	合わないため	地域に相談支援事業所がないため	引き受けられないため	利用料金がかかるため	なかったため	その他	無回答
① 居宅介護（ホームヘルプ）	60	86.7	5.0	0.0	0.0	0.0	1.7	0.0	1.7	0.0	5.0
② 同行援護	59	84.7	6.8	0.0	0.0	0.0	1.7	0.0	3.4	0.0	3.4
③ 行動援護	56	80.4	3.6	0.0	0.0	0.0	1.8	0.0	7.1	3.6	3.6
④ 重度障がい者等包括支援	58	79.3	6.9	0.0	1.7	0.0	1.7	0.0	5.2	0.0	5.2
⑤ 短期入所（ショートステイ）	53	86.8	1.9	0.0	1.9	1.9	1.9	0.0	3.8	0.0	1.9
⑥ 児童発達支援	44	68.2	15.9	6.8	4.5	0.0	0.0	0.0	2.3	0.0	2.3
⑦ 医療型児童発達支援	53	73.6	13.2	5.7	1.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.7
⑧ 放課後等デイサービス	24	66.7	12.5	0.0	4.2	0.0	0.0	0.0	0.0	4.2	12.5
⑨ 居宅訪問型児童発達支援	57	77.2	15.8	1.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.8	3.5
⑩ 保育所等訪問支援	50	66.0	26.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	6.0
⑪ 福祉型障がい児入所施設	53	83.0	11.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.9	1.9	1.9
⑫ 医療型障がい児入所施設	54	75.9	14.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.9	1.9	5.6
⑬ 障がい児相談支援	21	81.0	9.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.8	4.8

Ⅲ 調査結果（障がい児調査）

（５）必要な支援について

- ▶ 問 26 であげたサービス以外で、特に必要な支援については、「通学時の送迎や夜間等緊急時の送迎サービス」が 56.7%と最も高く、次いで「ちょっとした不安や困りごとでも相談にのってくれる身近な相談サービス」（44.8%）、「趣味やスポーツなどの集まり」（22.4%）となっている。

問 27 問 26 であげたサービス以外で、特にどのような支援が必要だと思いますか。
（○は3つまで）

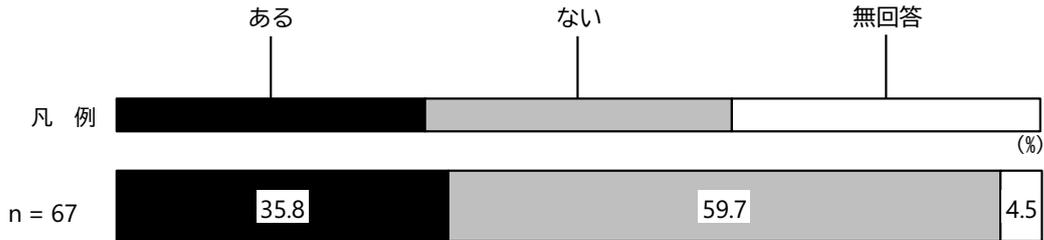


7 障がいのある方のための取り組みについて

（1）日常生活での差別や偏見について

- ▶ 2～3年の間で障がいによる差別やいやな思いをしたことについては、「ある」が35.8%、「ない」が59.7%となっている。

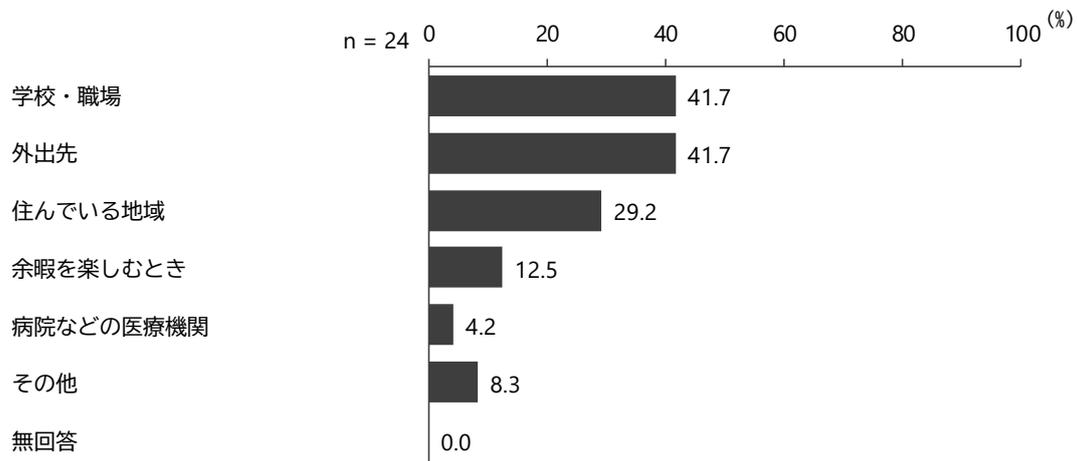
問 28 ここ2～3年の間に、あなたの障がいのために差別を受けるなど、いやな思いをしたことがありますか。（○は1つだけ）



- ▶ いやな思いをした場面については、「学校・職場」「外出先」が共に41.7%と最も高く、次いで「住んでいる地域」(29.2%)、「余暇を楽しむとき」(12.5%)となっている。

【問 28-1 は、問 28 で「1. ある」と回答した方にお聞きします】

問 28-1 どのような場面で、いやな思いをしましたか。（あてはまるものすべてに○）

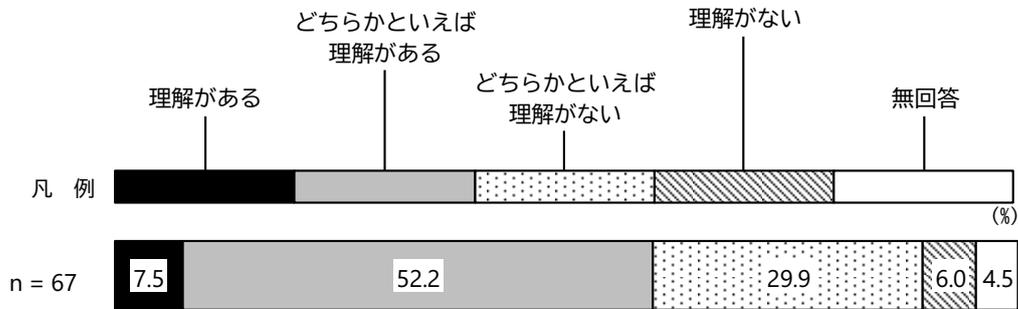


Ⅲ 調査結果（障がい児調査）

（２）障がいのある方に対するの周囲の理解

- ▶ 障がいのある方に対するの周囲の理解については、「どちらかといえば理解がある」が52.2%と最も高く、次いで「どちらかといえば理解がない」（29.9%）、「理解がある」（7.5%）となっている。

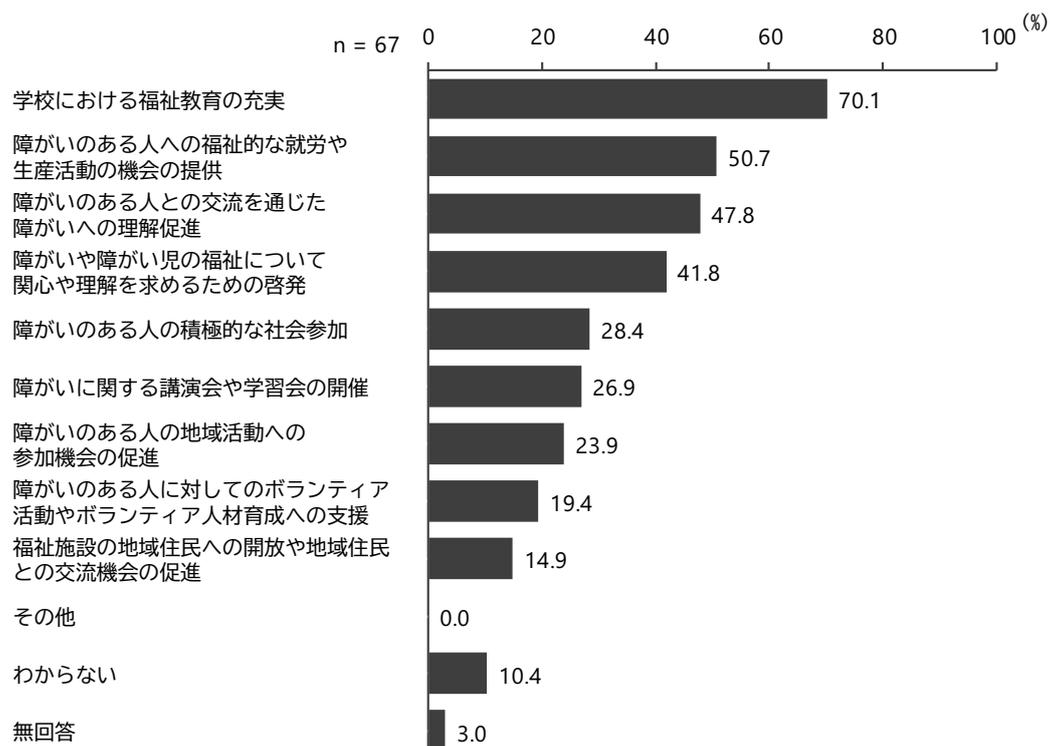
問 29 あなたは、障がいのある方に対するの周囲の理解について、どのように感じていますか。（○は1つだけ）



（３）障がい者への地域の理解を深めるために必要なこと

- ▶ 障がい者への地域の理解を深めるために必要なことについては、「学校における福祉教育の充実」が70.1%と最も高く、次いで「障がいのある人への福祉的な就労や生産活動の機会の提供」（50.7%）、「障がいのある人との交流を通じた障がいへの理解促進」（47.8%）となっている。

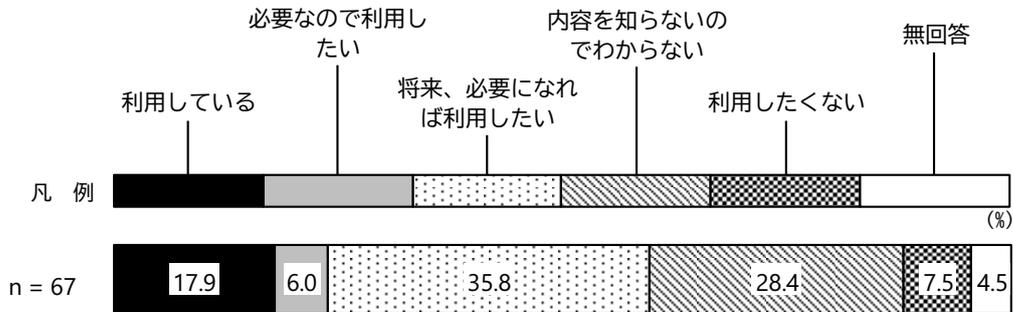
問 30 あなたは、周囲が障がいのある方を理解するために、何が必要だと感じていますか。（あてはまるものすべてに○）



（４）ヘルプマークについて

- ▶ 「ヘルプマーク」については、「将来、必要になれば利用したい」が35.8%と最も高く、次いで「内容を知らないのでわからない」(28.4%)、「利用している」(17.9%)となっている。

問31 あなたは、「ヘルプマーク」を利用していますか。(○は1つだけ)

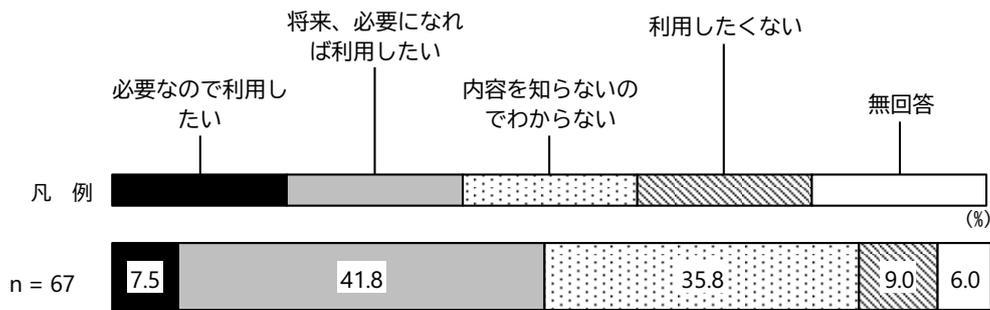


Ⅲ 調査結果（障がい児調査）

（５）成年後見制度について

- ▶ 成人後の成年後見制度については、「将来、必要になれば利用したい」が41.8%と最も高く、次いで「内容を知らないのでわからない」(35.8%)、「利用したくない」(9.0%)となっている。

問 32 あなたが成人したときに、成年後見制度を利用したいと思いますか。
(○は1つだけ)

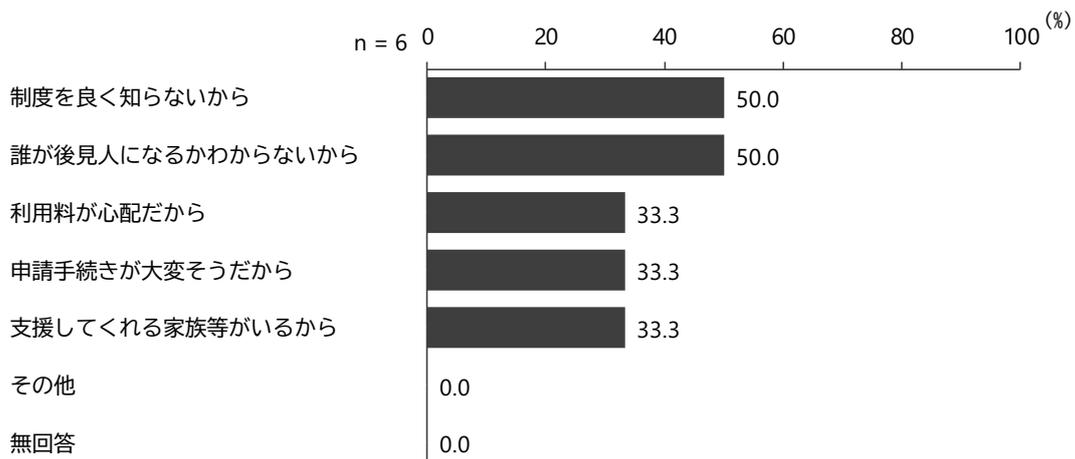


- ▶ 成年後見制度を利用したくない理由については、「制度を良く知らないから」「誰が後見人になるかわからないから」が共に50.0%と最も高くなっている。

【問 32-1 は、問 32 で「4. 利用したくない」と回答した方にお聞きします】

問 32-1 成年後見制度を利用したくない理由を教えてください。

(あてはまるものすべてに○)

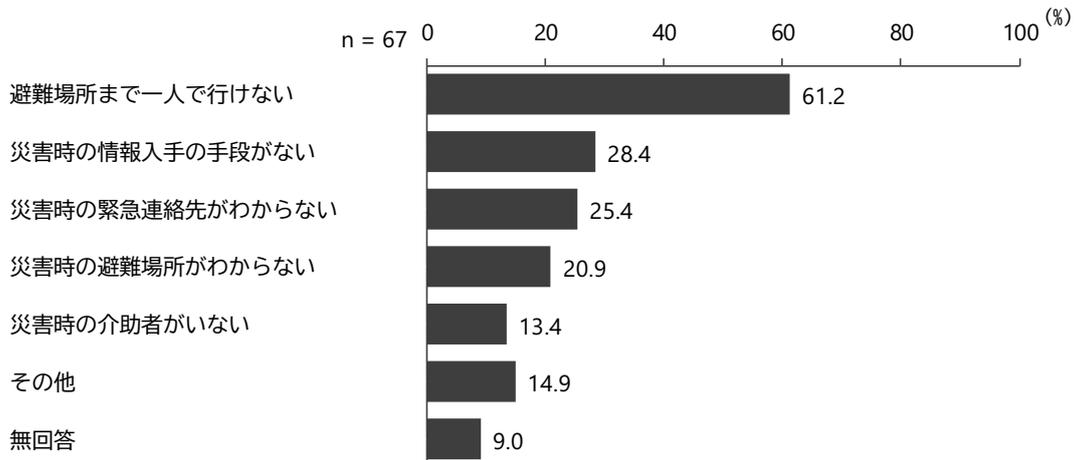


8 災害時の対応について

（1）災害発生時に困ること

- ▶ 災害発生時に困ることについては、「避難場所まで一人で行けない」が61.2%と最も高く、次いで「災害時の情報入手の手段がない」（28.4%）、「災害時の緊急連絡先がわからない」（25.4%）となっている。

問 33 あなたが、災害発生時に困ることは何ですか。（あてはまるものすべてに○）

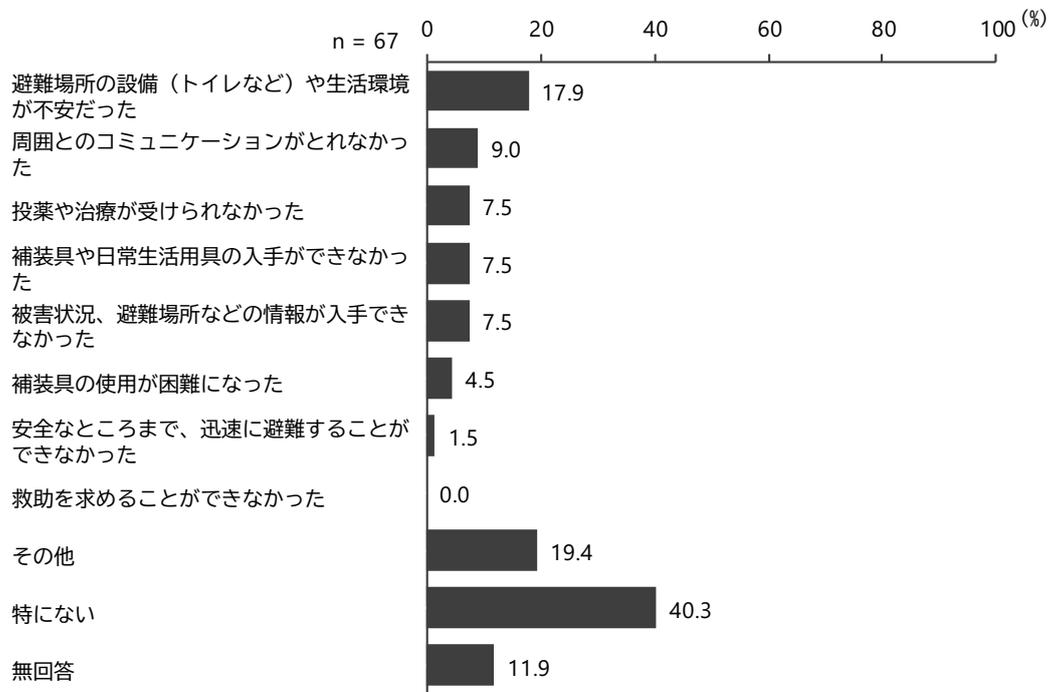


Ⅲ 調査結果（障がい児調査）

（２）東日本大震災などの災害時に困ったこと

- ▶ 東日本大震災などの災害時に困ったことについては、「避難場所の設備（トイレなど）や生活環境が不安だった」が17.9%と最も高く、次いで「周囲とのコミュニケーションがとれなかった」（9.0%）となっている。一方、「特にない」は40.3%となっている。

問 34 東日本大震災などの災害時に困ったことは何ですか。（あてはまるものすべてに○）

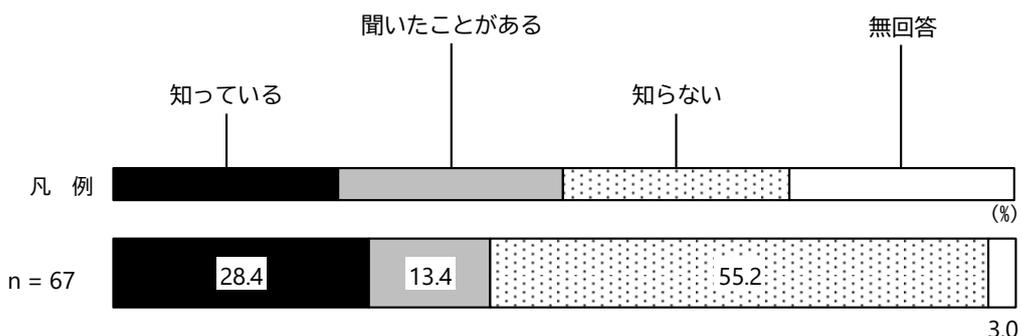


（３）避難行動要支援者制度について

- ▶ 「避難行動要支援者制度」の認知度については、「知らない」が55.2%と最も高く、次いで「知っている」（28.4%）、「聞いたことがある」（13.4%）となっている。

問 35 あなたは「避難行動要支援者制度」を知っていますか。（○は1つだけ）

※災害発生時において、避難誘導や安否の確認などが、地域において的確に行われるよう、本人の了承を得たうえで名簿に登載される制度



9 自由記述

ご意見・ご要望（自由記述）

- ▶ 障がい福祉サービス、特に送迎サービスの充実についての意見が多くみられた。

問 36 最後に、ご意見・ご要望などありましたら、ご自由にお書きください。

項目	件数
行政等の取組みについて（対応、制度、希望する施策等）	7
障がい福祉サービスについて（サービス内容、料金、利用のしやすさ等）	5
障がい者の理解	4
交通	4
アンケートについて	4
施設の充実について（入所関係を含む）	3
今後の不安（援助者がいなくなった時の不安、身体的不安等）	2
就園・就学	2
就労について	1
近況報告	1
災害時の対応	1
その他	0
特になし	0
意見数計	34

※回答者数：18人（複数回答あり）

【主な意見】 ※上位5項目

① 行政等の取組みについて（対応、制度、希望する施策等）

- ・所得制限は撤廃してほしい。様々な支援を受けることで、生きていく上での障がいが減っていくので、決してずるいわけではない。
- ・隣接校交流学習会は必要なのか疑問。障がいのある児童同士の交流が、どの程度意味のあるものなのか今の私には分からない。
- ・支援学校ではなく、支援学級を選択したことは本当によかったと思っている。障がい特性に合わせ、個別に指導、対応していただき、感謝している。様々な課題があることは承知しているが、支援学級の受け入れを拡充していただきたい。
- ・とにかく提出する書類が多く、書くのが大変です。マイナカードを普及しているのであればそれを利用し、もっと事務的手続きが減って、ICT化してほしいです。
- ・特別児童手当での申請を3月にしているのに、その結果進捗状況が全くわからない。補助金は本当に必要だと思う。送迎や必要な買い物など物価が上がっているので本当にお金がかかり、月々のガソリン代だけでもかなりの額になると思う。もう少しお金に関する支援が充実してくれると助かるし、迅速に対応してほしい。

Ⅲ 調査結果（障がい児調査）

- ・軽度の障がいですと周りからの理解が得られにくい。生きづらさを感じたり周りとの調和が困難で不登校又は引きこもりのような状態になっている方は非常に多いと思います。特に社会人になってからの引きこもりは外出がより困難になっているように思います。そのようになった方の居場所や心の処り所があった方がいいと思います。通所システムを利用していないが、発達障がいのある子は、どこに相談できる地域窓口があるのでしょうか？利用の仕方について理解しにくいなと思うこともあります。

② 障がい福祉サービスについて（サービス内容、料金、利用のしやすさ等）

- ・支援学校の登校時間が遅い&送迎をしなければならないことが、家族にとって負担となっています。市内に、朝送迎をしてくれる事業所が少なく、車イス利用となるとさらに選択肢はありません。家族にも、仕事があります。送迎サービスができる場所がもっと増えて、気軽に利用できる世の中になってほしいです。
- ・就労継続支援B型や生活介護など、多機能施設を増やして頂きたい。学校で高等部卒業後の進路説明会が毎年行なわれますが、「どこも定員いっぱい」との内容ばかりで進展がありません。「希望は叶わない確率が高い」と聞いて「はいそうですか」と納得する親がどこにいるのでしょうか。学校と違い、施設には卒業が無い訳ですから、これからの障がいを背負った子供たちの未来はどうなってしまうのでしょうか。どこにも行き場が無くなってしまいます。是非、障がい児（者）福祉について、更に力を注いで頂きたいです。
- ・花巻から盛岡へ通学しているが送迎が大変なため、通学の送迎を手伝ってくれるサービスがあると助かる。
- ・現在特別支援学校小学部に通っています。登校は車で毎日送迎しています。支援学校も支援学級も朝の登校時間が決まっています。朝の送迎サービスを行っている事業所が少ないため働いている親は就業時間を変えたり、仕事を辞めなければなりません。障がい児を育てている親も正社員で働けるように支援があるといいなと思います。

③ 障がい者の理解について

- ・身近に、障がいのある方がいる社会が大切だと思う。インクルーシブ公園、インクルーシブ教育などをすすめてほしい。どんどん取り入れることで理解が深まっていくと思う。
- ・現在も障がい者に対する、一般の方の理解は少ないと思います。差別的な目で見られる事も少なくはありません。少しでも障がいのある方々が、過ごしやすい世の中になれば良いとは、思いますが、理解を求めるのは難しいのかな、と感じます。
- ・地域の小・中学校と支援学校について、小学校だけでも地域の子供と通学し学べるようになってほしいです。子供同士で通じあえるものがあるし、自然と手伝ってあげたり、仲間意識がでてきて、成長につながるものがあります。社会に出てからバリアフリーだとか、多様性とか言われても大人になってからの受け入れは難しいです。今の教育が100%正しいものであればいじめも差別も不登校もないはずで。生きづらさの人達はたくさんいます。障がいの有無に限らず、災害時はみなさんパニックになるし、不安が増します。行政の方々の支援、発信は非常に感謝しています。みなさんと助けあう、やさしい世の中になればいいと思っています。いつもありがとうございます。

④ 交通について

- ・放課後等児童デイサービスも、街の中心部には増えてきているようですが、離れた地域に住んでいると「利用が難しい」と言われてしまったり、「送迎困難」と言われてしまいます。仕事を持つ親が、毎日下校時に迎えに行き放デイへ送り届けることは不可能です。現状を把握して頂き、放デイの充実も望みます。※我が家は、花巻市内の放デイに空きが無く、北上市の放デイを利用している状況です。北上市では送迎等が手厚いですが、この差はいかかなもののでしょうか。できれば、市内の近場の放デイを利用したいです。

⑤ アンケートについて

- ・今回の様に、大きな郵便で“障がい福祉課”等と書かれているのは困る。プライバシーに関わってくるのだと思う。正直、不快。障がいのある方の家族は周りの目を気にしながら、何も悪い事をしていなくても、常に謝りながら生活しています。だから、そういった配慮が必要だと思う。
- ・このようなアンケートも、QRコードなどでスマホでできるようにシステム化してほしいです。
- ・アンケートをとり、どのように活用し、どのように取り組むか、取りこもうと思うかまでの報告もほしい。福祉の制度は、わからない人も多いし、こちらからいかないと手にはすることはできない。もちろん手帳をすすめられることを嫌がる方もいるかもしれないが、もっと啓発してもいいのではないかと思う。

※掲載した意見は原文を基本としているが、固有名詞が含まれている場合や長文の場合などは、一部省略して掲載

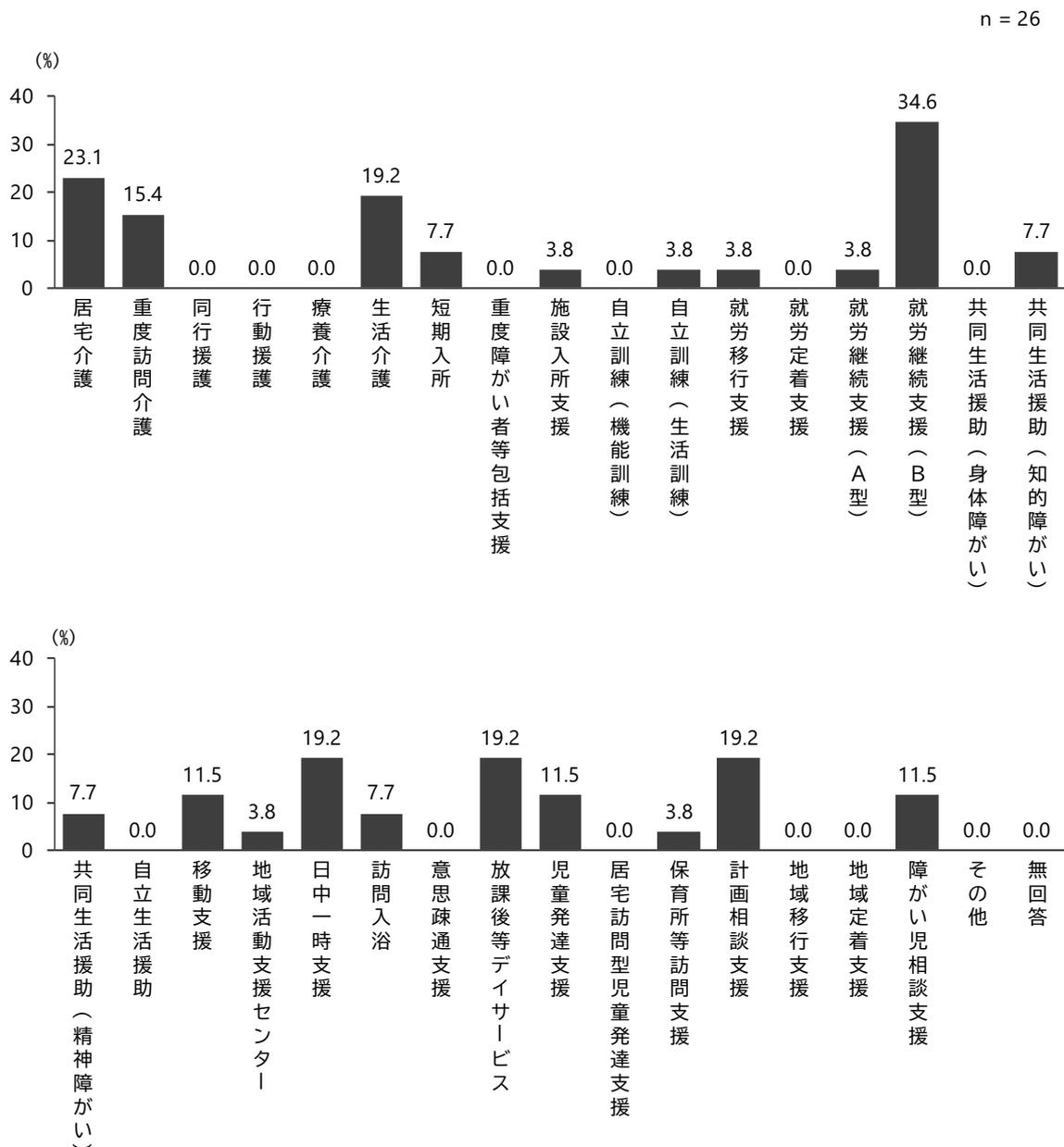
IV 調査結果（事業所調査）

1 事業所の活動内容等について

（1）事業所で行っている障がい福祉サービスについて

- ▶ 現在行っている障がい福祉サービスについては、「就労継続支援（B型）」が34.6%と最も高く、次いで「居宅介護」（23.1%）、「生活介護」「日中一時支援」「放課後等デイサービス」「計画相談支援」（共に19.2%）となっている。

問2 現在、貴事業所で行っている障がい福祉サービスは次のうち、どれに該当しますか。
（あてはまるものすべてに○）



(2) 1日の定員と平均利用者数について

▶ 障がい福祉サービスの1日の定員と平均利用者は次の通りとなっている。

問3 問2の障がい福祉サービスについて、1日の定員と平均利用者数はおよそ何人ですか。それぞれのサービスごとにお答えください。

■ 1日の定員（1施設当たり平均）

	定員		利用者数	
	n	（1施設当たり平均）	n	（1施設当たり平均）
居宅介護	2	5.0	4	2.4
重度訪問介護	-	-	2	0.0
生活介護	5	21.2	5	15.5
短期入所	1	4.0	1	1.1
施設入所支援	1	46.0	1	43.6
自立訓練（生活訓練）	1	10.0	-	-
就労移行支援	1	6.0	-	-
就労継続支援（A型）	1	20.0	1	18.0
就労継続支援（B型）	8	23.9	7	22.3
共同生活援助（知的障がい）	-	-	1	11.0
共同生活援助（精神障がい）	-	-	1	3.0
移動支援	-	-	1	0.2
地域活動支援センター	1	25.0	1	21.5
日中一時支援	3	11.0	3	2.1
放課後等デイサービス	4	10.0	4	7.6
児童発達支援	2	15.0	2	11.5
計画相談支援	1	1.0	1	2.0

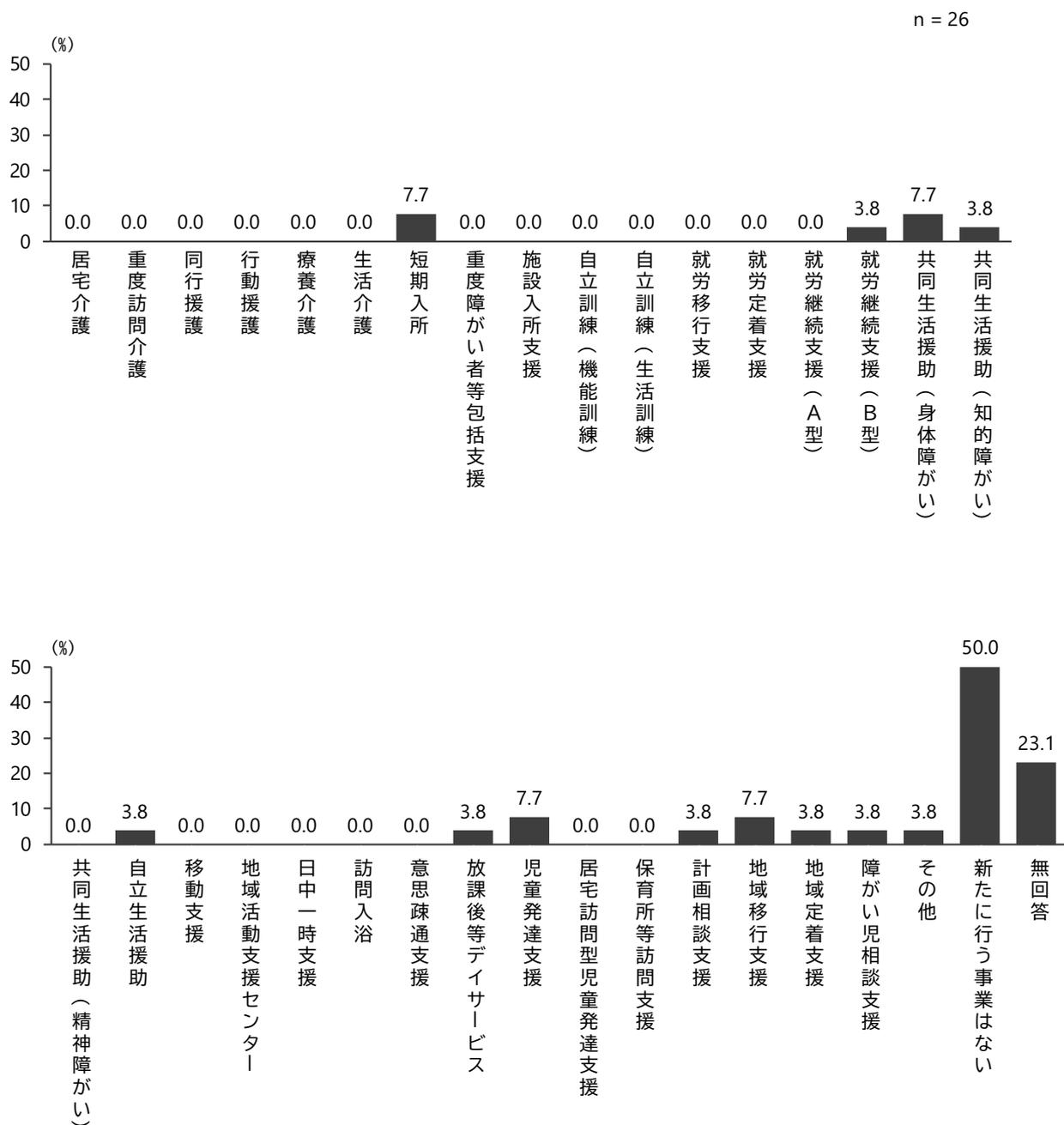
※いずれのサービスも調査数（n）が少ないため参考値として掲載

IV 調査結果（事業所調査）

（3）今後、新たに行いたい・予定している障がい福祉サービスについて

- ▶ 今後、新たに行いたい（予定している）障がい福祉サービスについては、「短期入所」「共同生活援助（身体障がい）」「児童発達支援」「地域移行支援」が共に 7.7%と最も高くなっている。
- 一方、「新たに行う事業はない」は 50.0%となっている。

問4 今後、貴事業所で新たに行いたいと考えられている、または予定している障がい福祉サービスはありますか。（あてはまるものすべてに○）

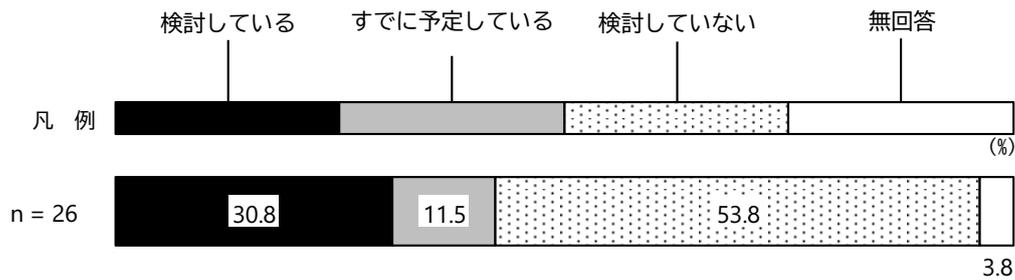


（４）施設の拡大や改修、整備等の検討について

- ▶ 施設の拡大や改修、整備等の検討の状況については、「検討していない」が53.8%と最も高く、次いで「検討している」(30.8%)、「すでに予定している」(11.5%)となっている。
- ▶ 施設の拡大や改修、整備等の予定実施時期と具体的な内容については、施設の屋根や外壁などの改修工事を予定している等の意見があった。

問5 今後、貴事業所では施設の拡大や改修、整備等を検討していますか。

（○は1つだけ）

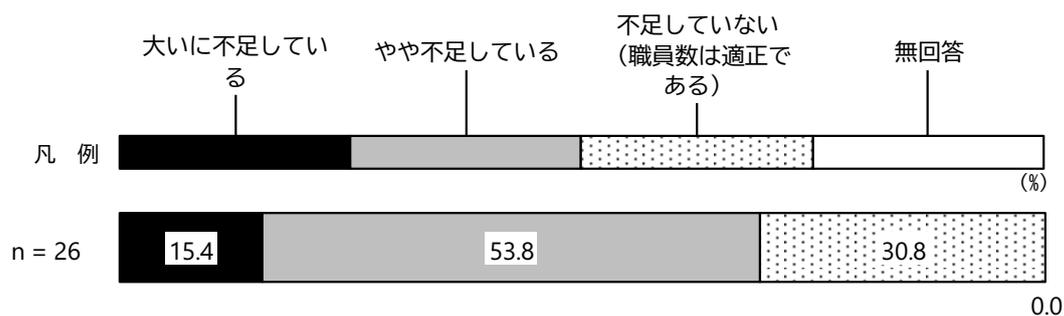


2 事業所の運営等について

（1）職員の充足状況について

- ▶ 職員の充足状況については、「やや不足している」が53.8%と最も高く、次いで「不足していない（職員数は適正である）」（30.8%）、「大いに不足している」（15.4%）となっている。

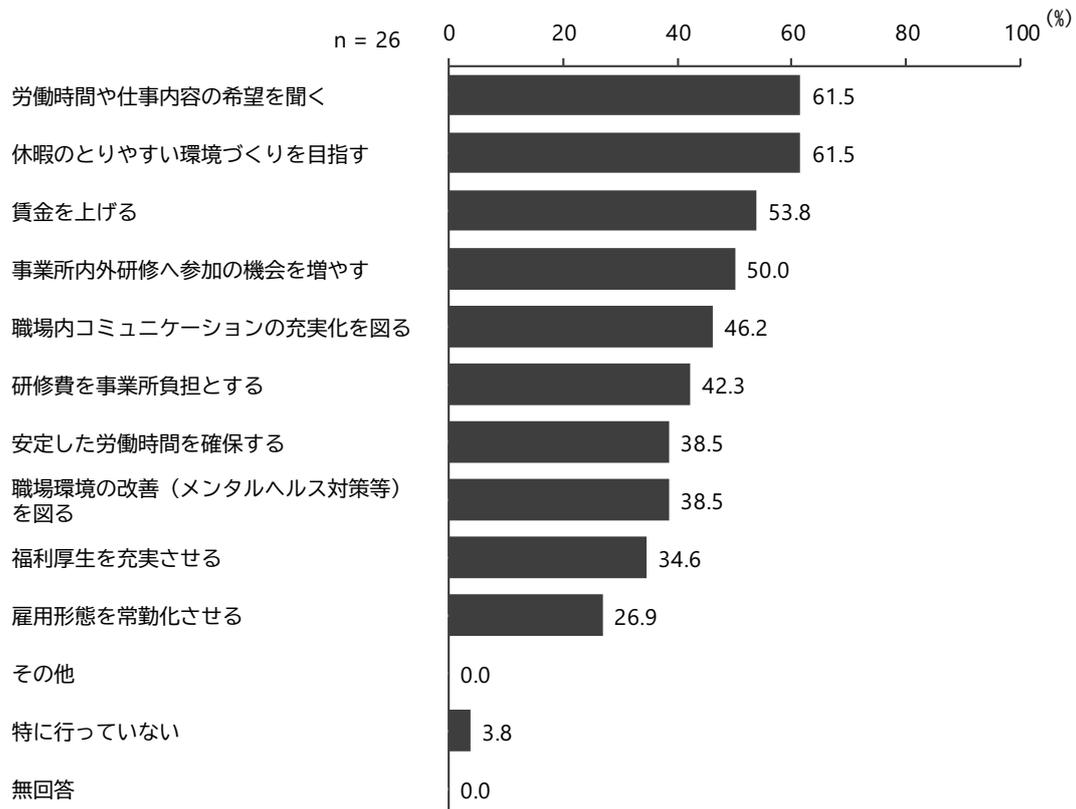
問6 貴事業所における、職員の充足状況をお答えください。（○は1つだけ）



(2) 職員の定着について

- ▶ 職員の定着を図るために行っている取り組みについては、「労働時間や仕事内容の希望を聞く」「休暇のとりやすい環境づくりを目指す」が共に61.5%と最も高く、次いで「賃金を上げる」(53.8%)、「事業所内外研修へ参加の機会を増やす」(50.0%)となっている。

問7 貴事業所では、職員の定着を図るためにどんな取り組みを行っていますか。
(○は1つだけ)



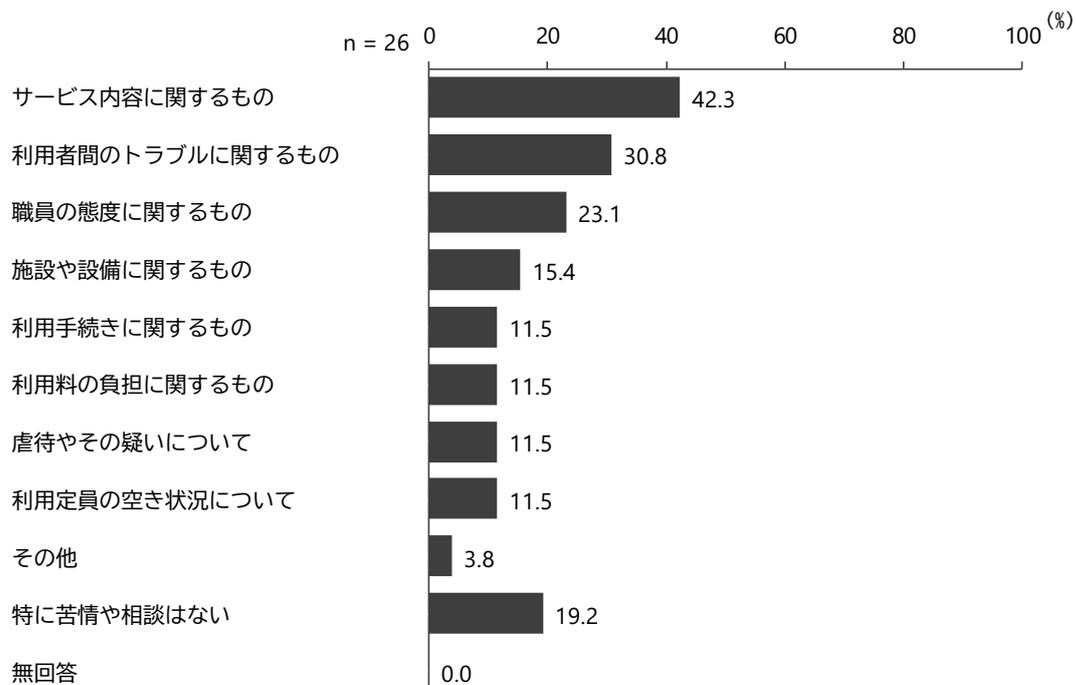
IV 調査結果（事業所調査）

（3）利用者からの苦情や相談について

- ▶ 利用者からの苦情や相談の内容については、「サービス内容に関するもの」が42.3%と最も高く、次いで「利用者間のトラブルに関するもの」（30.8%）、「職員の態度に関するもの」（23.1%）となっている。

問8 利用者からの苦情や相談はどのようなものがありますか。

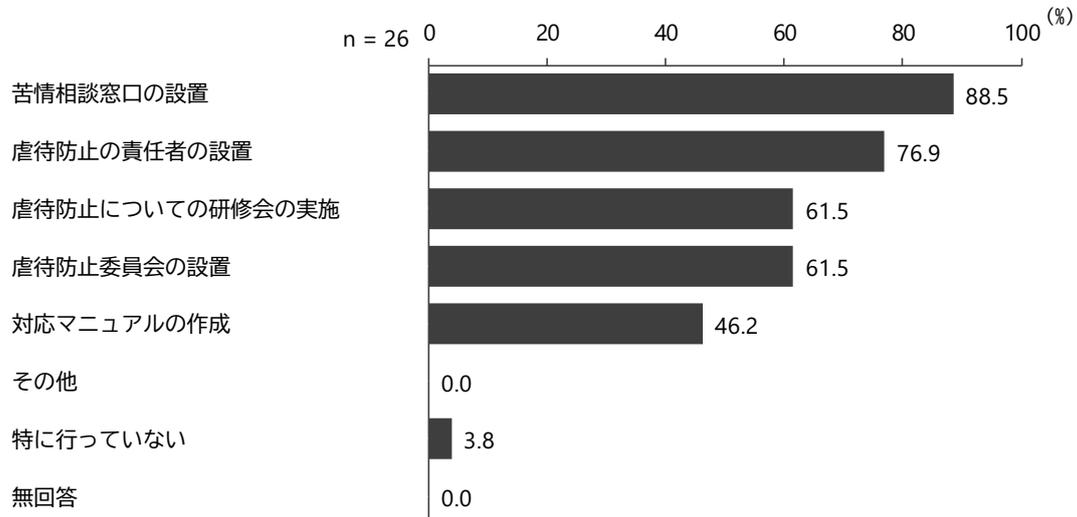
（あてはまるものすべてに○）



（４）障がい者虐待防止の取り組みについて

- ▶ 障がい者虐待防止の取り組みについては、「苦情相談窓口の設置」が 88.5%と最も高く、次いで「虐待防止の責任者の設置」(76.9%)、「虐待防止についての研修会の実施」「虐待防止委員会の設置」(共に 61.5%)となっている。

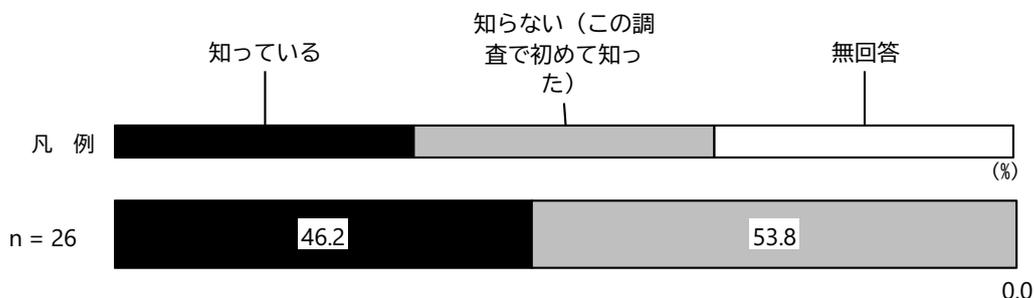
問9 貴事業所では、障がい者虐待防止についてどんな取り組みを行っていますか。
(あてはまるものすべてに○)



（５）改正障害者差別解消法の民間事業者の「合理的配慮」の認知度について

- ▶ 「合理的配慮」の提供が法的義務となることの認知度については、「知らない（この調査で初めて知った）」が 53.8%、「知っている」が 46.2%となっている。

問10 令和3年に成立した改正障害者差別解消法において、令和6年4月1日から民間事業者の「合理的配慮」の提供が法的義務となることが決まりました。このことを知っていますか。(○は1つだけ)

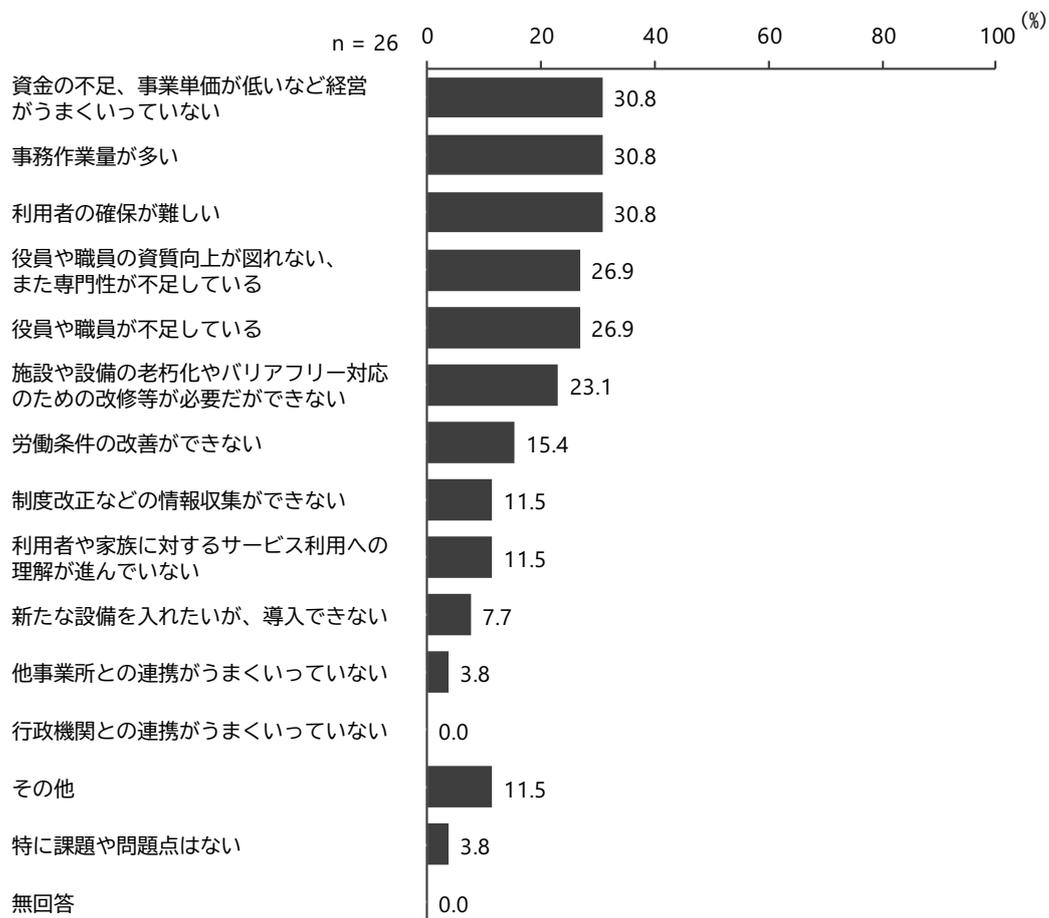


IV 調査結果（事業所調査）

（6）運営上の課題や問題点について

- ▶ 運営上の課題や問題点については、「資金の不足、事業単価が低いなど経営がうまくいっていない」「事務作業量が多い」「利用者の確保が難しい」が共に 30.8%と最も高くなっている。

問 11 貴事業所では、運営上どのような課題や問題点があるとお考えですか。
（主にあてはまるものに3つまで○）

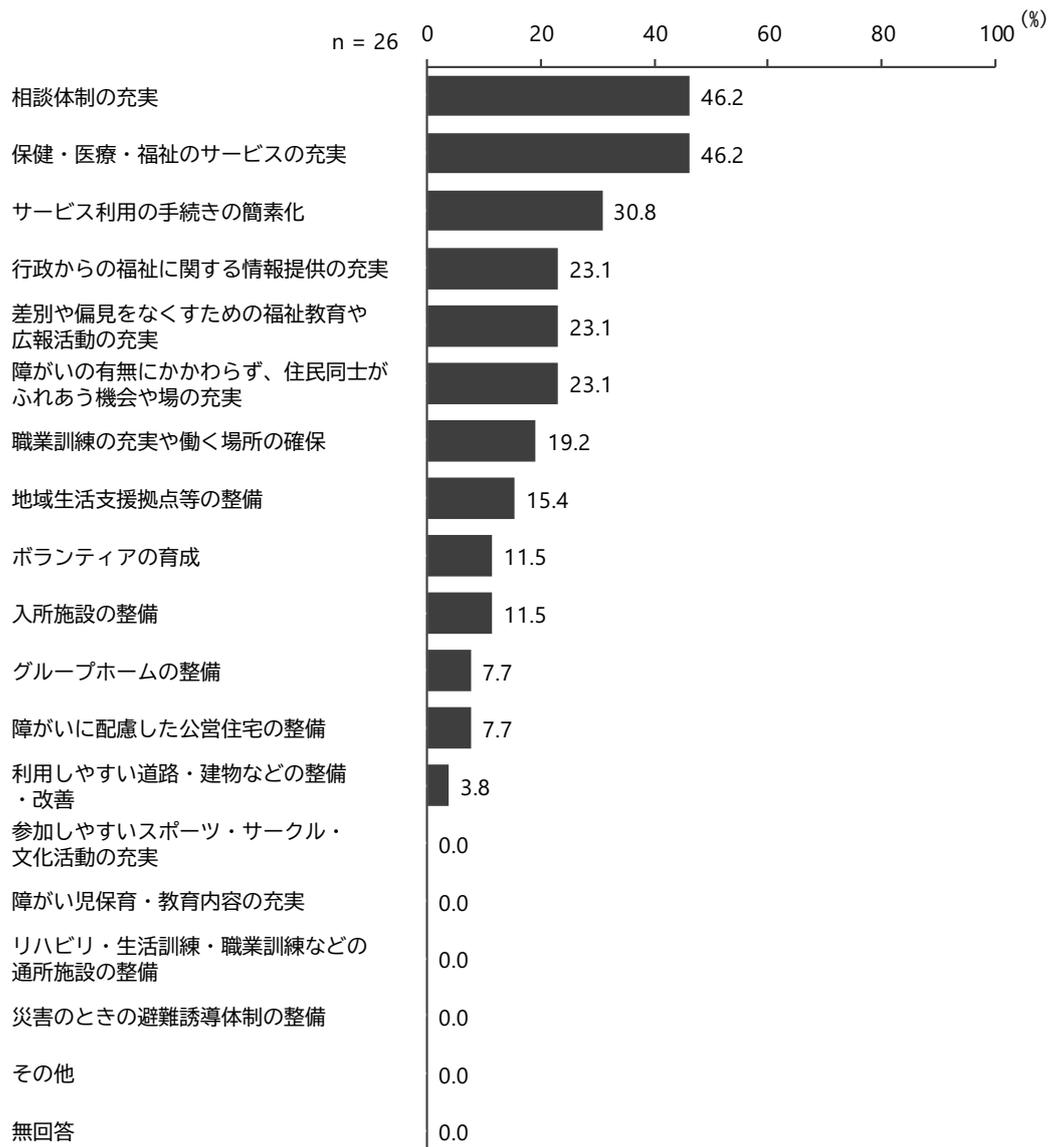


3 花巻市の障がい福祉施策について

（１）住みなれた地域の中で安心して生活ができるために必要なこと

- ▶ 障がい者が住み慣れた地域で安心して生活できるまちづくりに必要なことについては、「相談体制の充実」「保健・医療・福祉のサービスの充実」が共に 46.2%と最も高く、次いで「サービス利用の手続きの簡素化」（30.8%）となっている。

問 12 障がいのある方が住みなれた地域の中で安心して生活ができるまちをつくるために、どのようなことが必要だと考えますか。（主なもの3つまで○）



IV 調査結果（事業所調査）

（２）市における障がい者保健・福祉についての要望等（自由記述）

▶ 行政に対する支援・要望や、職員の雇用などに関する意見がみられた。

問 13 花巻市の障がい福祉施策について、ご意見・ご要望・その他ご自由にお書き下さい。

【主な意見】

- ・障がい区分の設定や強度行動障がいの認定等、他の市町村に比べ、厳しいと感じている。利用者の安定した活動には、手厚い支援体制が必要と考えており、職員の給与等もっと上げたいのだが、現状の給付金では、一般企業並みの報酬は与えることは出来ない。適性な区分設定と給付金額のUPを望む。
- ・花巻市地域自立支援協議会、所掌事務第3条第1項に「標記計画の策定に関すること」があることから、20名の構成員で計画的にアクションプランを策定することが望ましい。
- ・花巻市社会福祉協議会主催で「各地区地域福祉懇談会」を実施し、地域の強みや弱みそして福祉課題を見える化し、地域住民が主体的に取り組むアクションプラン作りを実施していることから、花巻市障がい福祉施策の一助として、ご検討下さい。
- ・日中一時支援事業の補助基準額を、単独で事業運営できる額まで引き上げて欲しいです。ニーズもあり必要なサービスであるにも関わらず、現行の基準額では単独事業としては赤字となっています。
- ・概ね、障がい福祉サービスについては、安定供給ができている反面、公共交通や交通手段の不足から、サービス利用等への足かせとなっている。特に就労（障がい者の一般就労を含む）については、障がい者求人等はあるものの、通勤が難しいことから、能力があれどあきらめなければならないことがほとんどである。表面上のサービスは拡充しても（就労系）、そこから先の現実社会との壁（仕事をする力はあっても、通えない等）の方が問題は大きい。花巻市だけの問題ではないが、福祉サービス従事者の年収が低いと、有望な職員（男性）が育たない。福祉サービスの年収では、家庭を持って生活していくことが困難なケースも多く、決して「やりがい」だけではやっていけない仕事となっている。現実として、副業や在宅ワーク等をしながら、本業の福祉をやっている従業員も多い。社会的に必要不可欠な職種であるならば、それに携さわる人材の収入や生活の質にもこだわった施策を実現していただきたいと思う。
- ・行政と事業所はもとより、各土業、関係機関の連携が図られ、他地域と並べて充実した社会資源を有していると思われます。事業所の多さは新設しやすい環境、地域における障がい理解が進んでいることがうかがえます。成年後見の利用率も隣接市より高く、将来に渡って安心して暮らせる仕組みづくりが進んでいる印象です。行政職員の対応、スキルも高いと感じています。
- ・情報の共有と個人情報の保護のバランスが難しいと思っています。

花巻市 福祉に関するアンケート調査
調査結果報告書

令和6年3月

花巻市 保健福祉部 障がい福祉課
